

# 2017年度 JICA 横浜 教師海外研修報告書

研修国：ブラジル連邦共和国



ブラジル日本移民の原点ともいえるサントスにある日本移民ブラジル上陸記念碑  
撮影：2017年度教師海外研修参加者

独立行政法人国際協力機構  
横浜国際センター（JICA 横浜）

# 目次

## 教師海外研修について

教師海外研修とは	1
教師海外研修の流れ	2
海外研修国の概要	3
参加者一覧	4
海外研修日程	5
参加者の訪問先所感	6

## 実践報告

### 小学校(4名)

宇住庵 香織 (茅ヶ崎市立小和田小学校)	16
「世界から自分を知ろう ～異文化理解～」	
栢原 莉沙 (横須賀市立鶴久保小学校 特別支援学級)	38
「せかい」	
柴田 浩行 (横浜市立神大寺小学校)	50
「世界で満開!とびだせ6の4 ～ブラジル編～」	
塚本 靖則 (横浜市立岡津小学校)	61
「水でつながるわたしたちの地球 ～横浜の阿久和川とサンパウロのチエテ川～」	

### 中学校・特別支援学校中学部(3名)

池田 奈都希 (横浜市立松本中学校)	76
「多文化共生 ～世界の中の私たち～」	
池野 絵美 (横浜市立港南台ひの特別支援学校)	84
「オッチモ!ブラジルを楽しもう!」	
露崎 麻沙夫 (横浜市立本宿中学校)	93
「ジャポネス・ガランチード 信頼される日本人 ～ブラジル研修における日系人との出会いを通して～」	

### 高校(3名)

岩崎 大輔 (神奈川県立磯子工業高等学校 定時制)	116
「ブラジル日系社会・移民・世界について考えよう」	
小沢 智子 (山梨県立甲府城西高等学校)	138
「『移民』を教材化する第一歩 ～修学旅行の事前学習の一環として～」	
北見 朋子 (神奈川県立鶴見総合高等学校)	151
「SDGsを通して世界と繋がる ～Lesson 7 A Microcosm in the Sea～」	

※この報告書に掲載されている意見は、本研修参加者によるものであり、JICAを代表するものではありません。

※参加者の所属等は、2017年度のものであります。

# 教師海外研修とは

## 1. 教師海外研修の目的

本研修は、国際理解教育や開発教育に熱心に取り組んでいる神奈川県・山梨県の教員や教育委員会指導主事等の皆さんを対象に、実際に開発途上国を訪問することで、開発途上国が置かれている現状や国際協力の現場、開発途上国と日本との関係に対する理解を深め、その成果を、学校現場等での授業実践等を通じて、次代を担う児童・生徒の教育に役立ててもらうことを目的としています。研修参加後は、JICA 国内機関と協力し、教育現場で開発教育を推進する中核となるような人材となってもらうことを期待しています。

## 2. 研修概要

本研修は、開発途上国の社会・教育事情や開発途上国で行われている様々な国際協力活動の現場視察（海外研修）と、海外研修の前後に行う国内研修（事前／事後）の 2 つのプログラムから成っています。国内研修（事前）では、海外研修への準備としてワークショップ体験、素材収集の方法・教材研究等を学びます。国内研修（事後）では、他の研修参加者と協働して開発教育の教材づくりに挑戦します。その成果（教材）を駆使しての実践授業を通じて、同じ関心をもつ多くの教員の方々と貴重な経験と成果を共有することを目指します。全ての研修のしめくくりとして、実践授業の報告発表会を実施します。

## 3. 応募資格

神奈川県と山梨県の学校現場で国際理解教育・開発教育に取り組んでいる、または関心を持ち、国内・海外の研修および報告会の全日程に参加可能な教員等で、所属長の推薦が得られる方。

## 4. 海外研修期間

2017年8月6日（日）～8月19日（土）

# 研修の流れ

## 国内事前研修

### 第1回～第4回 @JICA 横浜

【日程】2017年8月26日(土)

【日程】事前①:2017年6月24日(土)

事前②:2017年7月1日(土) ※開発教育教員セミナー(基礎編)

事前③:2017年7月15日(土)

事前④:2017年7月29日(土)～7月30日(日)

【内容】・本研修概要・派遣国・視察先の説明

- ・海外研修準備(渡航手続き、健康・安全管理、素材収集の方法)
- ・前回参加教員との交流
- ・開発教育のワークショップの体験
- ・教材研究の方法

## 海外研修 @ブラジル連邦共和国

【日程】2017年8月6日(日)～8月19日(土)

【内容】教材研究のための素材収集

## 国内事後研修

### 第1回 @JICA 横浜

【日程】2017年8月26日(土)

【内容】・研修先で得た素材の整理

- ・教材・授業案作成

### 第2回 @各所属先

【日程】2017年9月～12月

【内容】各所属先における授業実践等

### 第3回 @JICA 横浜

【日程】2018年1月6日(土)～2018年1月7日(日) ※開発教育教員セミナー(応用編)

【内容】・開発教育のワークショップの体験

- ・参考事例発表
- ・教材研究の方法

### 第4回 @JICA 横浜

【日程】2018年2月4日(日)よこはま国際フォーラム 2018

【内容】実践授業の報告発表会

## 海外研修国の概要



### ブラジル連邦共和国

(Federative Republic of Brazil)

**首都:** ブラジリア

**面積:** 851.2万平方キロメートル(日本の22.5倍)

**人口:** 約2億784万人(世銀、2015年)

**民族:** 欧州系(約48%)、アフリカ系(約8%)、アジア系(約1.1%)、混血(約43%)

**言語:** ポルトガル語

**宗教:** カトリック約65%、プロテスタント約22%、無宗教8%

(ブラジル地理統計院、2010年)

**政体:** 連邦共和制(大統領制)

**主要産業:** 製造業、鉱業(鉄鉱石他)、農牧業(砂糖、オレンジ、コーヒー、大豆他)

**GNI:** 1兆7,747億米ドル(2015年:世銀)

**一人当たりのGDP(名目):** 8,538米ドル(2015年:世銀)

**経済成長率:** 2.3%(2013年)、0.1%(2014年)、-3.8%(2015年)、-3.6%(2016年)

(実質GDP、ブラジル地理統計院)

**通貨:** レアル

**日本の援助実績:** (1)有償資金協力 499.96億円(2011年度、E/Nベース)

(2)無償資金協力 0.83億円(2014年度、E/Nベース)

(3)技術協力 18.18億円(2014年度、JICAベース)

**主要援助国(2013年:支出総額、OECD/DAC):**

ノルウェー(678.70百万ドル)

ドイツ(263.02百万ドル)

フランス(122.74百万ドル)

日本(96.03百万ドル)

英国(29.71百万ドル)

**在留邦人数:** 53,400名(2016年10月現在)(長期滞在者:3,895人、永住者:49,505人)

(日系人総数推定 約190万人)

**在日ブラジル人数:** 約18万1千人(2016年12月在留外国人統計)

(外務省ホームページより)

## ■参加者一覧

No.	氏名	参加形態	勤務先	教科/学年
1	いけだ なつき 池田 奈都希	参加者	横浜市立松本中学校	保険体育 3年
2	いけの えみ 池野 絵美	参加者	横浜市立港南台ひの特別支援学校	中学部 1年
3	いわさき だいすけ 岩崎 大輔	参加者	神奈川県立磯子工業高等学校	国語 3年
4	うじゅうあん かおり 宇住庵 香織	参加者	茅ヶ崎市立小和田小学校	3年
5	おざわ ともこ 小沢 智子	参加者	山梨県立甲府城西高等学校	地理歴史（日本史） 2年
6	かきはら りさ 柿原 莉沙	参加者	横須賀市立鶴久保小学校	特別支援学級 2～6年
7	しばた ひろゆき 柴田 浩行	参加者	横浜市立神大寺小学校	6年
8	つかもと やすのり 塚本 靖則	参加者	横浜市立岡津小学校	5年
9	つゆざき あさふ 露崎 麻沙夫	参加者	横浜市立本宿中学校	社会 2年
10	きたみ ともこ 北見 朋子	参加者	神奈川県立鶴見総合高等学校	外国語（英語） 2年
11	おーどらん もえ オードラン 萌	同行者	JICA 山梨デスク 国際協力推進員	
12	ふくだ くにひさ 福田 訓久	同行者	株式会社メディア総合研究所	

## ■ 海外研修日程 研修国：ブラジル

日時			活動	内容	宿泊地	
1	8月6日	日	午前	羽田空港		サンパウロ
		午後	サンパウロ着	ホテルへ移動		
2	8月7日	月	午前	安全・事業ブリーフィング@サンパウロ出張所 リベルダーヂ地区散策		サンパウロ
		午後	浅木シニアボランティアによる国際理解教育推進のための 実践報告帰国研修員との交流@サンパウロ出張所			
3	8月8日	火	午前	奄美事務所訪問	施設視察、現地の先生たちとの意見交換	サンパウロ
		午後	ピオネイロ学園(日本語教室)訪問	授業視察、教師との意見交換		
4	8月9日	水	午前	カサパーバ公立小学校訪問	3年生の環境課外授業視察	サンパウロ
		午後	【草の根技術協力】LFC- Casa do Cirilo 訪問	施設視察、先生方・生徒との交流、先生方との意見交換		
5	8月10日	木	午前	【草の根技術協力】PIPA / 日伯病院 訪問	自閉症児支援の視察	サンパウロ
		午後	日本移民資料館 訪問 中間振り返り	見学		
6	8月11日	金	午前	コーヒー博物館 訪問		サンパウロ
		午後	サントス厚生ホーム訪問・交流 【円借款】オングダリンパ事業 視察 日本移民上陸記念碑、移住 100 周年モニュメント 訪問			
7	8月12日	土	午前	サンパウロ→マナウス移動		マナウス
		午後	【技術協力(科学技術)】INPA(国立アマゾン研究所) 西部アマゾン日伯協会 訪問	フィールドミュージアム事業視察、INPA 内森林散策		
8	8月13日	日	午前	マナウス市営市場 散策		マナウス
		午後	アマゾン河 視察			
9	8月14日	月	午前	【ボランティア:現職教員】Josephina de Mello 校 訪問		サンパウロ
		午後	マナウス→サンパウロ 移動			
10	8月15日	火	午前	【技術協力】ロータリー交番 視察 サンパウロ市営市場 視察		アチバイア
		午後	サンパウロ→アチバイア市 移動 【ボランティア:野球・ソフトボール】 アチバイア日伯文化体育協会(NJV2 名配属先) 視察	活動視察		
11	8月16日	水	午前	現地私立学校 訪問・交流		アチバイア (ホームステイ)
		午後	日系人家族との交流、生活・農場視察			
12	8月17日	木	午前	アチバイア→サンパウロ 移動		機内泊
		午後	研修報告会(ブラジリアとテレビ会議)、送迎夕食会			
13	8月18日	金	午前	サンパウロ発		機内泊
		午後	ドバイ空港経由			
14	8月19日	土	午前			
		午後	成田空港着			

## ■ 参加者の訪問先所感

1 日目  
8 月 7 日  
( 月 )

### 安全・事業ブリーフィング

#### 「JICA のブラジルでの取り組み」

JICA のブラジルでの事業と、ブラジル滞在中の安全についてのお話を伺いました。今まではブラジルに対して、援助という形であったが、これからは連携という形で協力していくことが重要であるという内容でした。(塚本)



事業についてお話をされる佐藤所長

### 日系社会シニアボランティアとの交流

#### 「ブラジルの人々に伝える“剣道の精神”」

日系社会シニアボランティアとして、剣道の指導をされている浅木さんにお話を伺いました。長年の教員と剣道の経験を活かして、ブラジルで剣道の指導をしている浅木さんは、剣道の精神性とその魅力をたくさんの人々に伝えたいと語っていました。(塚本)



国際理解教育と剣道について熱く語る浅木さん

### リベルダージ地区散策

#### 「歩行者用信号は鳥居のかたち!？」

私たちが宿泊した日系パレスホテルはリベルダージ地区にあります。リベルダージは東洋人街で、日本を思わせる鳥居や提灯、日本庭園などがありました。ブラジルにいることを忘れてしまうような街並みでした。(塚本)



リベルダージの信号

### 元 JICA 研修員との懇親会

#### 「肉! 肉! 肉! ブラジル名物、シュラスコに舌鼓!」

ブラジルと言えば肉! ジューシーな肉を串に刺して焼いたシュラスコは格別です。日本で JICA の研修に参加していたブラジル人の方々を招いて、日本やブラジルについて楽しく話をしながら食事をしました。(塚本)



おいしくシュラスコをいただきました



2 日目

8 月 8 日

(火)

### サンパウロ日伯援護協会 社会活動部 奄美事業所 訪問

#### 「言葉を越えた触れ合い」

子どもたちは、私たちが披露した歌とリコーダーの演奏をととても喜んでくれました。また、絵を描く活動では「愛されること・自由であること・役に立つこと・褒められること・認められること」というテーマのもと、子どもたちは思い思いに絵を描いていました。その後、日本のおもちゃで、言葉が通じなくても長い時間仲良く遊ぶことができました。(露崎)



子どもたちの作品

### ピオネイロ学園 訪問

#### 「一生懸命学ぶ子どもたち」

3歳～高3の子どもたちが通う私立学校で、約70%の生徒は日系の子どもたちです。日本語を使つての椅子取りゲームや、理科の実験、数学の授業などが行われていました。ここで教える先生は「自信を持った意欲的な人間に育ててほしい。」という思いを持って、生徒と日々関わっているようです。(露崎)



理科の実験中

3 日目

8 月 9 日

(水)

### カサパーバ公立小学校 訪問

#### 「ブラジルの未来のために」

カサパーバ公立小学校では、ブラジルの自然を守るため、環境教育に力を入れています。訪問した日は、植樹活動が行われていて、私たちも生徒たちと一緒に木を植えました。この木が大きく育つころには、ブラジルの環境がもっと良いものになっているといいですね！(岩崎)



植樹の様子

### 【草の根技術協力】ラー・ファビアーノ・デ・クリスト 訪問

#### 「学校の勉強より楽しい!？」

ブラジルの学校には、音楽や体育などの授業がありません。この学校では、授業のない時間帯に、勉強以外の活動を行います。訪問した日には、ダンスや音楽、コンピュータ、美術など、様々な活動が行われていました。生徒たちが楽しそうに取り組んでいたのが印象的でした。(岩崎)



授業風景

4 日目  
8 月 10 日  
(木)

### 【草の根技術協力】PIPA\*自閉症支援訪問

#### 「生き生きとチャレンジする子どもたち」

日本の生活療法を取り入れ自閉症児の自立や就労を支援する施設を訪問しました。子ども達は笑顔とハグで迎えてくれました。ブラジルでは、自閉症者は薬でコントロールするという考え方が強く、また家庭や病院で過ごすことが一般的であると聞きました。このような実情に対して、PIPAでは一人ひとりの思いや経験を大切に活動に取り組んでいるそうです。私たちが訪問した日も、子どもたちは運動や音楽、調理などの活動にのびのびと楽しそうに取り組んでいました。(池野)



日本の子供達からの手紙を届けました

\*PIPA：日系団体が運営する自閉症患者の児童を治療する施設

### 日本移民史料館見学

#### 「移民の歴史を学ぶ」

館内ガイドの TAKEDA さんが様々な展示物を紹介しながら、移住当時の暮らしや日系移住者の歴史を丁寧に話して下さいました。日系の方々がブラジルの地で信頼を得るために努力してきた歴史を学びました。移民船の模型や野生動物の剥製の迫力に、驚きの声があがっていました。(池野)



当時の暮らしの様子を知ることができました

5 日目  
8 月 11 日  
(金)

### コーヒー博物館訪問

#### 「“コーヒー” に隠された秘密」

私たちにも馴染み深い「コーヒー」についての歴史や、収穫から出荷までの過程などを教えてもらいました。ブラジルの人々は汗水流してコーヒーを収穫していますが、美味しいコーヒーは世界へ輸出され、ブラジルの一般庶民は、石や木の実が混ざっているコーヒーを飲んでいるという話を聞きました。私たちが美味しく頂いているコーヒーの裏側には、生産者・収穫者の努力があることを忘れてはいけません。(池田)



博物館の天井には、歴史を伝えるステンドグラスがあります。

### サントス厚生ホーム訪問

#### 「“ふるさと” とは」

日系人が老後を快適に暮らす厚生ホームを訪問しました。幼い頃に渡伯してきた1世の方は、ブラジルが故郷であり、日本は夢の国だと思う方も。17歳のときに渡伯してきた方は、涙ながらに「伝えたいのだけど、胸が詰まっちゃううまく伝えられないんです。」と。その言葉に込められた日本への想いを深く考えられずにはいられませんでした。「ふるさと」について考えさせられる出会いでした。

(池田)



入所者の方々と一緒に「ふるさと」を歌いました

## 【有償資金協力】オンダリンパ事業視察

### 「国の思い ～光と影～」

サンパウロ州の水質汚濁改善に力を尽くすオンダリンパ事業。生活排水や雨水が垂れ流し状態だったところから、海水浴ができるところまで下水収集・処理などが整い、軌道にのってきている事業の一つ。しかし、急激な都市化と貧困などに伴い、インフラ整備が整っていない実情など、成果と課題を教えてくださいました。持続可能な社会を作っていくためのヒントをいただきました。(池田)



処理した水を海へ流すパイプ

## 日本移民上陸記念碑、移住 100 周年モニュメント訪問

### 「サントス港で移民の歴史に想いを馳せる」

日本の移民船が最初に到着したサントスの港に、この移住 100 周年モニュメントと日本移民上陸記念碑があります。記念碑の麓には「この大地に夢を」と刻まれており、当時港に降り立った人々の姿や想いが伝えられていました。私たちが足を運んだ日は波も高く、自然の力と日本からの壮大な航路に想いを馳せました。(池野)



公園は人々の憩いの場に

6 日目  
8 月 12 日  
(土)

### 【技術協力】国立アマゾン研究所訪問

#### 「圧倒的なスケールと多様性」

保護されたマナティの野生復帰プロジェクトやアマゾンの環境問題についての話を聞きました。マナティのような大人しい動物は人間の開発や密猟等の影響を受けやすいそうです。アマゾンの森を散策したり、博物館を見学する中で、日本では見られない動植物を見て、あらためてスケールの大きさと多様性を実感しました。(柴田)



ミルクを飲むマナティ

### 西部アマゾン日伯協会訪問

#### 「日本文化への想い」

体育館では盆踊りの準備がされ、外では日本食を中心とした屋台が出ていました。日伯協会の会長をはじめ多くのブラジル在住の日本人や日系の方とお話をする中で、日本の文化を今後も大切にしていきたいという思いが伝わってきました。その後、盆踊りを一緒に踊り、ブラジルの中にある日本を感じることができました。(柴田)



やぐらも準備されています

7 日目  
8 月 13 日  
(日)

### マナウス市営市場で買い物

#### 「活気溢れる市場」

市場はとても賑わっていて、活気がありました。ほとんどのものが、自然界に存在しているそのままの形で売ってありました。数え切れないほどたくさんの種類があり、日本では見かけないブラジルならではのものもありました。物珍しそうにみていると、肉や魚を目の前で切って見せてくれました。(池田)



マナウスの市場にて

### アマゾン散策

#### 「五感でブラジルを味わう」

どこまでもどこまでも続くアマゾン川はまるで海のように、太陽の日差しや森の香りを肌で感じました。船に乗って川を進むと、川を挟んだ左右の様子が全く異なる場所がありました。一方は木々が生い茂って緑色、もう一方は、工場が立ち並んでいて煙も上がっていました。その対称的な様子は、同じ川の両岸とは思えないほどでした。(柿原)



左右で異なる風景

8 日目  
8 月 14 日  
( 月 )

### ジョゼフィーナ・デ・メーロ校訪問

#### 「日本の学校と同じ」

日系人のために創設されたこの学校には、「日本の学校の習慣」が根付いています。例えば、自分達が使う教室は自分達で清掃をすること（ブラジルでは珍しい）や、教室に入る時は必ず「失礼します。」と挨拶するところは、礼儀を重んじる日本の学校と同じですね。整理整頓された教室だと、勉強に集中できる場所も日本と一緒にです。（小沢）



授業風景

9 日目  
8 月 15 日  
( 火 )

### 【技術協力】KOBAN 訪問

#### 「治安を守る KOBAN の挑戦」

ブラジルでは日本の交番システムが導入されており、日本式の「KOBAN」も設置されています。地域住民の願いから、お金を出し合ってこのシステムを作っているそうです。警官が、ラジオ体操や青少年に対するフットサル教室などを開くなど、地域住民と密に関わった取り組みをしています。（宇住庵）



KOBAN



交番に掲示されている 5S の精神

## サンパウロ市営市場で買い物

### 「スケールの大きい市場」

市場には、所狭しと果物や飲み物、レストランが軒を連ねていました。子豚が丸々吊るされていたり、果物が天井近くまで積み上げられていたり、見る物を圧倒させるような陳列の仕方に目を奪われました。(宇住庵)



市場の様子

## アチバイア日伯文化体育協会訪問

### 「まるで日本の学校？」

日本の文化を継承していきたいという思いで作られた学校だけあって、日本の学校にとっても似た掲示の仕方があったり、日本語の教育を行われていたりしました。歌を通して日本語をわかりやすく教えていて、日本の歌をうまくアレンジして活用していました。(宇住庵)



とても上手な習字の掲示物



日本語の歌を歌う子どもたち

## アチバイア日伯文化体育協会ソフトボール活動

### 「ソフトボールを見学」

中学生にソフトボールを教えている日系社会青年ボランティアの活動の様子を見学させていただきました。日本とは違い、時間にルーズだったり、主張が激しかったりすると苦勞しているようでしたが、笑顔でソフトボールの普及に尽力している姿がとても印象的でした。(宇住庵)



ソフトボール

10 日目  
8 月 16 日  
(水)

### 私立 FAAT 学校訪問

#### 「“日本” に熱心な子どもたち」

学校見学後、代表生徒 2 名から話を伺うと、日本語や日本文化に興味を持っていると嬉しそうに話をしてくれました。高校 2 年生の地理の授業では日本が取り上げられているようで、日本の学校生活や東日本大震災について生徒から多くの質問が寄せられました。(北見)



「学び合い」を重視した活発な授業

### 日系人農園見学

#### 「移住、農園、そして現在」

農園を経営している 3 名の日系人の方々を訪ねました。農園の説明と、どのような経緯でブラジルに移住し、生活してこられたかについて、お話を伺いました。農園の経営は決して楽なものではなく、日系人の方々のこれまでの大変な努力があって、現在の立派な農園があるのだということを強く感じました。(北見)



出荷前の綺麗なバラ

### タンケ地区日本人会館訪問

#### 「“ふるさと” を歌いました」

約 20 名の日系人の方々と懇親会を行いました。楽しいバーベキューの後、美しい夕焼けの中、全員で「ふるさと」を歌ったことは忘れられません。日系の方々が私達に惜しみなくこれまでの人生を語り、また答えにくい質問などにも答えて下さり、その懐の広さと温かさを感じました。(北見)



本当に温かく優しい方々



## ホームステイ

### 「日系人家庭で1泊」

研修で初めてのホームステイ体験。ホストファミリーの福島さん宅で夕食をご馳走になりました。歳の近い日系4世の娘さんと夜遅くまでお互いのことを語り合い、代えがたい思い出を作ることが出来ました。

(北見)



茶道を披露すると、とても喜んでくれました

11日目  
8月17日  
(木)

## 研修報告会

### 「無事終了」

サンパウロにある出張所から、ブラジリアのJICA ブラジル事務所へテレビ会議システムを使って研修報告会を行いました。それぞれの訪問先で見聞きして学んだことや2週間の研修を通して感じたこと、また、今後の教育現場での実践について一人ずつ報告しました。(柿原)



報告会の様子



# 実践授業報告



タンケ村にて日系移民の方々と記念冊撮影  
撮影：2017年度教師海外研修参加者

※この報告書に掲載されている写真は、教師海外研修参加者の責任の基に提供されたものを使用しています。  
※参加者の先生、児童生徒さんの原文をいかして掲載しております。表記などにばらつきがありますが、ご了承ください。

# 世界から自分を知ろう ～異文化理解～



氏名：宇住庵 香織

学校名：茅ヶ崎市立小和田小学校

担当教科：

実践教科：総合的な学習の時間

時間数：7 時間

対象学年：3 年

人数：37 人

## 実施概要

### 【1】単元のテーマ・目標

○他国には、多様な文化や考え方の違いがあることを知り、世界の文化に興味を持ち、他国だけではなく身近な人ともお互いの良さを感じる。

○世界の現状について知ることで、外国との繋がりの深さに気づき、自分自身も世界と繋がっていることを自覚した上で、自分にできることを考える。

【2】 単元の評価 規準例	(ア) 関心・意欲・態度	世界のことに関心を持ち、様々な国の文化や現状に関心を持つことができる。
	(イ) 思考・判断・表現	世界の現状に目を向け、なぜそうなったのか考え、自分なりの意見を発信し、周りの人に伝えることができる。
	(ウ) 技能	知り得たことを元に、自分にできることは何かを考え、行動に移そうとすることができる。
	(エ) 知識・理解	世界で起きている出来事について知り、なぜそうなったのか理解することができる。

### 【3】 単元設定の理由

- ✓ 児童  
生徒観
- ✓ 教材観
- ✓ 指導観

#### 【児童観】



本学級の児童は、何に対しても好奇心旺盛で、意欲的に取り組むことができる。授業中も、友達に自分の考えを伝えたいという気持ちが強く、発表が過熱しすぎて時間が過ぎてしまうことも多々ある。そのため、自分の気持ちばかり主張しすぎて、相手や周りのことを考えられなかったり、自分の価値観だけで他者を判断してしまったりする傾向も見られる。クラスという小さな世界の中でさえ、多種多様な考えや環境に置かれている児童が混在している。視点を更に広げていくと、もっと多様な世界が日本国内外には広がっている。様々な国や人の考え・文化を知ることを通して、相手の良さを認めることのできる広い心の素地を養いたい。更には、他者の良さを知ることを通して、自分の良さにも気づくことができるきっかけにしてほしいと思う。

#### 【教材観・指導観】

現代の日本は、食料自給率の低さが著しく、身の回りの物は外国産の物で溢れている。例えば、現在3年生の国語で学習している「すがたをかえる大豆」で登場している大豆は、日本人の生活に無くてはならないものである。だが、そのほとんどを輸入に頼っている。衣類や携帯電話など、無くてはならない物の多くが、開発途上国からの輸入に支えられているという現実もある。また、日本国内では外国からの観光客が増加し、外国の人と触れ合う機会も増えてきている。グローバル社会の中で、他国から支えられ、また支えている現状を知り、他国の文化や暮らしぶりを知ることを通して、お互いの良さに気づけるようにしたい。3年生の社会科では、現在地域の買い物のことについて学習している。日本と外国の食文化やスーパーの様子から、違いや同じ部分にも

気づくことで、遠い国や自分とはかけ離れた課題だとしても、自分事としてとらえるようにしたい。また、遠い熱帯雨林の森林減少のことも触れ、自分の生活とも関りがあることに気づき、地球の一員として考えるきっかけとなるようにしたい。3年生にとって少し難しい課題ではあるが、身近なことと結びつけながら、今の自分にできることは何かについて考え、調べていく手がかりとしてほしい。

#### 【4】展開計画（全7時間）

時	テーマ・ねらい	活動・内容	使用教材
1	<p>○「世界地図から」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 3枚の世界地図を見比べて、国によって地図の表し方が違うことに気づき、他国に興味を持つ。</li> </ul>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 3つの国の世界地図を見て、気づいたことをワークシートに記入する。</li> <li>2 全体で交流する。</li> <li>3 3つの世界地図は、どこの国のものかヒントを元に考える。 (スポーツ・食べ物・動物)</li> <li>4 考えた国を発表する。</li> <li>5 正解を知る。</li> <li>6 考えたことをまとめる。</li> </ol>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・世界地図 日本版 ニュージーランド版 ブラジル版</li> <li>・ワークシート</li> <li>・3つの国の有名なスポーツや食べ物の写真</li> </ul>
			
2	<p>○「世界のスーパーから」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● ブラジルのスーパーや市場の様子を見て、日本のスーパーとの違いや共通点に気づく。また、ブラジルのスーパーや市場で気になったことについて、興味や関心を持つ。</li> </ul>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 ブラジルのスーパーの写真をグループごとに見て、日本と同じ所や違う所を見つける。(グループごとに違う写真を配布)</li> <li>2 グループごとに気づいたことを発表する。</li> <li>3 ブラジルの市場の動画を見る。</li> <li>4 気づいたことや興味を持ったことについて話し合う。</li> <li>5 振り返りをする。</li> </ol>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ブラジルのスーパーの写真</li> <li>・ブラジルの市場の動画</li> <li>・ワークシート</li> </ul>
			

3  
本時

○「アマゾン川から」

- ブラジルの熱帯雨林に生息するマナティやナマケモノに焦点を当て、興味関心を高めると共に、森林減少によってすみかを奪われている動物の現状を知り、自分とのつながりを考える。

- 1 アマゾンといえば何かについて考える。
- 2 ナマケモノについて知る。
- 3 なぜナマケモノが危険を冒してまで木から降りるのか考える。(自分→ペアやグループ)
- 4 全体で交流する。
- 5 ナマケモノに関する絵本の読み聞かせを聞く。
- 6 授業の振り返りをする。

- ・パワーポイント
- ・しかけ絵本「ナマケモノのいる森で」
- ・ナマケモノの写真
- ・ワークシート

4

○「アマゾン川から2」

- ブラジルの熱帯雨林の減少の理由を知り、自分との繋がりを考え、自分にできることはないかを考える。

- 1 前時の振り返りをする。
- 2 日本とアマゾンの森林が減ることと、関係が深いと思う順番にダイヤモンドランキングをする。(自分→グループ→全体)
- 3 クラスで一つのダイヤモンドランキングを作る。
- 4 森林が減少する原因を知る。
- 5 振り返りをする。

- ・ワークシート
- ・ダイヤモンドランキング用カード
- ・A4 資料



木材 	大豆 	薬 
たまご 	牛乳 	ケーキ 
とんかつ 	石けん 	スナックおかし 

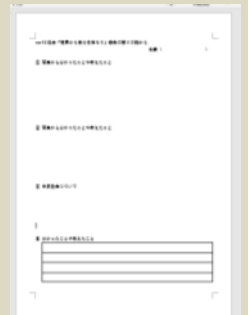
5

○「身の回りの物から」

- 身の回りにある物から、海外と日本との繋がりを見つけ、日本が海外を支え、また日本が海外に支えられていることを知る。

- 1 日本が技術協力をしている様子が分かる写真を見る。(ブラジルの交番やオンダリンパなど)
- 2 写真から分かったことを話し合う。
- 3 日系社会が分かる写真を見る。
- 4 写真から分かったことを話し合う。
- 5 日本とブラジルは、お互いに協力し合っていることを知る。(日系社会についても簡単に触れる)
- 6 振り返りをする。

- ・写真(フォトランゲージ)
- ・ワークシート



- 6 ○「世界の学校から」
- ブラジルの学校の様子を見て、日本の学校との違いや共通点に気づき、より良い学校生活のために自分にできることを考える。
- 1 日本とブラジルの学校生活を比べてみる。
  - 2 同じ所や違う所に気づき、感じたことを発表する。
  - 3 ブラジルの学校の様子を写真や動画で見る。
  - 4 日本に関係のある折り紙などを行っていることを知り、日本との関係の深さに気づく。
  - 5 振り返りをする。

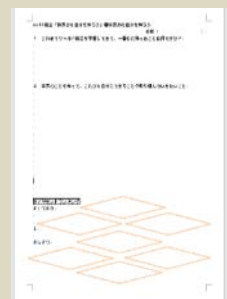


- ・ワークシート
- ・ブラジルの学校の写真や動画



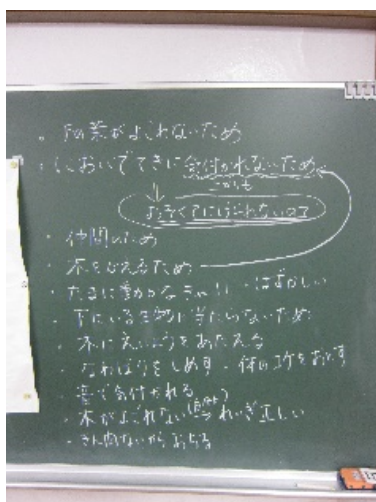
- 7 ○「世界から自分を知らう」
- これまでの学習を通して、世界の中の自分の存在に気づき、持続可能な消費や生産をしていこうとする意識を持つ。
- 1 これまでの活動を振り返る。
  - 2 自分が一番興味を持ったことや、もっと知りたいことについて話す。
  - 3 これから自分に出来ることや、調べていきたいことについて考える。
  - 4 絵本を読む。「ハチドリのはとすずく」
  - 5 今後の総合で発展学習として取り組んでいく

- ・ワークシート

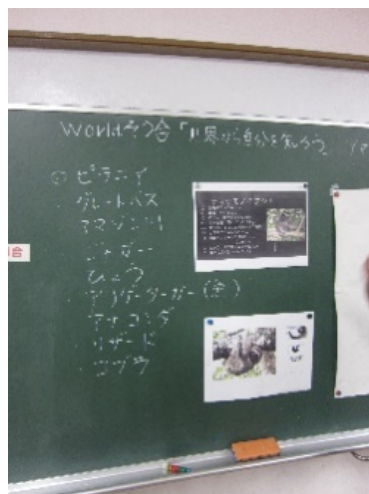


## [5] 本時の展開

過程時間	学習活動	指導上の留意点(支援)	資料(教材)
導入	<p>1「アマゾン」と聞いて思いつくことを挙げる。</p> <p>・川 ・ピラニア・動物 など</p>	<p>◆ よこはま動物園ズーラシサへの遠足で見学してきたことも想起できるように促す。</p>	<p>・パワーポイント</p> <p>・写真</p>



本時の問いに対する発言



アマゾンといえば連想するもの

2 ナマケモノについて知る。

- ・体長 ・体重 ・体温
- ・食事 ・睡眠 ・速さ
- ・その他体の特徴 など

(唯一ナマケモノが木から降りるのは、トイレの時だけ)



- ◆ 担任も映っている映像や写真から、身近に感じられるようにする。
- ◆ 児童が興味を持ちそうな内容をあらかじめ調べ、興味関心が高まるようにする。
- ◆ ナマケモノに詳しい児童がいた場合は、少し補足してもらう。



授業の様子

・ワークシート



展開  
10分

なぜ、ナマケモノはきけんをおかしてまで、木からおりるのだろうか？

3 自分で考えてみる。

4 隣や近くの友達と話してみる。

5 全体で交流する。

- 敵に見つからないため
- 木を育てるため
- 清潔にするため
- 体についたコケを落とすため
- 恥ずかしいから

- ◆ まずは、自分で考える時間をとり、なぜそう思ったのか根拠を考えるように促す。
- ◆ ペア学習だけでは考えが深まらない場合は、グループで話し合うように臨機応変に対応する。
- ◆ なぜそう思ったのか、必ず理由を述べるように促す。
- ◆ 遠い存在であるアマゾンが少しでも身近に感じることができるようになりたい。
- ◆ 3年生が考えることには限界があるので、途中で様子を見ながら補足や説明を加えていく。

まとめ

6 ナマケモノに関する絵本を見る。

- ◆ 森林減少が自分とも関係があることを話し、次回の学習へと繋げていけるようにする。

7 授業の振り返りをする。

- ◆ 振り返りで疑問に思ったことや、新たに調べてみたいことは、次回への学習へと繋げていきたい。

・しかけ絵本  
・「ナマケモノのいる森で」



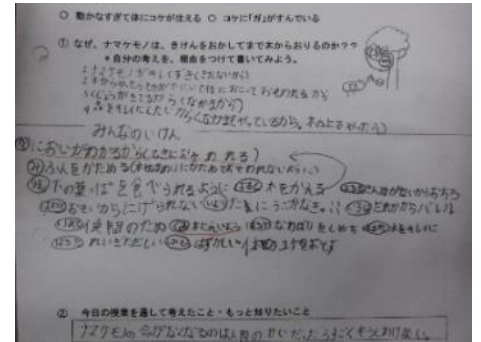
## 【6】本時の振り返り

本学級の児童は、動物が大好きで、日頃より図鑑や動物に関する本などをよく読んでいる。そのような背景から、今回はナマケモノに焦点を当てて授業を展開した。予想を遥かに上回るほど、児童は興味を持ち、動物好きな児童は詳しい生態についてもよく知っていることが分かった。動物の気持ちは本来理解できるものではないが、ナマケモノの気持ちに寄り添って、自分なりの考えをよく書くことができていた。授業の後半では、絵本から森林が伐採されていることを知り、更にはその伐採は自分にも繋がっていることだと知り、驚く様子が印象的だった。絵本を読み終わって、すぐ「募金したい」と発言した児童がいるほど、児童にとってはショッキングな内容だったようだ。ブラジルのアマゾンを目にするのに難しさを感じていたが、自分達の好きな動物から、ブラジルのアマゾンの森林減少まで、多少なりとも思いを馳せることが出来たと感じている。

## 【7】単元を通じた児童の反応/変化

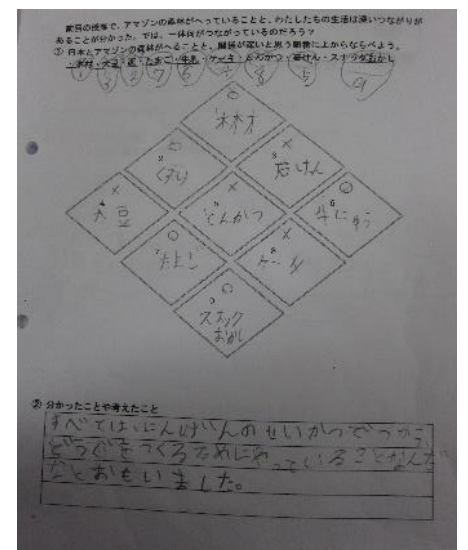
### 【児童の振り返りより抜粋】

- ・「森の木を切るとゆうことは、たくさんいのちをうばっているんだと思いました。」
- ・「アマゾンにはどのくらいの動物がいて、どんな種類の動物がいるのかが知りたい。ナマケモノ用のぼきんがあるといい。」
- ・「森林がへると、関係が深いものがいっぱいあるのだなと感じた。また、森林を大切にしないといけないと思った。」
- ・「どっちが上かと思ったけど、実際にはすべて1位だった(ダイヤモンドランキング)。だから身の回りの物や日用品を大切にみつかることを意識して生活したいなと思いました。」
- ・「関係がなさそうなものでも関係がある。アマゾンから色々なものをもって、色々なものを作っていた。」
- ・「せんたくしの牛乳や薬、とんかつなどを作るために木をきりたおしたりして木がへっているとはびっくりしました。関係ないかもしれないけど、リサイクルして木をふやして、たくさん生き物がすめるようにしたいです。」
- ・「木材だけではなく、食べ物も関係していたなんてびっくり。自分達にも関係あるとは知らなかったです。これから、いっぱいいっぱい食べることがあるかもしれないから、のこさず食べて元気にならなきゃ！」
- ・「すべては、人間の生活で使う道具を作るためにやっていることなんだなと思いました。」



### 【単元を通じ変容した児童の態度や学習意欲】

今回の単元では、特別にブラジルに特化したわけではなく、ブラジルで撮影した写真や動画を活用しながら、世界の様々なことに興味を持つことを目標としていた。その中でも、児童が一番興味を持ったことは、アマゾンについてである。アマゾンの森林破壊が私たちの生活にも関係があることを知り、驚きを隠せない様子であった。日頃の自分の行動がアマゾンへと繋がっていることを知り、小さなことではあるが、「食べ物を無駄にしない」「地元で取れたものを食べる」「ゴミをあまり捨てない」など、自分に出来ることは何か考え行動に移す様子が見られた。社会科の学習とも接続しながら、持続可能な消費について自分に出来ることを地道に取り組んでいくことが大切であると理解したようだ。以前よりも給食の残食が減り、紙も裏紙を使い、小和田フェスティバル(児童が参加した地域のお祭り)でも、ごみの量が大幅に減っていた。今後は、引き続き自分の興味のあることに特化して総合的な学習で深めていきたいと考えている。ブラジルのことについても興味が高まったので、学期末には、ブラジルのお菓子作りなどにも取り組みたいと考えている。



### 【途上国・異文化への意識の変容】

(授業前)

動物やスポーツなどについては詳しいが、ブラジルについてはほとんど無知であった。

(授業後)

異文化という意味では、大人の何倍も適応能力が高いと感じた。ワールド総合という授業を、児童は大変楽しみにしていて、ノートの表紙に地球と宇宙人まで書いていた児童がいた。宇宙人とさえも仲良くなりたいという意欲的かつ好奇心旺盛な子どもたちのお陰で、教師の方が無理に異文化という壁を作っていたことに気づかされた。子どもたちは、そもそも「異文化」という認識をもっておらず、どんな文化や環境であっても、お互いの良い所を認めて、仲良くなりたい！という意識がある。動物のことでさえも、親身になって気持ちを汲み取ろうとする。その行為こそ異文化理解を体言していると思う。逆に、教師が偏った考えを押し付けるような授業をすると、影響を受けすぎてしまう恐れがあると感じた。



## 【8】自己評価

### 1. 苦勞した点

莫大な資料の中から、自分が伝えたいことを絞って教材化することが非常に苦勞した。伝えたいことがたくさんありすぎて、更に資料が多すぎて、焦点化することに時間がかかった。自分本位な展開になりすぎず、児童の興味関心を維持できるように展開を組み立てることも難しかった。

### 2. 改善点

理想としては、環境問題について取り上げたかったのだが、3年生という発達段階を考慮して、異文化理解という枠の中で、環境問題にも簡単に触れる内容にした。他学年で実施する際は、更に内容を深めるための工夫ができると思う。また、クラスの実態に応じて扱う内容は変えていく必要があると思う。

### 3. 成果が出た点

3年生になって初めて社会科の学習が始まり、やっと自分たちの地域のことに目を向け始めたところで、海外に目を向けさせることは難しいとはじめは思っていた。だが、いざ授業を始めてみると、「ワールド総合」の時間は、いつも以上に生き生きと目を輝かせて、「もっと知りたい」という意見がたくさん出てきたことに驚いた。また、普段国語や算数が苦手な児童も、総合の時間になると手を挙げて発言したり、活動を熱心に行ったり、他教科とは違う様子を見ることができた。大きな成果としては、海外も日本と同じ所もあり、違う所はもっと知りたい！という意欲に繋がったことである。今回取り上げたブラジルだけではなく、児童によっては生き物・食べ物・その他の国のこと・環境問題など、海外の事情に関する関心が高まった。今回の単元は、あくまで海外へ目を向けるための入り口としての授業だと考えている。これをきっかけに、児童一人一人の興味に沿った活動が始まっていくことが楽しみである。

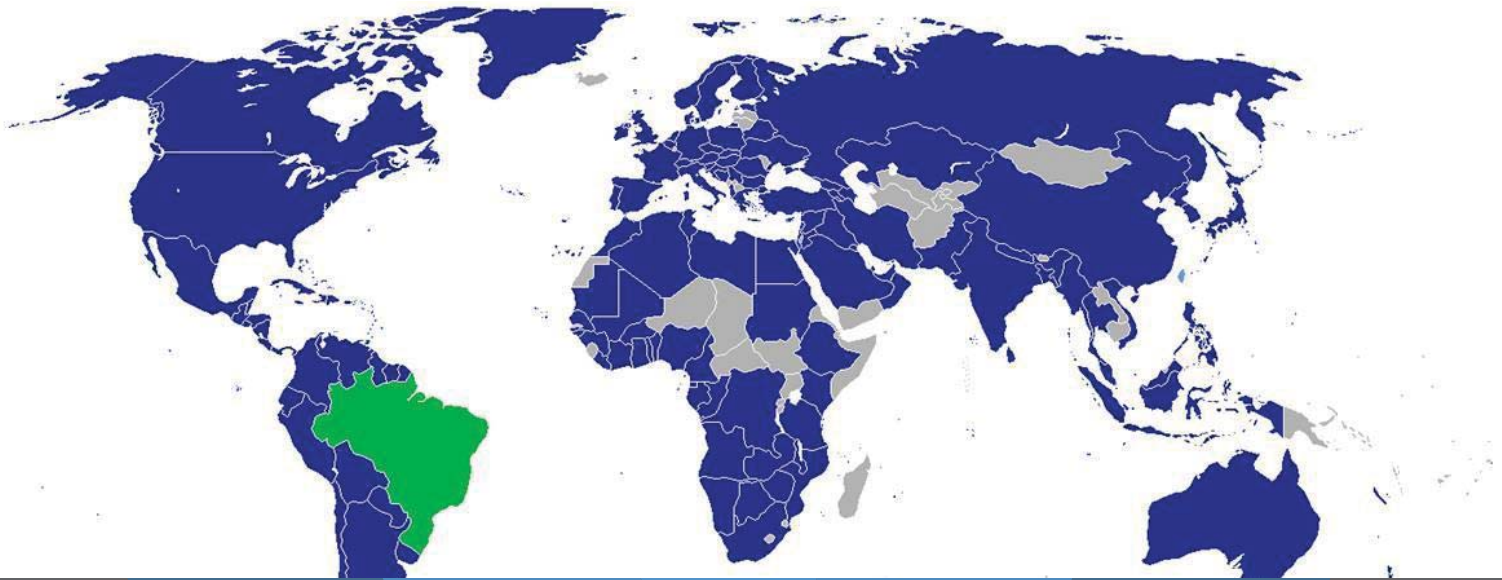
## 参考資料

- ・くらべてわかる世界地図6「環境の世界地図」藤田千枝 編 / 新美景子 著
- ・しかけ絵本「ナマケモノのいる森で」ソフィー・ストラディ 文 / 松田素子 訳
- ・「ぼくがラーメンたべてるとき」長谷川義史
- ・「せかいのひとびと」ピーター・スピア 作・絵 / 松川真弓 訳
- ・「世界中からいただきます！」中山茂大 文 / 阪口克 写真
- ・「ハチドリの一としづく」辻信一 監修

## 本時で使用した主な資料(教材)

- ・パワーポイントスライド、ワークシート





ワールド総合

「世界から自分を知ろう」  
アマゾン川から

アマゾン川って知ってる？

世界最大の熱帯  
雨林。  
日本の国土の  
約20倍の広さ。  
地球上の種の  
4分の1がいる。





ピラニア

これは何？

アマゾンと  
言えば??



川の上で暮らす  
人々



川イルカ



マナティ



ナマケモノ

# ナマケモノのフシギ

- 体長50～60cm
- 体重 4～5kg
- ほにゆう類なのに変温動物
- 食事1日 葉っぱ1枚(8g)
- すいみん1日15時間～20時間
- 首は270度回転できる
- 動けるスピード1時間16m  
(1分2m)
- 動かなすぎて体にコケが生える
- コケに「ガ」がすんでいる



でも、実は・・・

全身に筋肉がないので  
動かない×  
動けない○  
木につめをひっかけて  
ぶらさがっているだけ

まん腹  
動きすぎる

➡ 悲しいことに死んでしまう



ナマケモノが10日に一度だけ  
木からおりてすることは  
トイレ  
木の上からでもできるのに、  
わざわざ木からおり、木の根元にあな  
をほって、うめる。  
命をかけてまでそうするのはなぜ？

## 正解

- てきにふんを見つけられないため
- 木の栄養になる
- 共生しているガがたまごをうむため

500万年前 50種以上 → 6種

原因は、アマゾンの森林がへっていること。

# わたしたちにも関係ないことではない・・・

## ■1990年から2000年



## ■2000年から2010年



world 総合「世界から自分を知ろう」①世界地図から 名前（ ）

① 3つの世界地図を見て、気づいたことはあるかな？

② ヒントを元に、それぞれの地図がどこの国か考えよう！

ヒント	地図 A	地図 B	地図 C
① まずは ヒントなし！			
② 有名な 動物			
③ 有名な 食材			
④ 有名な スポーツ			
⑤ 意見が 変わった かな？	どこの国かな？	どこの国かな？	どこの国かな？

③ 分かったことや考えたこと


④ 知りたいことがあれば書いてね



world 総合「世界から自分を知ろう」②世界のスーパーから

名前 ( )

① 海外のスーパーや市場の様子を見て、気づいたことはあるかな？

日本と同じところ	日本とちがうところ

② 分かったことや考えたこと


名前 ( )

① 日本と外国の学校生活を比べてみよう！

日本	くらべること	ブラジル
	登校時間	
	登校	
	教科	
	教科書	
	授業時間	
	宿題	
	お昼ごはん	
	落とし物	
	教室の席	
	持ってくるバック	
	子どもの様子	

② 分かったことや考えたこと


world 総合「世界から自分を知ろう」⑤身の回りの物から

名前 ( )

① 写真から分かったことや考えたこと

② 写真から分かったことや考えたこと

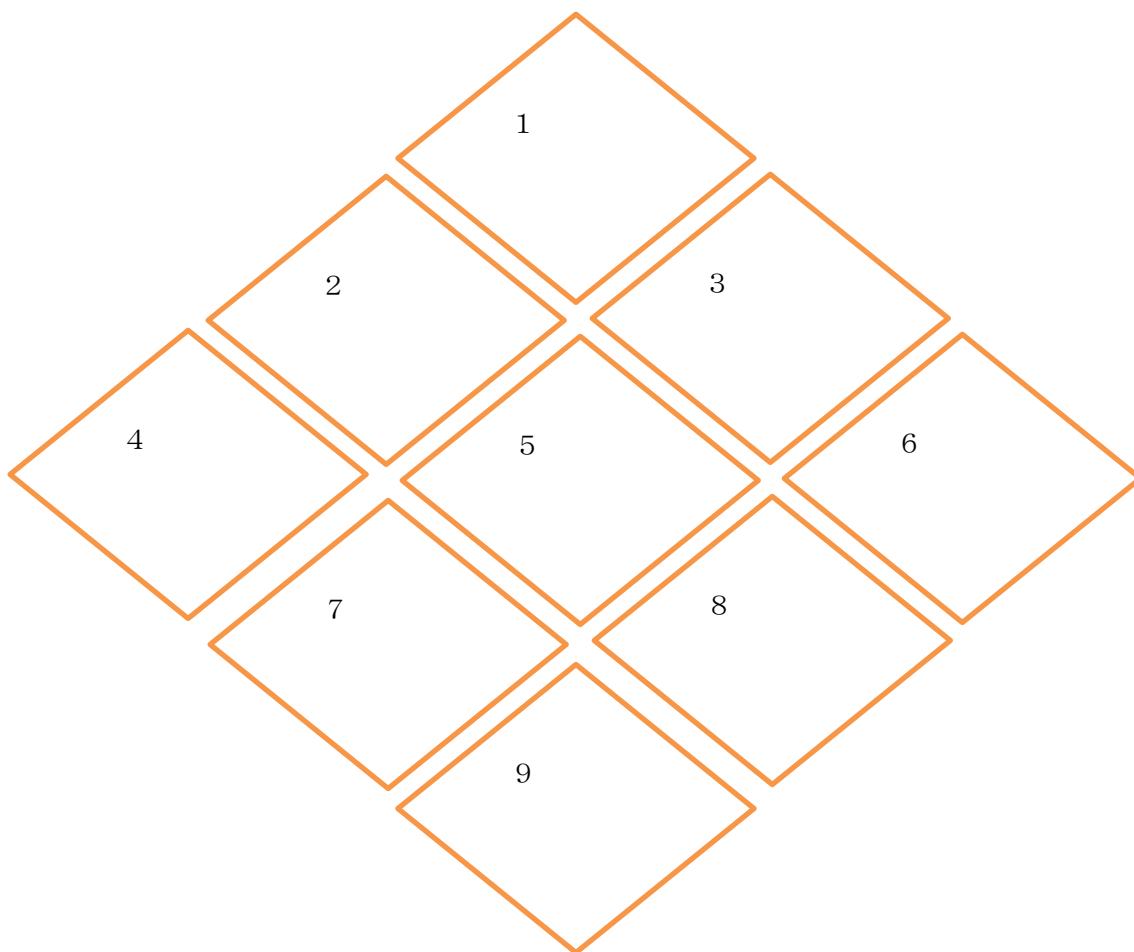
③ 日系社会について

④ 分かったことや考えたこと


名前 ( )

前回の授業で、アマゾンの森林がへっていることと、わたしたちの生活は深いつながりがあることが分かった。では、一体何がつながっているのだろう？

- ① 日本とアマゾンの森林がへることと、関係が深いと思う順番に上からならべよう。  
・木材・大豆・薬・たまご・牛乳・ケーキ・とんかつ・石けん・スナックおかし



- ② 分かったことや考えたこと


world 総合「世界から自分を知ろう」③アマゾン川から

名前 ( )

★ナマケモノのフシギ

- 体長 50～60 cm      ○ 体重 4～5 kg
- ほにゅう類なのに変温動物      ○ 食事 1日 葉っぱ 1枚 (8 g)
- すいみん 1日 15時間～20時間      ○ 首は 270度回転できる
- 動けるスピード 1時間 16m (1分 2m)
- 動かなすぎて体にコケが生える      ○ コケに「ガ」がすんでいる



① なぜ、ナマケモノは、きけんをおかしてまで木からおりるのか??

\*自分の考えを、理由をつけて書いてみよう。

② 今日の授業を通して考えたこと・もっと知りたいこと


**木材**



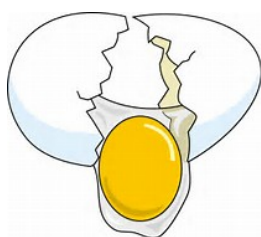
**大豆**



**薬**



**たまご**



**牛乳**



**ケーキ**



**とんかつ**



**石けん**



**スナック**

**おかし**



名前 ( )

1 これまでワールド総合を学習してきて、一番心に残ったことは何ですか？

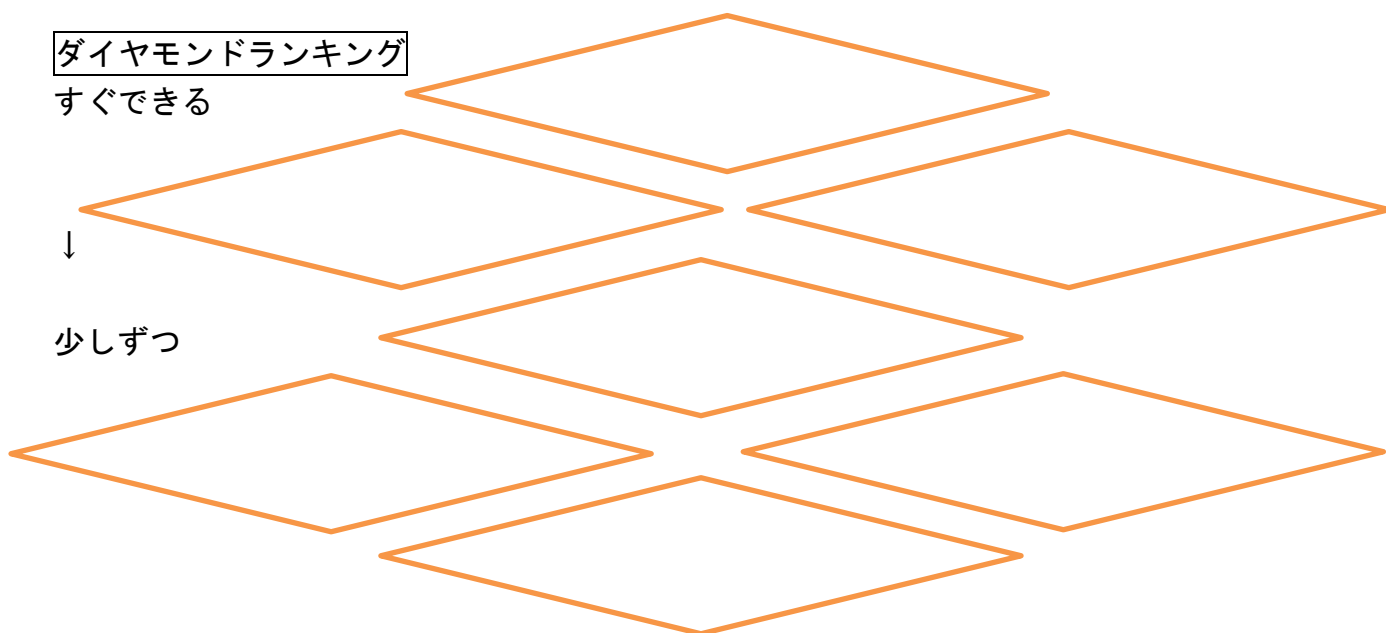
2 世界のことを知って、これから自分にできることや取り組んでいきたいこと

ダイヤモンドランキング

すぐできる

↓

少しずつ



# せかい



氏名：柿原 莉沙

学校名：横須賀市立鶴久保小学校

担当教科：  
特別支援学級（知的・情緒・肢体）

実践教科：  
国語、算数、図工、道徳、自立活動など

時間数：35 時間

対象学年：2～6 年生

人数：15 人

## 実施概要

### 【1】単元のテーマ・目標

- ブラジルや世界の国々に関する学びを通して、自分たちとの共通点や違い、つながりなどを見つけることで、異文化への興味関心を高め、新しいものや自分と異なる文化をもつ人に出会った時に、相手を受け入れる態度を養う。
- 個人やグループでの学習を通して、互いに協力し合って取り組む態度を養う。

### 【2】 単元の評価 規準例

(ア) 関心・意欲・態度

- ・個人やグループでの学習に参加することができる。
- ・ブラジルや日本のことを知ろうとしている。
- ・身の回りにある国旗などに気付くことができる。
- ・世界の国々について質問したり調べたりしようとしている。

(イ) 思考・判断・表現

- ・学んだことに関する感想を言葉や態度で表すことができる。
- ・学んだ内容を友達や周りの大人に伝えている。
- ・世界の国々についても進んで調べたり聞いたりする。
- ・学んだことを日常生活に生かそうとしている。

(ウ) 技能

- ・課題に最後まで取り組み、仕上げることができる。
- ・日本やブラジルなどの国名を言うことができる。
- ・地図帳や地球儀などで世界の国々を探ることができる。
- ・異文化を理解し、そのよさに気付いている。

### 【3】 単元設定の理由

- ✓ 児童  
生徒観
- ✓ 教材観
- ✓ 指導観

本学級は、知的、自閉症・情緒、肢体不自由の2～6年生15名である。学習面や生活面のあらゆることに関して一人ひとりの能力差があり、特性に合った支援が必要である。休み時間や掃除時間などは、異年齢での関わりを通して上級生が下級生のお世話をしたり、高学年がリーダーとして活動したりすることで、互いに協力することができるようになってきた。一方で、一斉授業においては個の活動が中心のため、助け合ったり協力したりすることが難しい。また、予定の変更や初めてのことを嫌がる児童が多く、新しいものとの出会いを前向きに捉えることが苦手である。

本学級の児童は、コミュニケーションが苦手で、発音が不明瞭であったり、人の話を最後まで聞けなかったりするため、相手に正確に伝えることが難しく、特別支援学級に在籍する児童が、同一学年の通常級において学習をする「交流級」でもトラブルになることが多い。そこで、発信する相手を意識して文字を書いたり作品を作ったりすることによって、自己表現することや相手に伝える力を高めたいと考え、ブラジルに関する学びを通して、学習面においても互いに協力する機会を設けたり、新しいものとの出会う喜びを味わわせたいと考え、本題材を設定した。

本題材を通して、世界のことに楽しく出会うことで、積極的に活動に参加できるようにするため、主に以下の点において学習活動を工夫し、支援・指導をした。

- ・実物や写真および映像を提示して五感を使って具体的に理解できるようにする。
- ・他者との関わりを多くもてるよう、グループ活動や発表会などの場を設定する。




## 【4】展開計画（全 35 時間）

時	テーマ・ねらい	活動・内容	使用教材
1 ～2	1.ブラジルって？ 2.国旗を作ってみよう！	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ ブラジルという国があることを知る。</li> <li>◆ 写真や映像を見ながら、日本と同じところや違うところを見つける。</li> <li>◆ 色画用紙を切り貼りして、ブラジルと日本の国旗を作る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・パワーポイント</li> <li>・地球儀</li> <li>・世界地図</li> <li>・日本・ブラジルの国旗</li> <li>・ワークシート</li> </ul>
3 ～7	3.国旗って？ 国旗カルタで遊ぼう！ 4.国旗とその国を調べよう！ 5.あすなる(本学級)の友達に調べたことを紹介しよう！ 6.テーマごとにまとめよう！ 7.他のグループのみんなにまとめたことを紹介しよう！	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 国旗の色や形には、それぞれ意味があることを知る。</li> <li>◆ 国旗カルタ遊びを通して、世界中の様々な国旗と出会う。</li> <li>◆ お気に入りの国旗を選び、その国についてインターネットで調べ、まとめる。</li> <li>◆ 人口と面積のランキング作成や、国旗の形に着目したグルーピングをする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・絵本</li> <li>・国旗カルタ</li> <li>・世界地図</li> <li>・地球儀ボール</li> <li>・外務省ホームページ</li> <li>・パワーポイント</li> <li>・ワークシート</li> </ul>
8	8.アマゾンって？ アマゾンの生き物を知ろう！	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ アマゾンがどのようなところか想像する。</li> <li>◆ アマゾンの生き物を知る。</li> <li>◆ 生き物について、本を使って調べる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ピラルクのうろこ</li> <li>・ピラニアの舌</li> <li>・写真や映像</li> </ul>
9 ～14 ※	9.交流級の人みんなに知らせるためには、どんな方法があるかな？ ブラジルクイズを作ろう！ 10.ブラジルクイズを作ろう！ 11.発表の練習をしよう！ 12.あすなるのみんなでクイズ大会をしよう！ 13.5年2組のみんなとブラジルの勉強をしよう！ 14.今後につなげよう！ ※.交流級で発表しよう！	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 多くの人に発信する方法について考える。</li> <li>◆ クイズの種類や作り方を学ぶ。</li> <li>◆ 国旗や生き物、文化などに関するクイズを作る。</li> <li>◆ 出題するときのことを考えて裏面に問題文の原稿を書いたり、みんなに見やすいように丁寧に書いたり貼ったりする。</li> <li>◆ 人前で話す練習をし、出題する。</li> <li>◆ 答えることも体験し、どのようなことに気を付けて発表すればよいのか考える。</li> <li>◆ クイズを出題したり、世界について学んでいることを互いに教え合ったりして、交流する。</li> <li>◆ 交流級の人みんなにブラジルのことを紹介する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ワークシート</li> <li>・ブラジルの国旗</li> <li>・日本の国旗</li> <li>・調べ学習用書籍</li> <li>・写真</li> <li>・交流級担任への手紙</li> </ul>
15 ～20	15.ふれあい作品展のパネルはどんなものがあるかな？ アマゾンへ行こう！ 16～20.パネルを作ろう！	<p>【ふれあい作品展に向けて製作活動】 (地域の支援級が参加する作品展に向けた活動)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆ アマゾンに行った自分を想像して製作する。</li> <li>◆ 自分の役割をきちんと果たす。</li> <li>◆ みんなで協力して一つの作品を仕上げる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・調べ学習用書籍</li> <li>・写真</li> <li>・映像</li> </ul>
21 ～25 本時	21.学校の人みんなに知らせるためには、どんな方法があるかな？何を伝えたいか	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 文化や生き物などについて本で調べる。</li> <li>◆ 今までの学習を振り返りながら、どのようなことを紹介したいかグループで話合う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ワークシート</li> <li>・写真</li> <li>・調べ学習用書籍</li> </ul>

	<p>な？ ブラジルのことをみんなに 知ってもらおう！ 22～24. 掲示物を作ろう！ 25. あすなる発表会をしよう！</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 全校への発信に向けて、協力して掲示物を作る。</li> <li>◆ 道具を適切に使い、みんなに見やすいように丁寧に書いたり貼ったりする。</li> <li>◆ 学級内で発表会をする。</li> </ul>	
26 ～29	<p>26. どんな国のどんなことを 学びたいかな？ 今後の計画を立てよう！ 27. 調べよう！ 28. まとめよう！ 29. 発表しよう！</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ お気に入りの国を選び、知りたいことを考える。</li> <li>◆ 国旗や民族衣装、文化、生き物などについて本やインターネットで調べたり、保護者や ALT など身近な人にインタビューしたりする。</li> <li>◆ クイズ形式や模造紙などにまとめて、発表する。</li> <li>◆ 友達の発表を聞き、様々な国について知る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ワークシート</li> <li>・調べ学習用書籍</li> <li>・外務省ホームページ</li> </ul>
30 ～34	<p>30. 卒業式と入学式のパネル はどんなものがいいかな？ それぞれの国の民族衣装 を着てお祝いしよう！ 31～34. パネルを作ろう！</p>	<p>【パネル製作活動】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆ お気に入りの国に行き、民族衣装を着た自分を想像して製作する。</li> <li>◆ 自分の役割をきちんと果たす。</li> <li>◆ みんなで協力して一つの作品を仕上げる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・調べ学習用書籍</li> </ul>
35	35. まとめ	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ これまでの学習を振り返る。</li> <li>◆ 今後も日本や世界のことに目を向けていく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ワークシート</li> </ul>

## 【5】本時の展開

過程 時間	学習活動	指導上の留意点(支援)	資料(教材)
導入 5分	<p>1. はじめのあいさつ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● ブラジルのおはよう「ボン ジーア！」</li> </ul> <p>2. 学習の流れと目的を知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 教師の話をきちんと聞く。</li> <li>● 既習事項を想起し、掲示物の完成形をイメージする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 持ち物の整頓や話を聞く姿勢を確認する。</li> <li>◆ 本時の学習内容を提示し、見通しをもたせることで、安心して活動に取り組めるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・あいさつカード</li> <li>・これまでに作った掲示物</li> </ul>
		既習事項の振り返り	

展開  
35分

### 3. グループ活動の準備をする。

- 呼名されたら挙手し、メンバーを把握する。机を動かし、荷物を持って席を移動する。

ブラジル①(文字で比較)

アマゾン(動植物・環境)

ブラジル②(写真で比較)



- ◆ メンバーを掲示しておく。
- ◆ それぞれが自分の役割を果たし、廊下にも掲示することで、学校みんなにブラジルについて知ってもらうことが最終目的であることを再認識させる。

- ・ 表の枠線のみを書いた模造紙
- ・ 写真
- ・ 調べ学習用書籍

同じグループのメンバーの確認

### 4. グループ活動をする。

- メンバーで話合って役割分担をする。
- 自分の役割を果たし、友達と協力して、一つ一つ丁寧に表にまとめる。

- ◆ 誰が何を担当するのか具体的に分担させる。自分の能力や興味に合わせたものを選ぶようにする。
- ◆ 丁寧に仕上げるよう声掛けと支援をする。(ペンの使い方、文字の書き方、下書きを消し方、写真の貼り方、はさみ・のりの使い方など)



グループ活動の様子

### 5. 後片付けをする。

- 使ったものを元の場所に戻す。
- 机や床の上をきれいにする。

- ◆ 全員で後片付けをするよう声掛けをする。

まとめ  
5分

6. 振り返りをする。
- 完成した掲示物を見て、教師の話を聞く。

- ◆ 自分の役割を果すことができたか、協力することができたかなどを振り返らせる。
- ◆ ブラジルと日本の共通点や違いなどを簡潔に説明する。
- ◆ 次時につなげる。

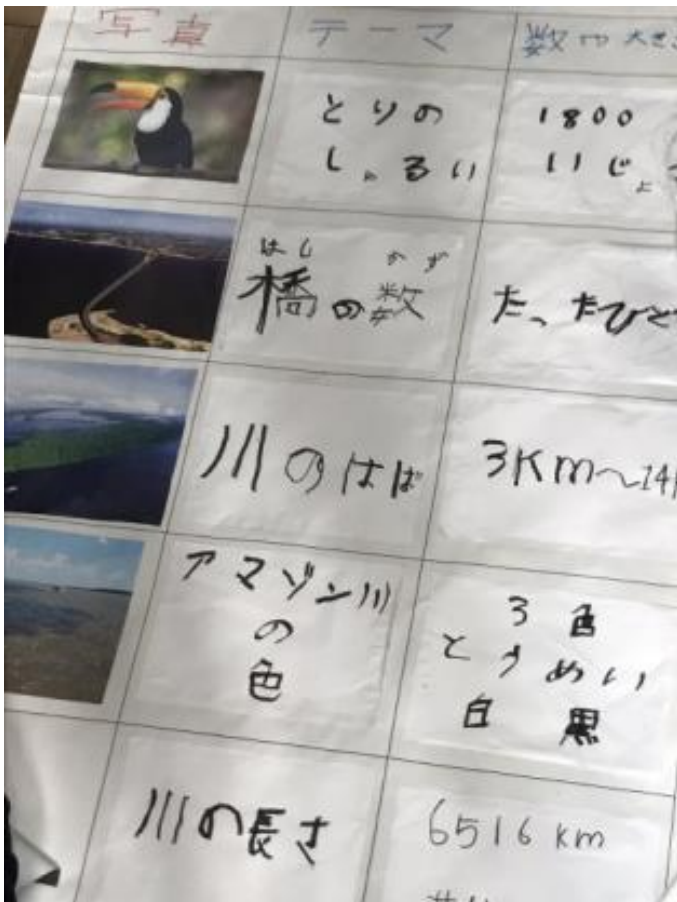


出来上がった掲示物を見ながら本時の振り返り

7. おわりのあいさつ

- ブラジルのありがとう  
男子「オブリガード！」  
女子「オブリガーダ！」

・あいさつカード



掲示物(アマゾンの生き物)



掲示物(写真で比較)

## 【6】本時の振り返り

ブラジルや世界に関する授業に取り組むにつれて、本学級の児童は、ブラジルの授業を楽しみにするようになり、授業の前に「今日のブラジルは何をしますか？」「持ち物は何ですか？」などと質問に来るようになった。また、初対面の人がいると緊張して普段通りのことができなくなる児童のことも考慮し、JICA ご担当者による授業参観の予定を2週間ほど前から伝えていた。「どんな人が来ますか？」「男の人ですか？」「どこの国の人ですか？」などと毎日のように不安そうに質問してくる児童もいれば、「今日は頑張ります！」とはりきっている児童もいた。

本時の学習展開は、これまでの学習を通して「ブラジルのことをもっと多くの人に知らせたい」という児童の思いをもとにした。ブラジルと日本について比べながら見つけた共通点や違い、自然の広さなど、一人ひとりが興味をもったことについて、今までに見聞きしたものだけでなく、本やインターネットも用いながら調べ学習をし、担当したものを表にまとめて掲示物を作成する活動をした。今回のグループは、児童の興味関心、特性や学年などを考慮し、3つのグループ(文化的なこと・アマゾンのこと・言葉や学校生活などのこと)に分けて学習を進めた。各グループに6年生を入れ、リーダーとしてみんなをまとめることも経験させた。うまく機能しているグループもあったが、その児童が欠席するとまとめ役がいらないグループもあり、グループ編成の配慮が足りなかった。

児童のめあてが「ブラジルのことをつくるぼ(小学校)のみんなに知らせよう」だったため、ブラジルと日本の違いを学びながら、丁寧に仕上げることを目標にした。

活動の途中でも「まっすぐに」や「端を揃えて」など丁寧に仕上げるコツを伝えたりするようにした。また、黒板(写真①)を見て、ペンでなぞる・下書きを消す・はさみで切る・のりで貼るなど、どこに気を付けるべきか示したことで、一つ一つの作業をていねいに仕上げるよう意識することはできていた。しかし、全員が丁寧に取り組むには時間が足りなかった。はさみで切ることに課題のある児童は個別学習の時間に切っておく、文字を書くことに支援が必要な児童は事前に練習をしておくなどの個別対応が必要だった。

ブラジルと日本の比較に関しては、どちらがブラジルでどちらが日本のものなのかを確認しながら写真を貼っている児童、アマゾンの動植物の種類や大きさなどの数を間違えないように書き写している児童、ポルトガル語では男性と女性で言葉が違うものがあることを分かりやすく書いている児童など、どの児童も自分の役割をきちんと果たすことができていた。一方で、完成させることに夢中になり日本とブラジルの違いをじっくり考えずに活動している児童や、自分の役割が分からずになかなか活動に参加できない児童もいた。このような児童も巻き込みながら授業を展開することができなかったのは、学習内容が多すぎたためだと反省している。授業のまとめとして、協力して素敵な掲示物が仕上がったことを褒めたが、教室内に掲示している過去の作品と比較して「これよりも今日作ったものの方が見やすいね！」と言葉掛けをすれば、自分たちの成長を自分たちで感じる機会にもなったと思う。



「ていねいに」の掲示

おんせきランキング		じんこうランキング	
順位	国名	順位	国名
1	ロシア	1	中国
2	インド	2	アメリカ
3	アメリカ	3	ブラジル
4	ブラジル	4	インド
5	インド	5	日本
6	スペイン	6	フランス
7	ドイツ	7	ベトナム
8	ベトナム	8	イギリス
9	フィリピン	9	スペイン
10	カナダ	10	韓国
11	イギリス	11	カナダ
12	アラブ	12	オーストラリア
13	イタリヤ	13	ロシア
14	パナマ	14	アラブ
15	ソマリア	15	イタリヤ
16	ベルギー	16	アラブ

過去の作品

## 【7】単元を通した児童の反応/変化

実践授業の翌日、グループごとにまとめた作品について学級内で発表会をした。

授業前に準備をしていたところ、作品の前に集まって「太鼓の大きさが違う！」や「ブラジルのお金はカラフルだね！」など、細かいところまで興味津々で見ている。(写真①)「何でブラジルのバスは長いの？」や「ナンバーの数が多いのは、どうして？」など、新たな疑問もあった。

発表会では、聞き手に分かりやすく伝えることをねらいとしたところ、写真の注目してほしいところを指し棒で示したり(写真②)、身近なもので例えながら動植物の大きさを説明したり、言葉をみんなで言ってみようと言ったり提案したりするなど、3グループとも工夫して発表することができた。また、発表を聞く時は、マナーを守って聞くことができるようになり、興味のあることに身を乗り出して反応するなどの成長も見られた。本授業を通して、児童が自分の役割を果たしたり、仲間と協力して一つのを仕上げたり、人前で発表するための表現力を高めたりしたことも大きな成長だと感じている。

授業の終わりにワークシートを配布し、その日の学びについて記入させるようにした。最初は、友達に渡すことを忘れていたり、勢いよく渡していたりした児童が、両手で「どうぞ～」と渡す姿からも、相手を思いやる態度をみとることができた。また、文字を書くことさえ嫌がっていた児童が、少しずつ鉛筆を持って書こうと意欲的になり、「こういうことを書きたいんだけど、うまく文章にできない。」と考えを伝えるようになったり、知りたいことをキーワードで「おかし」と書いたりするようになった。さらに、新たな疑問をもつことができるようになった児童もいる。

「せかい」の学習計画を立てた当初は、25時間で計画していた。そのため、掲示物を仕上げた翌日に発表会をし、授業の最後に、これでブラジルの学習を終えることを伝えると、「まだやりたい！」「もっと知りたい！」「他の国も調べてみたい！」などの声が上がった。そこで、同僚と相談し、今後も継続して世界の学習をすることにした。このことを児童に伝えると、「やったー！！」と喜んでた。そして、一人が「ぼくは、ロシアがいいな。」と発言すると、「私は、韓国にする！」「アメリカ！」「ネパール！」など、お気に入りの国を口々に言い出した。また、「国旗つくりたいね！」や「また、交流級でクイズしてもいいですか？」「今度は、お母さんに教えてあげたい！」など、これまでの学習で経験したことを、今度は自分が選んだ国で実践してみたいという姿勢が見られた。日本についてもほとんど知らなかった児童が、自分とは違う「世界」に興味関心をもったことや、初めて出会うものを苦手としていた児童が、新しいことを知りたいと前向きな姿勢になってきたことなど、様々な面で一人ひとりが成長することができたことが大きな成果だと実感している。



授業前の様子



発表会の様子

## 【単元を通し変容した児童の態度や学習意欲】

- ・最初は受身的だった児童が、その日の時間割を確認すると「今日のブラジルの時間は、何をしますか？」と自ら聞いてくるようになった。
- ・どの児童も世界に対する興味関心が非常に高まった。
- ・国旗に対する興味・関心の高まりがみられた。自分の持ち物に国旗が描かれていたり(写真①)、絵本の中や廊下の掲示物に国旗があるのを見て、「国旗みつけた～！」と話すようになった。(写真②)
- ・「昨日のテレビでブラジルのことやってたよ！」と番組の内容まで詳しく伝えることができた。また、「ブラジルではワニをペットにしているおじさんがいるらしいけど、本当にそういう人いるの？ブラジルの友達に聞いてみて！」と、事実を追求するように

なった。

- ・授業の最初と最後のポルトガル語での挨拶を進んで行うようになった。(写真③)
- ・交流級での発表を通して、気持ちに変化が現れた。(写真④)
- ・「1年生がブラジルクイズやってたから、ヒント教えてきた。」と、他学級の児童がクイズを見ていることに気づき、そのことを嬉しそうに報告した。(写真⑤)
- ・学習したことを家庭でも話す児童が増えたことを、保護者より伺った。
  - ・中学生の兄弟が地理の宿題をしていたところ、「この国旗は〇〇だよ！」と教えていた。
  - ・今までは海外に出張へ行っても「おかえり」しか言わなかったが、「どんな食べ物なの？」や、「どんな挨拶するの？」など、その国についてたくさん質問するようになった。



給食袋の国旗



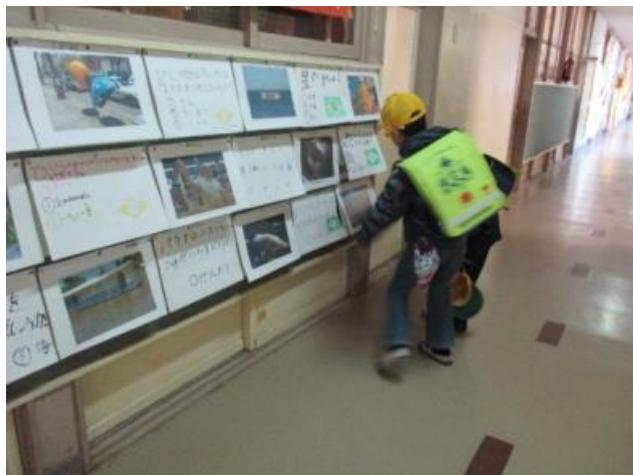
世界の国旗と裏面の情報を見ている児童



「ボンジーア！」



交流級での発表後の日記



1年生がクイズを見ている様子

## 【途上国・異文化への意識の変容】

(授業前)

- ・本学級では、自分の住んでいる地域・市・県・国という概念は難しい児童が多く、「ブラジルに行ってきたよ。」と話す、「それってどこ？」「電車でどのくらいかかる？」という児童もいた。中には、「日本」という言葉を知らない児童もいた。
- ・初めての物事に対する恐怖心が強く、新しい情報を増やすことが難しい。
- ・自我が強い児童が多く、自分勝手な言動が目立つ。
- ・自分の勢いで話をし、相手のことを意識することができていない。
- ・自分の過ちを素直に認めることができず、周囲のせいにする。
- ・協力して一つのことを完成させることが難しい。

(授業後)

- ・世界の様々な国名を覚え、興味をもつようになった。
- ・給食の献立を見て、「今日はどここの国？」と興味を示すようになった。
- ・いろいろな国旗と出会い、身の回りや本などで国旗を見つけると「見て〜。」と嬉しそうに報告するようになった。
- ・交流級での発表を通して、分かりやすくまとめる方法や人前で発表する力を高めつつある。
- ・作品展に向けてパネルを作成したり、学校みんなにブラジルのことを知ってもらったりする活動を通して、一つ物事に対してみんなで協力すること、自分の役割を最後まで果たすことができるようになってきた。
- ・初めての物事との出会いを恐れており、うまく対応したり適応したりすることができなかったが、まずは見てみよう、まずは聞いてみようという前向きな姿を見かけることが増えてきている。

## 【8】自己評価

### 1. 苦労した点

本学級の児童は、一人ひとりの能力や特性、さらには家庭環境が様々で、世界の国々についての知識や興味がある児童と、全く知らず興味もない児童がいた。夏休み中に、ブラジルへ行ったことを話すと、「それって電車でどのくらい？」「横浜のとなり？」と聞く児童もいれば、「とっても遠いんだよね？」と言う児童もいるところから授業を始めるに当たり、興味関心をどのようにして高めていく方法や児童の実態に応じて授業計画や展開をその都度、工夫・改善していくことが難しかった。また、授業のまとめとしてワークシートを使ったが、漢字を使って文章を書ける児童もいれば、平仮名やカタカナを正しく書くことも難しい児童もいるため、どの児童にも分かりやすいワークシートの作成に苦戦した。

### 2. 改善点

国際理解や異文化理解への興味関心を高めるきっかけづくりとして、ブラジルを中心とした「世界」に関する学習を国語・算数・図工・道徳・自立活動など様々な教科の時間で9月から継続的に行った。本学級では、道具の使い方や発表の仕方なども細かく指導したため、かなりの授業時数を使って、一つ一つのことに時間をかけて取り組み、作品として仕上げたり発表をして達成感を味わわせたりもした。しかし、児童の実態も異なるため、この学習を通して何を経験させ、何を学ばせたいのか教師のねらいを明確にしておく必要があると感じた。

児童の発達段階に応じた資料の提示方法を検討すべきだと実感した。

### 3. 成果が出た点

一番の成果は、児童が世界の国々に興味をもち始めたことだ。ブラジルだけではなく、日本やそれ以外の国についても興味を示し、継続的な学習へと発展している。また、自分とは異なる国と文化があることを知り、そのよさに気付くことができた。

教室の一角に『ブラジルコーナー』を作り、自由に触れる機会を設定した。ブラジルのお金や購入した楽器、国旗絵本や世界に関する写真、国旗かるたや地球儀ボールなどを通して、世界を身近に感じることができるようにした。授業では、ブラジルで撮影した映像や写真を見せたり、ブラジルの国旗を製作したりするなど、活動を多く取り入れたことで、どの児童もブラジルへの興味関心を高め、日本や世界の国々についても少しずつ興味をもつことができた。



さらに、学習内容をクイズ形式でまとめ、それをそれぞれの交流級で発表し、交流級の友達にブラジルについて紹介する経験をしたことで、廊下で会うときに「ボンジーア！」と挨拶をしてきたり、「ブラジルのことを教えてください。」などと他学級の児童もブラジルに興味をもつきっかけをつくることができた。

#### 4. 備考(授業者による自由記述)

今後の教師海外研修を通し、私自身も「世界」に対する見方や考え方に変化があり、今まで以上に興味関心が高まった。ブラジルで経験したことを児童に合う方法で伝え、この研修での学びを活かした「世界」に関する実践を続け、国際理解や異文化理解への興味関心を高めるきっかけづくりをしていきたいと考えている。

最後になったが、今回の研修を充実させることができたのは、多くの方々のおかげである。JICA関係者、現地コーディネーター、日系社会ボランティアの方々、研修を通して出会ったたくさんの方々、とても充実した時間を共に過ごした研修参加者の仲間たち、研修に参加するきっかけと実践授業に協力してくれた管理職と同僚、そして、この学習に楽しく参加してくれる子どもたちに深く感謝している。

#### 参考資料

- ・岡崎務(2013)「体験取材！世界の国ぐに6 ブラジル」株式会社ポプラ社
- ・平田美咲(2013)「国際理解に役立つ世界のお金図鑑①アジア・オセアニア」汐文社
- ・平田美咲(2013)「国際理解に役立つ世界のお金図鑑②ヨーロッパ・中東」汐文社
- ・井田仁康(2010)「国別大図鑑 世界の地理 第5巻 南北アメリカの国々」学研教育出版
- ・永武ひかる(2013)「世界のともだち03 ブラジル 陽気なカリオカ ミゲル」偕成社
- ・西村佐二(2000)「体験取材！世界の国ぐに(6)ブラジル」株式会社学習研究社
- ・文・写真 岡崎務／指導 野田一郎(1999)「世界各地の暮らし 20 ブラジルの暮らし」株式会社ポプラ社
- ・今森光彦(1998)「アマゾン・アマゾン たくさんのふしぎ傑作集」福音館書店
- ・てづかあけみ(2011)「はじめてのこっきえほん」パイインターナショナル
- ・越川頼知(2016)「たのしい世界の国旗えほん 絵と地図もいっぱい」池田書店
- ・高橋晴子(2006)「国際理解に役立つ民族衣装絵事典—装いの文化をたずねてみよう」PHP研究所
- ・ジュリア ウォーターロー(1995)「アマゾン川」(川の地理図鑑—人びとの暮らしと自然) 偕成社
- ・てづかあけみ(2015)「世界えじてん」パイインターナショナル
- ・赤澤豊(2011)「はじめてのせかいちずえほん」パイインターナショナル
- ・長新太(1989)「世界のあいさる(みるずかん・かんじるずかん)」福音館書店
- ・ぼここうぼう(2013)「世界がわかる こっきのえほん」学研マーケティング
- ・長谷川義史(2017)「だじゃれ世界一周」理論社
- ・てづかあけみ(2009)「パノラマせかいりょこう」コクヨS&T
- ・てづかあけみ(2015)「パノラマせかいのおしごと」コクヨS&T
- ・銀城康子(2008)「ブラジルのごはん」(絵本 世界の食事)農山漁村文化協会
- ・こどもくらぶ(2001)「きみにもできる国際交流<24>ブラジル・ペルー」偕成社
- ・世界の国旗めぐりえ <http://abyssse.co.jp/world/nurie/index.html>
- ・外務省 国・地域 <http://www.mofa.go.jp/mofaj/area/index.html>
- ・NHK for school すくどう 世界地図 民族衣装編 <http://www.nhk.or.jp/school/sukudo/special/117/>

#### 本時で使用した主な資料(教材)

児童が作ったパネル、調べ学習用書籍一覧

ふれあい作品展パネル



卒業式と入学式用のパネル



本時で使用した調べ学習用書籍

タイトル	著者名	出版者	出版年	表紙
国際理解に役立つ世界のお金図鑑 ①アジア・オセアニア	平田美咲	汐文社	2013年	①
国際理解に役立つ世界のお金図鑑 ②ヨーロッパ・中東	平田美咲	汐文社	2013年	②
国別大図鑑 世界の地理 5巻 第5巻 南北アメリカの国々	井田仁康	学研教育出版	2010年	③
世界のともだち ブラジル 陽気なカリオカ ミゲル	永武ひかる	偕成社	2013年	④
体験取材！ 世界の国ぐに（6） ブラジル	岡崎務	ポプラ社	2006年	⑤
世界の子どもたちはいま 第1期 全8巻 ⑧ ブラジルの子どもたち	西村佐二	株式会社 学習研究社	2000年	⑥
世界各地の暮らし 20 ブラジルの暮らし	文・写真 岡崎務 指導 野田一郎	株式会社 ポプラ社	1999年	⑦
アマゾン・アマゾン たくさんのふしぎ傑作集	今森 光彦	福音館書店	1998年	⑧

①	②	③	④
			
⑤	⑥	⑦	⑧
			

# 世界で満開！ とびだせ6の4～ブラジル編～



氏名：柴田 浩行	学校名：横浜市立神大寺小学校	
担当教科：	実践教科：総合的な学習の時間・社会・道徳・家庭科	
時間数：15 時間	対象学年：6 年生	人数：31 名

## 実施概要

### 【1】単元のテーマ・目標

- ・日系ブラジル人がどのような思いをもって生活しているのかを知ることで、自分とは文化や考え方が異なる相手と互いを認め合おうとすることができる。
- ・日本人の移民の歴史を調べることで、日本人が諸外国に対してどのような貢献を果たしてきたのかを考えることができる。

【2】 単元の評価 規準例	(ア) 関心・意欲・態度	ブラジルの国土の特徴や産業の様子、人々の暮らしの様子、文化や生活習慣、日本とのつながりを、見通しをもって調べようとしている。
	(イ) 思考・判断・表現	ブラジルの人々の暮らしの様子、文化や生活習慣などについて、日本との相違点・共通点、日本とのつながりを考え、適切に表現している。
	(ウ) 技能	ブラジルの人々の暮らしの様子、文化や生活習慣などについて、図書資料や統計資料、インターネットを活用したり、生活文化を体験したりして調べ、まとめている。
	(エ) 知識・理解	ブラジルの人々の生活・文化や、国土の特徴、日本とのつながりを理解している。また、異なる文化や習慣をもつ人々と協調し合っていくことの大切さを理解している。

### 【3】 単元設定の理由

- ✓ 児童  
生徒観
- ✓ 教材観
- ✓ 指導観


本校6年生の児童は、教師や友達の話をしっかり聞くことができ、やるべき課題に対して前向きに取り組むことができる。その一方で、自ら主体的に課題を発見・追究しようとする場面は少ない。また、友達との関わりについては相手の気持ちより自分の気持ちを優先させようとして、思い通りにならないとトラブルに発展することがある。そこで、ブラジルの日系移民の歴史を探り、日系ブラジル人の思いをもとに自分たちの生活や考え方を見直すことで、世界に目を向けて自分たちとのつながりをさらに探究しようとして、自分とは考え方が違う相手とも協調し合っていこうとしたりする態度を育てていきたいと考えた。

#### 【4】展開計画（全 15 時間）

時	テーマ・ねらい	活動・内容	使用教材
1	○自分たちの身のまわりのものや景色などとの共通点・相違点に気付き、学習課題について話し合うことができる。 (総合的な学習の時間)	◆ 教師がブラジルで見てきたものや景色などを紹介する中で、気付いたこと(気になったことや調べてみたいこと)を共有する。	・世界地図 ・地球儀 ・写真 ・映像
2	○調べたい課題を仲間分けすることで、追究していくテーマをまとめることができる。 (総合的な学習の時間)	◆ 前時の気付きをもとに追究していく課題をあげ、種類ごとに大きく仲間分けをして、それぞれのテーマにまとめる。また、テーマごとに分担し、グループで調べていく見通しをもつ。	
3・4	○それぞれのテーマについて、グループごとに調べ学習をすることができる。 (総合的な学習の時間)	◆ 修学旅行の事前学習でもテーマとなった「自然」「文化」「歴史」の3つのグループに分かれて、調べ学習を行う。また、調べたことを画用紙にまとめて、発表の準備をする。	・パソコン ・画用紙
5	○調べたことをグループごとに発表し、わかったことを全体で共有することができる。 (総合的な学習の時間)	◆ グループごとに調べたことを発表し合う。調べている中で、追究しきれなかったり、新たな疑問が出てきたりしていたら、それも互いに紹介し合う。	・画用紙
6 本時	○人にはいろいろな見方や考え方があることを理解し、それぞれの個性や立場を尊重しようとすることができる。(道徳)	◆ 日系ブラジル人の写真から、「人種」や「外国人」に対して無意識の偏見をもちながら生活していることを自覚する。また、教師がブラジルで出会った日系ブラジル人の方へのインタビューをもとに、考え方は人によって異なることを理解する。	・写真 ・ワークシート
7	○日系移民の歴史を追究するという課題意識をもち、調べ学習の見通しをもつことができる。 (総合的な学習の時間)	◆ 前時までの学習を通してわかったことや気付いたことをまとめるとともに、もっと知りたいことを共有する。	・ワークシート
8・9	○世界に移り住んだ日本人がいて、現地の発展にどのように貢献したのかをとらえることができる。(社会)	◆ 日系移民の歴史について、資料をもとに調べる。また、調べた事実を全体で確認する中で、それに対する自分の考えをまとめて発表し合う。	・社会科教科書 ・社会科資料集
10	○青年海外協力隊として活動していた人の話を聞くことで、国際貢献の意義について考えることができる。 (総合的な学習の時間)	◆ 青年海外協力隊としてスーダンで活動していた方の話を聞く。どのような思いで、どのような活動をしていたのかを直接聞く中で、自分なりの考えをもつようにする。	

11・12	○異文化を体験したいという意欲をもち、ブラジルの郷土料理作りの計画を立てることができる。 (総合的な学習の時間)	◆ 異文化を体験するために、教師が実際に現地で食べてきたブラジルの郷土料理を自分たちで作ってみる。そのために必要な材料や作り方を調べるなど、計画を立てる。	・パソコン
13・14	○ブラジルの郷土料理を、計画にそって作ることができる。 (家庭科)	◆ 以前お話をしてくれた青年海外協力隊の方を招待し、自分たちで立てた計画にそって、ブラジルの郷土料理を作って食べてみる。	・必要な食材
15	○学習全体を通して学んだことを振り返ることで、これからの自分の生き方について考えることができる。 (総合的な学習の時間)	◆ 異文化に出会い、理解することの大切さと楽しさをあらためて自覚し、これからも自分とは異なる考え方や文化に積極的に関わっていこうとする姿勢をもてるようにする	

## 【5】本時の展開

過程時間	学習活動	指導上の留意点(支援)	資料(教材)
導入 2分	○「もしも『あなたは何人(なにじん)ですか?』と聞かれたら、なんて答えますか。」という質問に対する、自分なりの答えを発表する。	◆ この質問に対しては何の疑問も感じずに「日本人」と答えることが予想されるが、それは今回の学級には外国籍につながる児童はいないためである。実態によっては、導入の仕方を変える必要がある。 ◆ 授業後の考えの変容を自覚させるために、出てきた発言と学級の集合写真を板書に残しておく。	・学級の集合写真
展開 1 18分	○日系ブラジル人の一族の集合写真を見て、気付いたことについて話し合う。 	◆ 教師のホームステイ先の一家で撮影した、一族の集合写真の一部を見せる。初めは何も情報を与えずに、児童が率直に気付いたことを話し合えるようにする。 ◆ ワークシートと付箋を使い、一人ひとりの気づきを全体へと広げていく。	・パワーポイント ・写真 ・ワークシート ・付箋 ・模造紙

写真から気付いたことを付箋に書く

○日系ブラジル人について知り、考えたことを発表し合う。



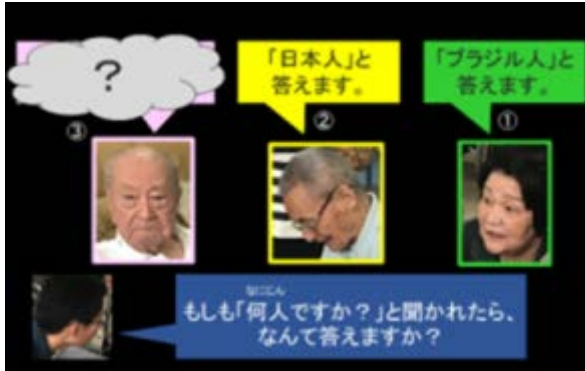
気付いたことを共有する

◆ 写真中央のご主人以外は、全員ブラジル人であることとともに、「日系〇世」という言い方と意味を教える。

◆ 児童が驚きを見せたら、なぜ驚くのかを問い返すことで、「人種」や「外国人」に対して無意識の偏見があったことに気付かせる。

展開  
2  
20分

○ブラジルの厚生ホームで出会った日系ブラジル人の方への「もしも『あなたは何人(なにじん)ですか?』と聞かれたら、なんて答えますか。」という質問に対する答えを聞く。



インタビューを紹介するパワーポイント

◆ ブラジルの厚生ホームで、教師が実際に話を聞いている場面の写真を見せる。また、その中にいた3名(いずれも日系2世の方)が答えた内容を紹介する。

・パワーポイント  
・写真  
・ワークシート

○日系ブラジル人の方の思いについて自分の考えをもち、発表し合う。



互いの考えを共有する

◆ 3名はそれぞれ異なる答えをしている。1人目は「ブラジル人」、2人目は「日本人」、そして3人目は「それに答えるのはとても難しい」である。そのひとつずつについて、なぜそのように答えたのかを自分なりに考えさせる。特に3人目の答えについては多様な意見が出るのが予想されるので、時間を長めに確保する。

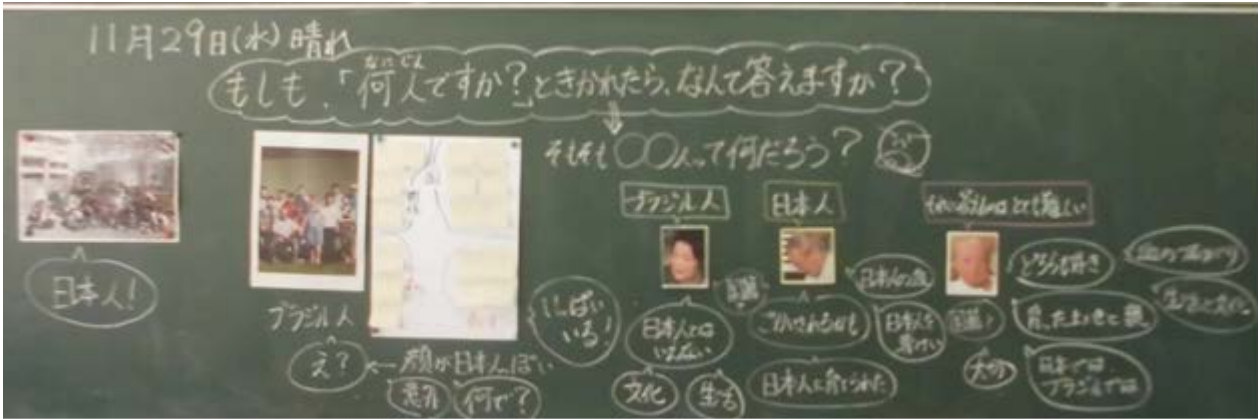
◆ 一人ひとりの考えを全体化できるように、まずは個人で考え、その後グループ、そして全体で発表し合うようにする。

まとめ 5分 ○話し合いを通して学んだことを振り返る。

◆ 振り返りに書いたことを発表し合い、考えの変容を自覚する。

・ワークシート

最終板書



### 【6】本時の振り返り

展開2においてグループやクラスで共有する中で、3人の方のどの答え方が正解というわけではなく、人によって考え方や大切にしているものがちがうだけなんだということに気付くことができていた。授業の最後には、自分とは異なる考えも尊重しようとする振り返りが多く見られた。また、人種を気にする必要などないのではという、多文化共生を目指すような振り返りをする児童もいた。一方で、相互理解の態度は1時間の授業で十分に養うことができるものではない。今後も、本単元に留まらず、他教科や学校行事、あるいは日常生活の中で継続的に子どもたちに伝えていく必要がある。

### 【7】単元を通じた児童の反応/変化

・単元の最初にブラジルのものや景色を紹介したときには、児童は日本との違いに驚いていた。

川が海みたいでびっくりした。色の境い目がハッキリしていた。  
 がソリスタンドが川にあったことがびっくりした。

道路が逆?  
 海だと思、たら川? きれい。

「水が出る」のひまわりがきれいおどろいた。  
 ・葉はかじり!!! ・花もきれい!!! } おどろいた。  
 魚もきれい。川もきれい!!!  
 ・アホカドもきれい!!!



・ブラジルについて調べ学習を進める中で、日本の食べ物や伝統文化がブラジルにたくさんあることに気付き、その理由に興味をもっていた。

。なんでブラジルに、日本料理があるの？  
。なんでブラジルの新聞が日本語？

ブラジルに日本語で書いてある新聞があることにびっくりしました。これをみてブラジルの人はどうするのかなと思いました。

納豆、新聞、本、おし、鳥居、巻ずし、カレー、日本人形  
ブラジル！

・第6時の実践授業を通して、人にはそれぞれの見方や考え方があることを理解していた。また、多文化共生を目指すような思いをもつ児童もいた。

その人の考え方がいじわるということについて知りました。

自分(個人)の考え方で、他人<sup>個人</sup>だけじゃなくて、いろいろ変わってくるということが分かった。  
また感じ方次第で変わる。

「他人に対する」というのは、とて難しい質問だなと思った。  
人は、考え方ばかりで考えた。  
それに、自分はマインツで考えた。「どこか他人に対する」と聞かされた時に、そのことと同じかなと思った。

人種は気にしないでだれもが堂々と  
人間です。と言えよな社会がいいな  
と思う。

・日系社会についてもっと知りたいという課題意識をもつようになった



### 【単元を通し変容した児童の態度や学習意欲】

6年生の始めから週に2回行っている自主学习(内容を自分で決めて、問題を解いたり調べ学習をしたりする家庭学習)において、世界の国々の地理的特徴や日本とのつながりを題材とする姿が見られるようになった。

### 【途上国・異文化への意識の変容】

(授業前)

多くの児童にとっては、外国というだけで全くちがう世界であるというイメージがあった。例えば、食べ物や乗り物、建物など、日常生活の中でよく目にするものが日本とは異なるのが当たり前であるという感覚だった。国際理解教室等の学習においても、多くの場合が日本の文化との違いを伝える内容の授業である。だから、ブラジルの紹介をしたときには、意外にも日本との共通点が出てきたときの方が反応が大きかった。

(授業後)

今回の授業を通して、住む場所や言語の違いはあっても、それを人間としての違いとしてとらえるのではなく、考え方は人それぞれであることは自分たちと変わらないことを理解することができた。また、ブラジルの中に日本の文化があることを知り、その理由を調べたことで、自分たちとも関わりがあることを知ることができた。それにより、授業前のように「外国＝違う世界」という捉え方から、世界はつながっていて、そこで生活する人々の思いは自分たちとも共通することがあることに気付くことができた。

## 【8】自己評価

### 1. 苦労した点

異文化理解の重要性とその価値を伝えるための授業をしたいという思いで、事前研修から授業づくりに取り組んできたが、それを教室の中で実現させる方法を考えることに苦労した。自分が現地で体験した多くの異文化は、どれも教材になり得るもので、どれを入口として児童に思考させていくべきか。それは、現地での研修を終えてからのほうがより悩んだ部分だった。

### 2. 改善点

今回、私が担任するクラスには外国籍につながる児童がいなかった。しかし、もしもそのような児童がいた場合には、授業のメインとなる「何人(なにじん)と聞かれたら」という質問を児童にも投げかけるかどうかについては配慮が必要な場合があると考えられる。児童のどのような考えを引き出すのかは、その実態や家庭的な背景に応じて変える必要がある。

### 3. 成果が出た点

まずは私自身が異文化を肌で感じ、生きた体験を語ることで、それが児童の世界に対する興味関心につながったことだ。また、現地で私が悩んだりわからなくなったことも児童と共有したことで、異文化理解や途上国の問題解決は簡単にできることではないことも理解させることができ、継続的な課題意識をもたせることもできた。

### 4. 備考(授業者による自由記述)

初めは「開発教育」という言葉自体にあまり馴染みがなかったが、研修を含めた今回の授業づくりを通して、その大切さと難しさを感じた。本実践は開発教育という視点から有効的な部分もあったと思うが、あくまでも実態に合わせた一例なので、この実践をスタートとして今後も教材研究・教材開発を重ねていきたい。また、私自身が異文化ともっともっと出会うことで、異文化理解力を高めていきたい。

## 参考資料



学級掲示「ブラジルで買った世界地図」

黒板に大きな四角を書き、「ここに世界地図を貼ります。日本はどこにあるでしょう。」と問いかけると、全員の子どもが四角の真ん中のやや上あたりを示した。その後にこの世界地図を見せると、日本が真ん中になくことに驚いていた。この活動を通して、今まで見てきた世界地図はあくまでも日本を中心とした日本人のためのものだったことに気付いた。



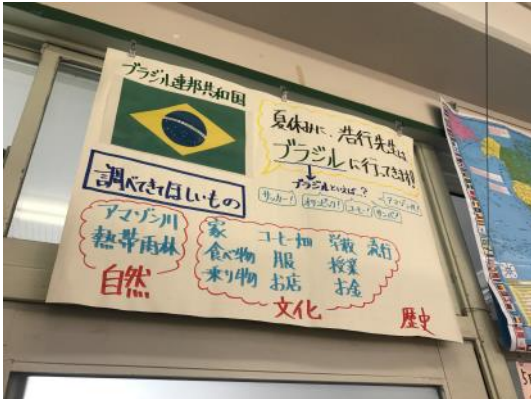
単元名「世界で満開! とびだせ6の4 ブラジル編」

主に総合的な学習の時間で進める学習の単元名を、子どもたちと一緒に決めた。「満開 そして結実」という学年目標に向かって、子どもたちは日々学習や行事に取り組んできた。その中で、この学習を通して「ブラジルのことだけを知るのではなく、他の国のことも知りたい。」という意見が多く出た。そして出来上がったのがこのタイトルだった。



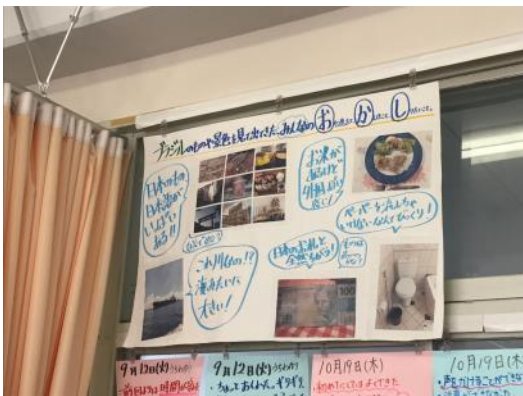
### 厚生ホームでの交流

サントスにある厚生ホームに訪問して日系の方々からたくさんお話を聞かせていただいた。日本からブラジルに移住してきた経緯や、ブラジルでの暮らしの様子などを聞かせていただく中で、その思いに触れることができた。本時展開にあるように『もしも何人(なにじん)ですか?』と聞かれたら、なんて答えますか。」という質問に対する答えは多様で、人間のアイデンティティについて深く考えるきっかけとなる体験だった。



### 学級掲示「ブラジルで調べてきてほしいもの」

現地研修に行く前(夏休み前)に、子どもたちにブラジルに行くことを伝えた。子どもたちは見たり調べたりしてきてほしいものを思い思いに述べていた。掲示の中にある「自然・文化・歴史」の三つのキーワードは、7月の日光体験学習の事前の調べ学習で大切にしてきたもので、今回はそれをブラジルに置き換えることで、ブラジルのことを深く学ぼうとしていた。



### 学級掲示「先生が見てきたもの」

現地研修を終え、私が見てきたものを写真や動画で紹介した。子どもたちは通貨や伝統料理などを見て「外国っぽい!」と反応したり、アマゾン川を見て「海みたいに大きい!」とつぶやいたりするなど、驚く様子がたくさん見られた。その一方で、日本食や鳥居など、日本らしいものがたくさんあることを知ると「なぜだろう。」と疑問をもつ姿もあった。ここから、さらに調べていきたいことをみんなで出し合っていた



### ホームステイ先の及川さん一家の集合写真

現地研修の中で、1泊だけホームステイをさせていただいた。ホームステイ先は及川さんという日系一世の方のお宅で、お家の中に集合写真が飾られていた。私はこの写真を見たときに、ほとんどが日本人であると勘違いしてしまい、自分の中にある無意識の偏見に気付かされた。同じような気付きを子どもたちにもしてほしいと考え、許可をいただいて撮影させていただいた。

参考資料:教科書 社会科(6年生)

資料集 社会科(6年生)

ブラジル調べ学習 <https://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%83%96%E3%83%A9%E3%82%B8%E3%83%AB>

ポン・デ・ケイジョ作り <https://cookpad.com/recipe/4639433>

### 本時で使用した主な資料(教材)

パワーポイントスライド



## 日系 1世

日本で生まれて  
日本で育った



## 日系 2世

ブラジルで生まれて  
ブラジルで育った  
親は日本人



日系 2世

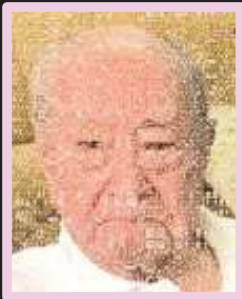
ブラジルで生まれて  
ブラジルで育った  
親は日本人



なにじん  
もしも「何人ですか？」ときかれたら、  
なんて答えますか？



③



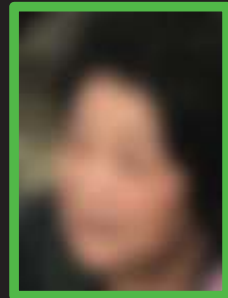
「日本人」と  
答えます。

②



「ブラジル人」と  
答えます。

①



なにじん  
もしも「何人ですか？」と聞かれたら、  
なんて答えますか？

# 水でつながる わたしたちの地球

～横浜の阿久和川とサンパウロのチエテ川～



氏名：塚本 靖則	学校名：横浜市立岡津小学校	
担当教科：	実践教科：総合的な学習の時間	
時間数：7 時間	対象学年：5 学年	人数：33 人

## 実施概要

### 【1】単元のテーマ・目標

1975 年に国際環境教育会議で採択されたベオグラード憲章において、環境教育の目的が明確にされた。環境教育の一番の目的は「持続可能な社会を担い得る主体者(環境リテラシーを身につけた人)の育成」にあるとされている。つまり「地球環境についての理解とその保全に必要な知識、態度、価値観、技能を身につけ、問題解決能力を育成するとともに、地域、国、世界等のさまざまなレベルで生じる『環境と開発』に関わる意思決定過程に積極的に参加できる人間の育成」をめざすことである。

本単元では、教師が実際に訪問したブラジル連邦共和国のチエテ川の異臭・汚染問題について知り、そこで環境問題に取り組んでいる小学生と関わることで、水でつながる地球に生きる一人としてわたしたちにできることはないか考える学習を進める。自分たちに何ができるか、地域や社会にどのような提案ができるかなど、環境を大切に思う心とともに行動力を育てたい。

【2】 単元の評価 規準例	環境についての感受性・相手を思いやる心		<ul style="list-style-type: none"> <li>身近な環境や広く国土の環境に関心を持ち、そこに存在する水問題に意識を向けることができる。</li> <li>水資源を大切にしようとする心をもつとともに、自分も市民、国民の一人として一緒に環境問題に取り組もうとする。</li> </ul>
	環境に対する見方・考え方	思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>川の汚染問題について調べる活動を通して、水資源に関わる環境と生活の関連を考えることができる。</li> <li>問題の原因・実態から生活との関連、水資源にかかわる環境改善や保全のあり方について、具体的・実践的に考えようとする。</li> </ul>
		技能	<ul style="list-style-type: none"> <li>様々な方法で情報収集をし、地図や地球儀、統計などの資料を活用しながら、問題の原因・実態を読み取り、調べたことや考えたことをノートなどにまとめたり、表現したりしている。</li> </ul>
		知識・理解	<ul style="list-style-type: none"> <li>調べた環境問題について、人々の生活とのかかわりをもとに、その原因・実態を整理して理解することができる。</li> <li>人間の環境に対する責任や使命を自覚し、自分にもできる取り組み、市民、国民のなすべき活動について理解を深めることができる。</li> </ul>
環境に働きかける意思決定・実践力		<ul style="list-style-type: none"> <li>人間活動と環境との関りを理解したうえで、自分の生活も改善し、実践できる。</li> <li>持続する共生社会に向けた人々の活動に関心をもち、自分も継続して参加することができる。</li> </ul>	

【3】 単元設定の理由	現在、子どもたちは社会科の学習を通して、我が国の国土と産業（農業、水産業、工業）について学んできた。それぞれの単元の終末には、常に環境保全を重要とする視点が含まれており、産業に従事する人々はそれぞれの産業を守っていくと同時に、地球にやさしく、環境に配慮した取り組みを行っていることを学んだ。
✓ 児童 生徒観 ✓ 教材観 ✓ 指導観	岡津小学校の学区には子どもたちの憩いの場であるまほろば（阿久和川）があり、夏場には川で水遊びをする姿を見かける。そこで身近な阿久和川と地球の反対側のチエテ川を比較することをきっかけに、ブラジルで起こっている川の異臭・汚染問題について知り、ブラジルの子どもたちも環境保全のために取り組んでいることから、水でつながる地球に生きる一人としてわたしたちにできることはないか考え、考えたことをもとにできることを実践するという学習単元を展開していく。

#### 【4】展開計画（全7時間）

時	テーマ・ねらい	活動・内容	使用教材
0	○世界が直面している開発課題とそれらの課題に向けた、持続可能な開発目標【SDGs】について知ることができる。	◆ JICA 横浜を訪問し JICA の取り組みについて知る。また SDGs 展を見学することで、世界が直面している開発課題とそれらの課題に向けた持続可能な開発目標【SDGs】について知る。	SDGs スタンプラリー —
1	○持続可能な開発目標【SDGs】の17つのそれぞれの目標について知ることができる。	◆ 「世界がもし100人の村だったら」の映像を視聴し、世界には様々な課題があることを知る。またパワーポイントをもとにSDGs(持続可能な開発目標)の17つのそれぞれの目標について知る。	・「世界がもし100人の村だったら」映像 ・SDGs 缶バッジ ・SDGs パワーポイント ・朝日新聞 ・GLOBE
2	○ブラジルについて知り、日本と比べることができる。	◆ ブラジルの位置や人口、気候、首都、公用語、学校での教育活動などを手がかりに日本と比べることで、ブラジルについて知る。	・ブラジルの地図 ・現地で撮影した写真
3	○チエテ川の異臭・汚染問題について知り、原因や実態について考えることができる。	◆ サンパウロ州を流れるチエテ川の異臭・汚染問題の原因を予想したり、実態について知り、日本の阿久和川と比較したりすることで。	・現地で撮影した写真
4	○オンドارينパ事業について知り、世界は水でつながっていることに気付くことができる。	◆ サンパウロ州サントス市で行われている汚染された水を浄化して海に流すオンドارينパ事業(クリーン・ウェーブ・プロジェクト)について知り、世界は水でつながっていることに気付く。	・現地で撮影した写真
5 本時	○ブラジルの子どもたちの取り組みについて知り、わたしたちにできることはないか考え、話し合うことができる。	◆ サンパウロ州カサパーバ市の小学生が環境保全のために、木を植える活動を行っていることを知り、地球の反対側のわたしたちが地球のためにできることについて考え、それぞれの意見を発表し合う。	・現地で撮影した写真・映像
6	○水でつながる地球の環境保全のためにできる取り組みについて調べることができる。	◆ 本やインターネットなどを活用して、地球の環境保全のために行われている取り組みについて調べる。	



- 7 ○自分にできることや地域や家庭の人々に提案すること、伝える方法等を考え、計画を立て、実践する。
- ◆ 友だちと協議しながら自分にふさわしい実行可能な実践内容にしぼらせる。これまでの学習をふりかえり、世界で起きているそのほかの環境問題にも視野を広げる。

## 【5】本時の展開

### 目標

- ・サンパウロ州カサパーバ市の小学生が環境保全のために木を植える取り組みをしていることを知り、地球の反対側のわたしたちが地球のためにできることを考えることができる。
- ・わたしたちが地球のためにできることについて、それぞれの考えをもち話し合うことができる。

過程時間	学習活動	指導上の留意点(支援)	資料(教材)
導入 5分	<p>○前時までの学習についてふりかえる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● サンパウロのチエテ川はとても汚れていたね</li> <li>● サントスのオンドリンパ事業では汚れていた水もきれいにしてから海に流していたね</li> <li>● 世界は水でつながっていたんだね</li> </ul>	<p>◆ これまでの学習が想起しやすいよう、学習した内容を掲示する。</p>	<p>・ブラジルの地図 ・現地で撮影した写真</p>
展開 30分	<p>○サンパウロ州カサパーバ市の小学生が環境保全のために木を植える取り組みをしていることを知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● ブラジルの子どもも地球のこと考えているんだ</li> <li>● わたしたちにもなにかできないかな</li> </ul>	<p>◆ 映像をふりかえることができるように、映像から抜き出した画像・写真を用意する。</p>	<p>・現地で撮影した写真・映像 ・グループ一枚の模造紙</p>



○今までの学習や経験、調べてきたことをもとに、地球の反対側のわたしたちが地球のためにできることを話し合う。

- 水を大切に使い、流しっぱなしにしない。
- 油や墨汁はいらぬ紙で吸って捨てよう。

○グループで話し合ったことをもとに、全体で共有する。

○カサパーバ市の子どもたちからのプレゼントを手に取り、ブラジルの子どもの地球への思いを知る。

- ブラジルの子どもも地球のこと、真剣に考えているんだ
- もっとできることがあるはずだ

◆ 5、6人グループをつくり 司会をたてて、子どもたち主体で話し合いを進める。

◆ 話し合う内容と手順を明確にする。

- ①水を汚さない・大切に使う・きれいにするなど、どんな取り組みがあるか
- ②わたしたちに実践できる取り組みはどれか



☆わたしたちが地球のためにできることについて、それぞれの考えをもち話し合うことができる。

【知識・理解】

・ブラジルの子どもたちからの魚のメッセージカード

☆サンパウロ州カサパーバ市の小学生が環境保全のために木を植える取り組みを知り、地球の反対側のわたしたちが地球のためにできることを考えることができる。【思考・判断・表現】

まとめ 10分 ○本時の学習のふりかえりをする。



◆ 子どもたちの考えや学びの変容が分かるようにワークシートに記入させる。

## 【6】本時の振り返り

子どもたちは前時まで、チエテ川が人の手によって汚染されていることや、その汚染された水を日本の支援により浄化してから海に流すオンダリンパ事業(クリーン・ウェーブ・プロジェクト)が行われていることを学んだ。そこで海はつながっているということに気づき、本時を迎える前に、家族に地球のためにエコのためにしている家庭での取り組みについてインタビューをしていた。本時ではサンパウロ州カサパーバ市の小学生が環境保全のために木を植える取り組みを知り、地球の反対側のわたしたちが地球のためにできることを考え、それぞれの考えを話し合うという活動を行った。

成果として二つのことがあげられる。子どもたちは自らの経験や家族にインタビューした内容などを参考に、わたしたちが地球のためにできることを考え付箋に書き、グループごとに話し合いを行った。発表が苦手な子どももそれぞれの考えを付箋に書き、グループの友だちと共有することができていた。すべての子どもが自分の考えを発表する場があった5~6名のグループという場の設定は成果と言えるだろう。またブラジルの子どもたちが実際に木を植えている映像やカサパーバ市長のフェルナンド・ジーニスさんからの「自分たちにできることから始めよう」というメッセージ、ブラジルの子どもたちからの魚の形をしたメッセージカードなど教師が実際に訪問したからこそできた授業は、子どもたちにとってより身近に感じられ、身近な阿久和川と比較することでより自分事として捉えることにつながったことも成果としてあげられる。

課題としてあげられることの一つは、子どもたちの考えが一般論で終わってしまったことである。子どもたちが付箋に書いたそれぞれの地球のためにできることは「買い物に行くときはエコバッグを持っていく」、「車で信号待ちの際にアイドリングストップをする」、「油で汚れた皿やフライパンはいらぬ布や紙で拭いてから洗う」などの一般論であり、子どもたちが実際に日ごろできることではなかった。家族にインタビューをしたことで、小学生の子どもたちの身の丈に合った考えがあまりでなかったことは想定外だった。今日の学習問題を確認する際に、「わたしたち」という言葉の意味を「小学生五年生としてのわたしたち」、「学校生活の中でのわたしたち」などと意味合いをしっかりと抑えておけば改善されたであろう。もう一つの課題は前述の課題と関連して、学習の最後に、本来の単元を貫く学習課題であるチエテ川の汚染問題にもどることができなかったことである。子どもたちの考えた取り組みの中には「電気をこまめに消す」、「歯磨きをしている際に、水道を一度止める」などと環境についての取り組みなのか、それとも家計の生活費の節約という視点、どちらなのか判断しにくい曖昧なものがあった。子どもたちがグループごとに発表をした時に「ではどの取り組みが、ブラジルのチエテ川、ひいては地球の川や海をきれいにすること、汚さないことにつながるだろう」と問いかける必要があった。そうすることで、一般論である考えや子どもの身の丈にあっていない考え、節約やエコなど曖昧な考えは自ずと淘汰されていったのではないかと考える。

## 【7】単元を通した児童の反応/変化

本単元の導入で学級の子どもたちを対象にアンケートを行った。「水についてどのように考えているか、どのように使っているか」という内容のものだ。このアンケートに対し、大半の子どもたちが「大切な資源だと考えている」、「大切に使っている」、「ふつうに使っている」、など特に水に対して問題意識を持っておらず、私たちが何気なく水を無駄遣いしていることに気付いていない子どもやきれいな水が蛇口から出ることに對して当たり前のように考えている子どもが多かった。単元を進めていく中で、世界は川や海でつながっていることに気付くことができた子どもたち、彼らの心を大きく揺れ動かしたのは、ハワイ島のカミロビーチに日本を含む東南アジアから流れてきたプラスチックごみが流れ着いているという内容の新聞記事だった。「自分たちには関係ない」、「直接、関わっていない」と考えていた子どもたちは、自分たちもこの問題に関わっていることに気付くことができた。

子どもたちは、実践授業本時の振り返りで、「水を今まで何も考えずに、無駄遣いをしていただけ大切に使いたい」、「自分にできることから少しずつはじめてみたい」と考えを深めることができた。授業後、中には「世界で他に困っていることはないのかな」、「他の国や地域ではどんな問題が起こっているのかな?」、「世界の問題や困っていることだけではなく、もっと良いところも調べてみたい」などと視野を広げる子どももおり、新聞記事を切り抜いて持ってくる子どもやインターネットで調べてくる子どももいた。単元の前に比べると、ほとんどの子どもの目が世界を向いたと断言でき、自ら進んで学習する態度を育めたことは大きな変化とすることができるだろう。

## 【単元を通し変容した児童の態度や学習意欲】

子どもたちの学習意欲をより高めたものは JICA 横浜に訪問したことである。11月に JICA 横浜に社会科見学に行き、SDGs(持続可能な開発目標)についての特設展示と海外移住資料館を見学させていただいた。子どもたちは SDGs 展に興味津々で楽しみながら世界の様々な開発課題とそれに対する取り組み、そして SDGs について知ることができた。特に SDGs の 17 の目標のスタンプラリーを集めるのに夢中だった子どもたちは、SDGs 缶バッジをお土産としていただいてとても喜んでいて。子どもたちは缶バッジを配るとすかさず、着ているシャツや筆箱、リュックなどに付け、また実践授業の本時にもつけている子どもがたくさんいて、子どもたちにとって SDGs がより身近なものになったであろう。

## 【途上国・異文化への意識の変容】

(授業前)

12月の人権講演会で本校の校長が世界の水事情について、講話をした時のことである。「世界のすべての国のうち、きれいで安全な水が蛇口から出てくる国はいくつあると思いますか」というクイズに対して、ほとんどの子どもが「およそ50から100カ国くらい」と手を挙げていた。正解の「およそ15カ国」という事実を知ると、子どもたちはとても驚いていた。その後、子どもたちに聴くと「私たちの国は恵まれていたんだ」、「世界のほとんどの国はきれいな水が出ないことにびっくりした」、「日本に生まれてよかったと思ってしまった」などと感想を述べていた。小学五年生の子どもたちは世界の問題についてあまりに無知であるということが分かったと同時に、子どもたちが世界の様々な開発問題について知る機会がないこと、また知る必要感がないことについて考えさせられた。そして本単元の学習を通して、世界の様々な開発問題に目を向けるきっかけづくりができればと考えるようになった。

(授業後)

子どもたちにブラジルで出会った人々や訪れた場所を紹介する中で、サンパウロを流れるチエテ川の異臭・汚染問題について紹介した。チエテ川の問題を知った子どもたちは、自分たちに身近な阿久和川と比較して、「チエテ川はなぜ汚れてしまったのだろう」とその原因を考え、「近くに住んでいる人は大丈夫かな?」、「川の生きものも心配だな」などと思いを寄せ、そして「そのまま海に流れてしまったら大変!」と気付いた。次にサントスで行われている汚染された水を浄化して海に流すオンダリンパ事業(クリーン・ウェーブ・プロジェクト)について子どもたちに紹介した。写真を見せる中で子どもたちは、ブラジルの国旗といっしょに写っている日本の国旗とJICAのマークに気付き、驚いていた。「日本がブラジルの水をきれいにするお手伝いをしているんだ」、「でも世界の反対側なのになぜ日本がやらなきゃいけないの?」、「でも海はつながっているから誰かが水をきれいにしなきゃ!」などと子どもたちは活発な議論を交わした。そして環境問題を扱う本や新聞をさらに読んだり、地球や環境、エコのために実践していることがあるか家族にインタビューしたりと学習を進め、実践授業の本時を迎えた。

本時でもブラジルの子どもたちが実際に木を植えている映像やカサパーバ市長のフェルナンド・ジーニスさんからの「自分たちにできることから始めよう」というメッセージ、ブラジルの子どもたちからの魚の形をしたメッセージカードなど教師が実際に訪問したからこそできた授業は、子どもたちにとってより身近に感じられ、身近な阿久和川と比較することでより自分事として捉えることにつながった。またブラジルの子どもたちも地球のために取り組んでいるという事実を知ること、先進国は開発途上国を援助しなければならない」という考えではなく、「自分たちにできることを実践し、協力しよう」という考えになったことは、とても良かった。また自分たちが実践することはもちろん、家族や友だち、地域の人などに伝えることも同じく大切である。岡津小学校では毎年一月に学習の発表の場である岡津フェスティバルが開催される。「岡フェスでみんなに世界のことを伝えたい!」とたくさん子どもたちから要望があり、現在はその岡津フェスティバルに向けてより広く、より深く学ぼうとする子どもたちの姿が見られるようになった。

## 【8】自己評価

### 1. 苦勞した点

- ブラジルという地球の反対側の国の問題に思いをはせる難しさがあった点。子どもたちは見たことも行ったこともないチエテ川について、いかに身近で自分事として捉えることができるようにするか悩んだ。
- 実際には、チエテ川の汚染問題は地域住民や上流に住む人々の意識の問題だけではなく、国や州、市の下水道インフラ設備の問題でもある点。市民協力レベルでは解決できないことが教材としてふさわしくなかったと考える。
- チエテ川についてインターネットで調べてもあまり情報がなかった点。子どもたちにとっては扱いづらい一つの要因となってしまった。

### 2. 改善点

- 可能ならばチエテ川の近くに住む人の思いやインタビュー映像などがあるとより良いと考える。
- JICA 横浜の訪問が行事の都合により、学習の前になってしまったが、本来学習と子どもたちの思考の流れを考える

と、チエテ川の汚染問題を取り扱った後に、それをきっかけに世界の様々な開発課題や SDGs について知り、より学習を深めるために JICA 横浜を訪問すべきだった。

### 3. 成果が出た点

- チエテ川の汚染問題を考えることをきっかけに、子どもたちの意識が世界に向いた点。
- 子ども自ら進んで新聞の切り抜きを持ってきたり、インターネットで調べるようになったりとする点。
- 学習した内容をより深く、広く学びたいという意欲につながり、そしてそれを人に伝えたいと思うようになった点。

### 4. 備考(授業者による自由記述)

今、子どもたちの意識は世界に向いています。子どもたちの意識が世界に向くことができたのも、この教師海外研修に参加してブラジルに行くことができたからであり、なによりも支えていただいた JICA やメディア総合研究所のみなさんをはじめ、ブラジルで出会った方々のおかげだと思っています。貴重な体験をさせていただき、また子どもたちに深い学びを与えてくれたことに感謝しています。ブラジルの子どもたちとの交流はまだ続いています。この交流も子どもたちの意識も、ともに持続可能にしていきたいと考えています。

### 参考資料

国際協力機構 JICA 地球ひろば (2014)『国際理解教育実践資料集～世界を知ろう！考えよう～』

公益財団法人しまね国際センター(2016)『小学校における環境教育の指導—サンパウロ州カサパーバ市—』

池田香代子(2001)『世界がもし 100 人の村だったら』マガジンハウス

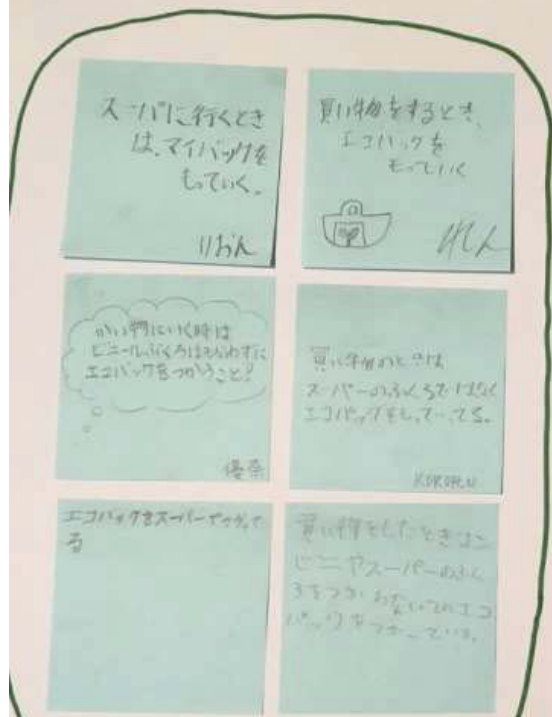
国谷裕子(2017)『未来をあきらめない』朝日新聞社 GLOBE

### 本時で使用した主な資料(教材)

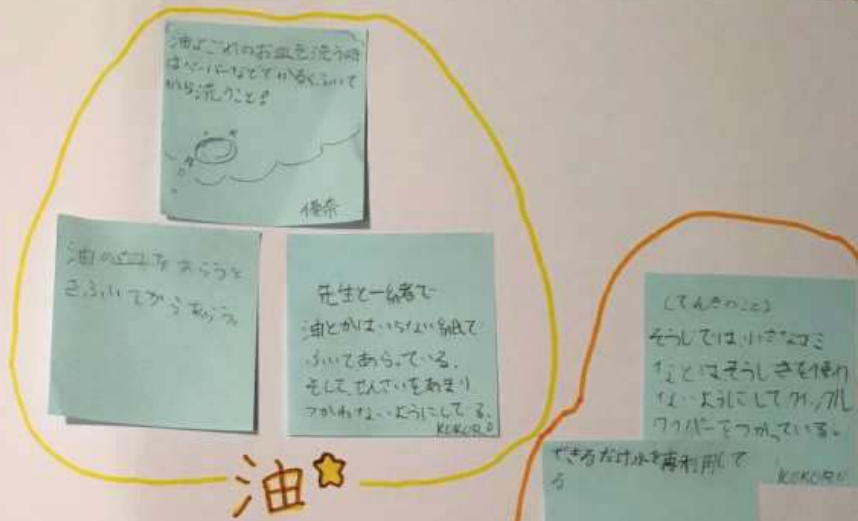
授業で見せた写真、児童がまとめた付箋紙・ポスター



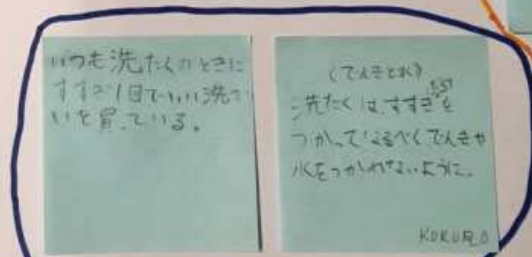




# ★エコバック★

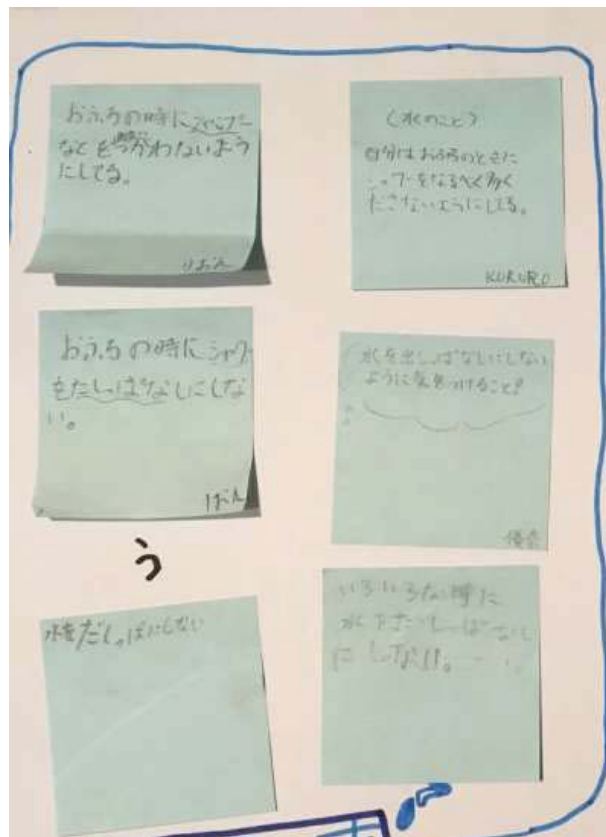


# 油★

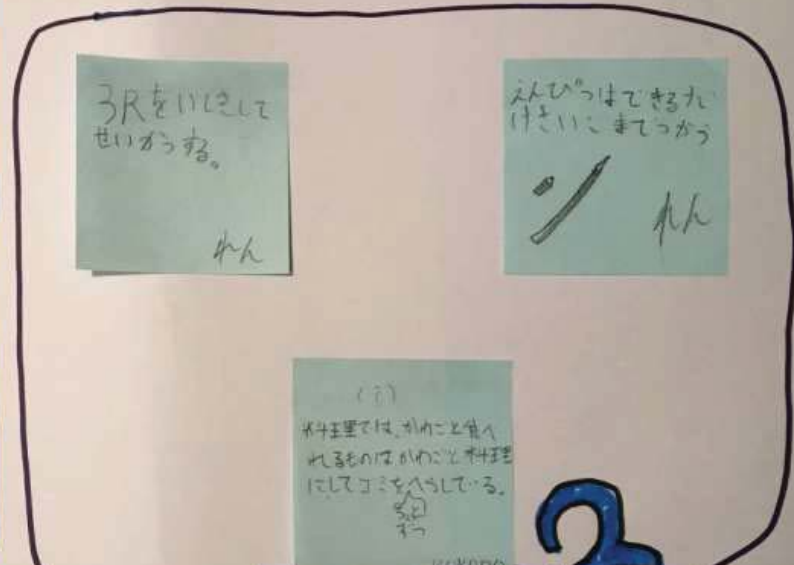


# 洗たく★

# その他★



# 水の事



# その他



**電** **水** **3R!** **リサイクル** **ゴミ**

油をシンクに流さないほうが、おんやうなどとふきとるようになってる。  
小林 詩明

トイレで流すときは、小で流している。  
岩本 浩太

よれは、フライングペーパーをキッチンペーパーで包んでから洗う。  
川原 悠太

電気の節約  
 1. 電気のスイッチをこまめに消す。  
 2. 電気のスイッチをこまめに消す。  
 岩本 浩太

水の節約  
 1. 洗面器の水をためて、トイレに流す。  
 2. 洗面器の水をためて、トイレに流す。  
 岩本 浩太

**3R!** **リサイクル**  
 1. 古物の衣類をリサイクルする。  
 2. 古物の衣類をリサイクルする。  
 岩本 浩太

**ゴミ**  
 1. 古物の衣類をリサイクルする。  
 2. 古物の衣類をリサイクルする。  
 岩本 浩太

分べつをちゃんとする。  
小林 詩明

**5はん**  
 1. 古物の衣類をリサイクルする。  
 2. 古物の衣類をリサイクルする。  
 小林

**節水** **エコ** **その代** **6はん**

洗濯機の手ぎしは、一回にして。  
谷翔真

残りのお湯を付けて節水している。  
谷翔真

エコバッグを持っていくようにしている。  
谷翔真

エコバッグを持っていくようにしている。  
仲さ

使った油は、紙のゴミ箱に入れておいて。  
谷翔真

水をまたにしないように、お風呂の水を再利用している。  
阿藤 悠太

水をまたにしないように、お風呂の水を再利用している。  
阿藤 悠太

お風呂の水を再利用している。  
阿藤 悠太

お風呂の水を再利用している。  
阿藤 悠太

# ゴミ

<p>食料を大切に</p> <p>減量</p>	<p>ティッシュやトイレットペーパーを使いすぎないようにしている。</p> <p>はづき</p>	<p>油は流さず固めて捨てる。</p> <p>はづき</p>	<p>ゴミはきちんと分別して捨てる。</p> <p>はづき</p>
<p>資源を大切に</p> <p>リサイクル</p>	<p>川にポイ捨てしない。</p> <p>左巻き松す</p>	<p>大根の皮がきれいなときは捨てずに、きんぴらなどにして食べる。</p> <p>はづき</p>	<p>ポイ捨てはしない。</p> <p>はづき</p>

## 使い終わった水

<p>洗たくするときにふろの残り湯を使う。そした</p>	<p>使ったお風呂の水をせたくする時に使う。</p> <p>しゅ</p>
<p>お米をこいた水を植木にかける</p> <p>そした</p>	

## ゴミ・しげん

<p>しげんを大切にす。</p> <p>しゅ</p>	<p>3Rをこころがける。</p> <p>しゅ</p>	<p>エコパックを使う</p> <p>大賀</p>
<p>お風呂の残り湯をトイレの洗浄剤として使う。</p> <p>しゅ</p>	<p>お茶のティーバッグを1パックはしげんとして使う。</p> <p>しゅ</p>	

<p>昼間は電気をひかなくする。</p> <p>しゅ</p>	<p>使わない場所の電気をこぼれに消す。</p> <p>しゅ</p>
--------------------------------	------------------------------------

## 電気

### 水をむたにしない

<p>水を出しっぱなしにしない。</p> <p>しゅ</p>	<p>あまりたくさん水を使わないように出しっぱなしにしない。</p> <p>しゅ</p>
<p>皿を洗ったとき水をだしっぱなしにしない。おけに水をためる。</p> <p>そした</p>	<p>水をむたにしない。</p> <p>大賀</p>

### ゴミ2

<p>お風呂の残り湯をトイレの洗浄剤として使う。</p> <p>しゅ</p>	<p>お風呂の残り湯をトイレの洗浄剤として使う。</p> <p>しゅ</p>
--	--

### その他

<p>洗濯するときホースではなくてバケツで洗う。</p> <p>しゅ</p>	<p>生動物は水をぬいてから捨てる。</p> <p>大賀</p>
--	----------------------------------

<p>寒い日は着る回数が多い服を着る。</p> <p>しゅ</p>
-----------------------------------

## 電気2

洗濯機は  
コップを洗う  
とき、水を  
ためておく。

手を洗う時に  
水をだし、ばた  
にしない。

テレビの音量を  
10にしている

テレビの音量を  
10にしている

洗濯機は  
コップを洗う  
とき、水を  
ためておく。

テレビの音量を  
10にしている

使用する油は  
油を減らすには  
油を減らすには  
油を減らすには  
さいとう

ふるった洋服を  
あたたかにして、ほろほろ  
にしている。

使い終わった牛乳パック  
でアイスをつくる。

使い終わった牛乳パック  
でアイスをつくる。

エコバックをもう  
一つ持っている

買い物に行く時に、  
自分のエコバックを使  
う。

油は、いらない  
物は糸糸で、  
でからあろう。

洋服は、洗濯機で  
洗う。

お風呂の湯を、  
使わない。

ペットボトルを使  
って、  
日常に使うものを  
作る。

エコバックをもう  
一つ持っている

### 電気

電気を使わない  
ときは消す。

お風呂を  
使ったとき、  
お風呂を  
使ったとき、  
お風呂を  
使ったとき、

お風呂を  
使ったとき、  
お風呂を  
使ったとき、  
お風呂を  
使ったとき、

お風呂を  
使ったとき、  
お風呂を  
使ったとき、  
お風呂を  
使ったとき、

ペットボトルを  
再利用する。

使ったペットボトルは  
他の形に変えて  
使う。

使ったペットボトルは  
他の形に変えて  
使う。

使ったペットボトルは  
他の形に変えて  
使う。

### エコ

水を  
ためておく。

水を  
ためておく。

水を  
ためておく。

水を  
ためておく。

水を  
ためておく。

水を  
ためておく。

水を  
ためておく。

水を  
ためておく。

水を  
ためておく。

車はアイドリング  
ストップ車の。

### リサイクル

使ったペットボトルは  
他の形に変えて  
使う。

使ったペットボトルは  
他の形に変えて  
使う。

使ったペットボトルは  
他の形に変えて  
使う。

使ったペットボトルは  
他の形に変えて  
使う。

使ったペットボトルは  
他の形に変えて  
使う。

### 水

水を  
ためておく。

水を  
ためておく。

水を  
ためておく。

水 でつながる

わたしたちの地球



サンパウロに流れる  
チエテ川

きたない くさい

どうして?

水にとけないゴミや生活排水、  
はいせつ物、動物の死体 などが流れているから...

周りに住んでいる人  
たちはたじょうぶ?

海や川の生きものが  
かわいそう!!

そのまま海に流したら大変!?

まほろば

阿久和川

きれいとは言えない.....

でも色は透明で夏は水遊びをする

においはない 大雨のあとは生ぐさい





よごれてしまった水をきれいにして  
海にかえす取り組み

# オンダリンパ事業

そこにはなんと!!

日本の国旗と JICA のマーク!!

日本が協力していたんだ!



ろかしたり、ちんでんさせたり、  
バクテリアなどの生き物の力を借りたり  
日本の下水処理場と同じ仕組みだ!

サベスピで働く レアンドロさん

よごれてしまった水をきれいに  
してから、海に流します。  
下水道をより整備して、  
より水をきれいにしたいです。  
海はみんなのものだからね。



青は水道管、赤は下水処理場、

黄はきれいにした水を運ぶトンネル

サントスの港

を表しているよ!!



サンパウロ州カサパーバ市の  
小学校では、地球のために  
木を植える活動に取り組みました。

ブラジルの子どもたちも地球のこと  
環境のことについて考えているんだ!!

## 私たちにできることはないか?

水

- ・出しっぱなしにしない
- ・お風呂の水を洗たくに使う
- ・油よこれは紙や布でふいてから洗う

ゴミ

- ・しっかり分別する
- ・食べものを残さない
- ・3Rを心がける
- ・ものを大切に使う
- ・エコバッグをもちあそぶ

電気

- ・こまめに消す
- ・エアコン・ストップを使いすぎない
- ・気候に合った服を着る
- ・日の光を多くとり入れる

カサパーバ市 市長  
フェルナンド・ジニスさん

自分たちができること  
からはじめよう!!



ブラジルのお友だちから  
魚の形をしたメッセージカードを  
もらったよ!!  
日本とブラジルは遠いけど、  
地球を大切に思う心は同じ!

# 多文化共生 ～世界の中の私たち～



氏名：池田 奈都希	学校名：横浜市立松本中学校	
担当教科：保健体育科	実践教科：総合的な学習の時間	
時間数：4 時間	対象学年：中学 3 年生	人数：157 人

## 実施概要

### 【1】単元のテーマ・目標

- 国際色豊かな横浜で過ごす生徒にとって、異文化を知ることで視野を広げ、自分自身の成長へと繋げる。
- 卒業後も色々な人と関わり合う中で、異文化を楽しむことができる生徒を育てる。
- 答えのない問いに対し、自分の考えを持ち、伝える力を養う。



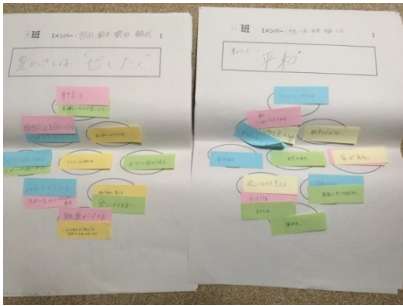

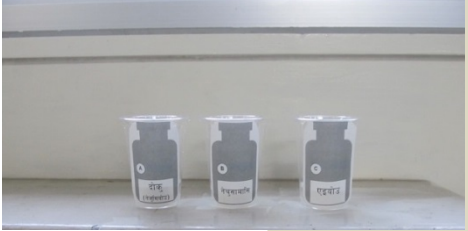
【2】 単元の評価 規準例	学習方法に関すること	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 諸外国の文化や日本の文化に興味をもち、自分自身で学習の方向や計画を決定する。</li> <li>● 収集した情報を多様な視点から考察してまとめ、自分の考えを相手にわかりやすく発信する。</li> </ul>
	自分自身に関すること	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 外国人や外国とつながる人々の直面する課題を、自分自身につながる課題として捉え自分ができることを考える。</li> <li>● 諸外国の文化や日本の文化を見つめ直し、これからの自分の生き方に結びつけていく。</li> </ul>
	他者や社会とのかかわりに 関すること	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 課題解決に向けて、積極的に様々な人たちとかかわり、その思いを知る。</li> <li>● 外国人や外国につながる人々の直面する課題を理解し、課題解決に向けて社会活動に参加したり自分自身ができる国際貢献を行ったりする。</li> </ul>

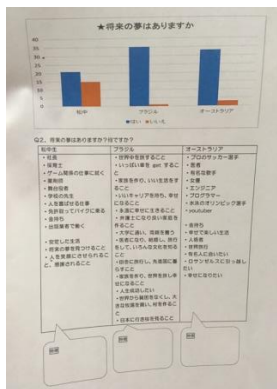
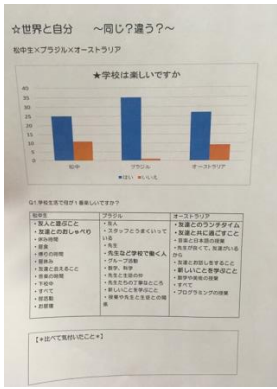
### 【3】 単元設定の理由

- ✓ 児童  
生徒観
- ✓ 教材観
- ✓ 指導観

昨年度は横浜市教育委員会が主催する海外研修派遣事業でオーストラリアに派遣され、派遣先のオーストラリアの学校との交流をきっかけにした“多文化共生”をテーマに授業を行ってきた。今年度は昨年度の学習を重ねてきている生徒たちへの取組という位置づけとした。生徒たちは、様々な文化や特徴を受け入れ共生していくことがこれからの時代のニーズに必要であるという認識や、他の国へ興味関心を持ち、他国と比べることによって自分たちの国のことを改めて考えることができるようになってきた。今年度はさらに深めていくために、全世界が目指す「持続可能な開発目標」SDGs についての学習も取り入れることで、世界との繋がりをより感じて、考えていけるよう、学びの連続性を意識した単元設定にした。

## 【4】展開計画（全4時間）

時	テーマ・ねらい	活動・内容	使用教材
1	○「多文化共生」について考えよう。 	◆ ブラジルのことを紹介。ブラジルと日本の繋がりや、同じこと、異なることを紹介し、ブラジルを身近に感じるとともに開発途上国とは、多文化共生とは何だろうということを考える。 【講演形式】	・パワーポイント ・ワークシート ・現地の写真、動画
2	○「豊かさ」について考えよう。 	◆ 世界の中の日本を感じ、豊かさについて考える。世界を相対的に捉えながら、日本のことを振り返って考える。 ①数字から読み解く世界と日本  ・国内総生産(GDP)、人間開発指数(HDI)、国民総幸福料(GNH)の世界のランキングを読み解く ②「世界を見る基準」を知った上で「豊かさ」を考える。 ・豊かさの基準を個人で書き出す。 ・グループで話し合い ・ダイヤモンドランキングを作る(個人→グループ) ③発表	・JICA 横浜図書資料 ・GDP マップ ・ダイヤモンドランキングシート
3	○「SDGs」を知り、私たちとの繋がりを考えよう。 	◆ 日本の社会問題と世界の社会問題の繋がりを考え、私たちができていることを考える。 ①世界の教育クイズ ②識字疑似体験 ③社会問題について考える ④SDGsを知る。 ⑤私たちにできること ⑥発表	・JICA 横浜図書資料 ・識字体験キット ・ユニセフ HP ・SDGs ロゴ ・SDGs 関連映像 
4 本時	○「幸せ」について考えよう。	◆ 様々な角度から幸せについて考える。 ①世界と自分 ・松中生×ブラジル×オーストラリア(世界の同じ年代の子との比較) ②幸せについて考える	・松中生、ブラジル、オーストラリア生徒のアンケート集計結果 ・VTR「世界がも



・ワールドカフェ形式  
③ 私たちにできることを

し100人の村だっ  
たら」

松中生×ブラジル×オーストラリア

**[5] 本時の展開**

過程 時間	学習活動	指導上の留意点(支援)	資料(教材)
導入 10分	<p>【テーマ確認】</p> <p>○「幸せについて」 -様々な角度から考える-</p> <p>○世界と自分 -比較から見る幸せ-</p> <p>○復習 (多文化共生、豊かさ、SDGs について)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 今までの学習を思い出させる。</li> <li>◆ 今日の時間は自分の人生を長いスパンで考えた上での学習。</li> <li>◆ 目の前の進路のことだけでなく長いスパンでのキャリアプランについて考える。</li> </ul> <p>◎様々な視点から幸せについて考える</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 比べて気づいたことを個人で書き出し、ペアで共有。</li> <li>◆ それぞれの国の特徴を書き出す。</li> <li>◆ 本時のテーマである“幸せ”と今までの学習を結びつける。</li> </ul>	<p>・日本、オーストラリア、ブラジルの生徒に取ったアンケート結果使用</p>
展開 33分	<p>○幸せについて考える。</p> <p>ワールドカフェ形式</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 説明</li> </ul> <p><b>お題</b></p> <p>①個人の幸せ</p> <p>②幸せでいられるのはなぜ? ～VTR 視聴～</p> <p>③世界全体(多文化共生社会)の幸せ→私たちにできること</p> <p>④発表</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 1つのお題につき各10分 (7分の話し合い、3分の移動&amp;残る人決め、説明)</li> <li>◆ グループ→共有</li> <li>◆ ワールドカフェ</li> </ul>	<p>・VTR「世界がもし100人の村だったら」</p>





ワールドカフェ形式による話し合い



“幸せ”とは話し合いを通して…

まとめ ○今日の活動の振り返り  
7分

## 【6】本時の振り返り

ワールドカフェ形式で行った話し合い活動では、自分の身近な幸せから段階を追って、世界全体の幸せについての意見交換をしたが、テーマが壮大なものになってしまい、多文化共生と幸せについて結びつけることが難しく、“自分や世界の幸せのために私たちができることは何か”というところまで深めることはできなかった。

しかし、中には「平和な社会を作ることが世界の幸せで、自分の幸せが他人の幸せにつながっていることを感じる事ができた。」という生徒がいたり、「世界全体の幸せとなると難しい。平和だと思う国は、平和ではないと思われる国と比べて感じていることだと思うから、世界全体の幸せを見つけるのは難しい。」と感じる生徒がいたり、生徒にとっては、このようなピックに触れ、多くの人の考えに触れることは新鮮に感じたようだった。

今回4時間の実践授業を通して、きっかけがないとなかなか立ち止まって考える機会が少ないテーマについて、自分自身が考えていることや他の人が考えていることを知ることができた、実りある時間になったと感じています。今後も子どもたちとともに考え、多面的・俯瞰的に世界を捉え、様々な価値観や文化的な違いを認め合い、共生していく人材の育成に努めていきたいと思いました。

## 【7】単元を通した生徒の反応/変化

### ■ 単元を通しての生徒の感想

- ・日本は平和なのだなと思った。ずっとランキングで下だった発展途上国と言われる、コンゴとかジンバブエとかどんな暮らし何だろうって思った。生きることが全ての平和とかを作り出しているから、自殺とかはよくないと思った。毎日困らずに生きていることに感謝しなければいけない。
- ・毎日ご飯が食べられたり、学校に行ったりするなど当たり前な生活ができていない国もあると知るともっと生活を大切にすべきだと思った。生きていることは幸せだな。
- ・日本はいかに恵まれているか海外では日本で当たり前のことがどのような状況なのか知りたいと思った。
- ・グループで互いに意見を出し合うことで「豊かさ」への考えの視野が広がったし、改めて普段の生活のありがたさも感じる事ができた。また、経済などが進んでいるからといってそれがイコール幸福感には繋がらないということに驚きました。
- ・人によって、幸せを感じる基準が違うことを実感しました。私は、本を読んでいる時や友達と話している時、食事をしている時に幸せを感じます。でも、日本全体としては幸せを感じている人が少ない。それはなぜだろう。私は、日本人は思っていることや感情をあまり言葉にしないのがそのような結果になっているのではないかと考えました。
- ・映像を見たり、実験をすることで、とても興味を持って授業に取り組めた。意見交換も活発にできた中で、結論メディアの情報は悪いことが多く流れているのが1番の問題なのではないかと思った。今回のブラジルを知ったみたいに違う文化を持っている人との交流の機会を学校で作って欲しい。
- ・日本についての幸せから世界について規模を広くし、学習してみて問題はたくさんあるけどもその中で、私ができることを見つけるべきだと感じられた。

- ・改めて自分たちの生活上の問題について気付かされた点が多くあり、もう一度自分の生活を見直すきっかけにもなりました。私たちの軽率な行動が世界の問題にまでつながっていることがわかりました。
- ・日本はもとい世界には問題が多くあることがわかった。今後の僕らや後の世代に傷痕が残らないためにも解決しないといけないと強く感じた。
- ・今まで日本からしか世界を見ていなかったけれど、外国から世界や日本を見てみると、日本も他人事ではなく、地球温暖化問題や資源を大切にしていこうなど、できることを見つけ、実行していかなければいけないと感じた。
- ・世界に目を向けてみることで、日本が豊かで恵まれていることに気づくことができた。同時に世界で困っていることに今まで気づけていなかったのも、もっと世界に目を向けてみようと思った。
- ・日本は豊かだけど、日本が無駄遣いすることによって、世界では困っている人がたくさんいることを改めて知ることができました。

## 【単元を通し変容した生徒の態度や学習意欲】

他を知ることで、自分たちを客観的に見られるようになったようだった。また、世界に目を向けようとする生徒が非常に増え、違いを受け入れる姿勢が以前よりも増えた。

自分たちの生活にどう関わり、どう活かしていくか考えられる姿勢が見られるようになった。

違う立場になって考えられるようになった。

## 【途上国・異文化への意識の変容】

(授業前)

途上国については、メディアの影響が強く、途上国は貧しく、生活が不自由で大変。あまり幸せではないというネガティブな印象があった。興味もそこまである感じではなく、途上国について考えることがなかなかないといった現状であった。また、異文化については、もともと興味が薄かったわけではない。“異文化”という捉えではなく、“多文化”という捉えであったため、“異文化”となると自分たちとは異なることが多く遠い存在に感じたようだった。

(授業後)

途上国に対しては、物質的な豊かさがなくても幸福度が高いことを知り、どのような暮らしをしているのか、どのようなことを考えているのか、さらに知りたいという思いを抱いたようだった。逆に「物質的に豊かな日本はどうなのだろうか」と他を見て、自分たちの暮らしを振り返るきっかけになったようだった。

異文化に対しては、価値観や考え方の違いについて「知る」ことで、近い存在になり、交流の機会が欲しいという要望が出るなど、興味を持つ生徒がさらに増えた。“異なる”ことを受け入れ、理解しあうことで世界はさらに良くなるという発言も見られた。

## 【8】自己評価

### 1. 苦労した点

- テーマが壮大でかつそれぞれの価値観が違うからこそ、いまいち本質を捉えきれない生徒も出てきてしまい、そのような子たちへの引き出すための発問がうまくしきれなかった。
- 学習活動を展開していく中で、生徒から新たな疑問が生まれたり、活動が盛り上がった時間や時間をかけることができれば、さらに掘り下げて、深めていけたのだが、授業時数の都合上、切り上げなければいけない苦しさがあった。
- 学年横並びで行う難しさ  
中学校では総合的な学習を学年で行う内容を合わせ、足並みを揃えて行うことが多く、他のクラスの教員にも同じ内容の授業を行ってもらわなければいけないので、伝えたいこと、生徒とともに考えたいことを事前に入念に打ち合わせを行う必要があることや同じ熱量を持って行う難しさを感じた。また、授業時数の確保も容易いわけではないので、時間数の捻出にも苦労した。
- 世界の課題を自分事にする難しさ

「世界の課題」を机上の空論で終わってしまうと、せっかく考えても行動に結びつける事が薄くなってしまふ。その「世界の課題」をいかにして自分事に近づけ、私たちの暮らしとも結びついている事を感じさせるかということが難しかった。

- 途上国と比べることで、「平和で豊かな日本に生まれてよかった」という思いで終わらせず、世界と私たちの繋がりを生徒自身が感じることで、その先にある世界全体を捉え、世界の問題を他人事ではなく、自分事として捉え、私たちの生活に落とし込み、どのようなことができるのかということに繋げていくのが、難しかった。

## 2. 改善点

- さらに細かい段階を踏んで、取り組みたい。SDGs についての授業実践は1時間ではなく、さらに深めたかった。今回は1時間のなかで SDGs を知り、日本の問題と世界の問題を出し合い、繋がりを考え、私たちにできることは何かということも考えるなど、内容が盛りだくさんだった。細分化することで、より深まりのある授業が展開できることと思う。また、多文化共生の授業の間が空いてしまったことで、高まっていた生徒の意識を取り戻すまでに時間がかかってしまったので、時期は空けずに連続して行なっていけると良いと感じた。
- 実際にブラジルの学校との交流を始めている中だったので、ビデオメッセージを上手く活用し授業の中で取り入れたり、同じトピックについて、ブラジルの生徒たちはどのように感じているかを聞くなどして、自分たちだけでなく世界全体で取り組んでいる、考えていることを実感しながら多文化共生の学習を進められると、さらに深まりのある未来につながる授業になったのではないか思った。

## 3. 成果が出た点

- 日頃きっかけがないとなかなか立ち止まって考える機会が少ないテーマについて、自分自身が考えていることや他の人が考えていることを知ることができたのは、大きな成果である。
- 世界を以前より近い存在に捉えることができ、「世界の中の私」であることを感じられたようだった。
- 自分たちを客観的に捉えることができたことも大きな成果と言える。
- 多面的・多角的に世界を捉え、様々な価値観や文化的な違いを認め合い、共生していくこと、支え合って生きていくことが目指すべき姿でこれからの時代を生き抜く上で必要不可欠であることを感じた生徒が増えたことも大きな成果である。

## 4. 備考(授業者による自由記述)

今回ブラジルを入りに「多文化共生」というテーマで途上国のことや SDGs についての学習、さらには「幸せ」を題材にした授業展開に挑戦できてよかった。特に「幸せ」については個人の内部のデリケートな部分を他人と共有する難しさがあり、課題は残ったが、子どもたちとともに「世界の一人」として“持続可能な社会”をなぜ目指していくのか、「幸せ」とどのようにつながっているのか、答えのない問いに向き合い、種をまくことができてよかったと感じている。これからも継続して、未来を作っていく子どもたちと共に考えていきたい。

## 参考資料

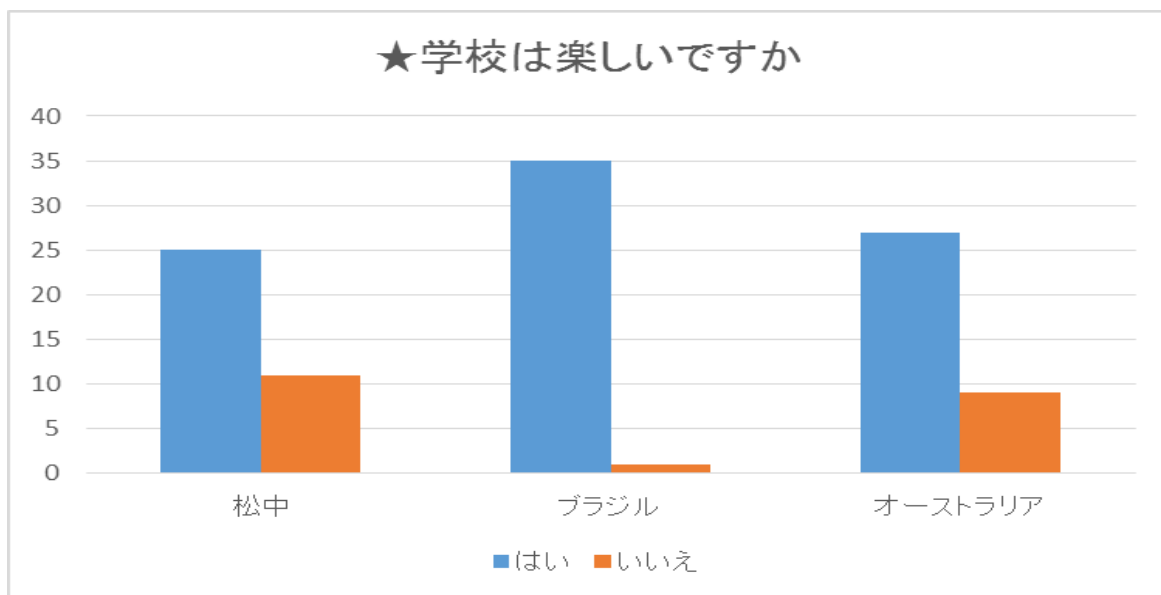
- ・ブラジルで撮った写真とビデオ
- ・ブラジルから送られてきたビデオレター
- ・JICA のパンフレット、研修でいただいた資料
- ・JICA 横浜図書室資料
- ・ユニセフのパンフレット
- ・開発教育協会「開発教育教育実践ハンドブック-参加型学習で世界を感じる[改訂版]」
- ・国連人間開発計画「人間開発報告書2011」
- ・電通総研「世界主要国価値観データブック」
- ・UNICEF 数字で見よう！世界の格差 -ユニセフ
- ・学校のための持続可能な開発目標(SDGs)ガイド -ユニセフ
- 【映像】2016 世界中に広めよう「持続可能な開発目標(SDGs) (エマ・ワトソン)-World's Largest Lesson2016」
- 【映像】世界がもし100人の村だったら <https://www.youtube.com/watch?v=RcEqVPbXMSM>

## 本時で使用した主な資料(教材)

日本、オーストラリア、ブラジルの生徒に取ったアンケート結果

# ☆世界と自分 ～同じ?違う?～

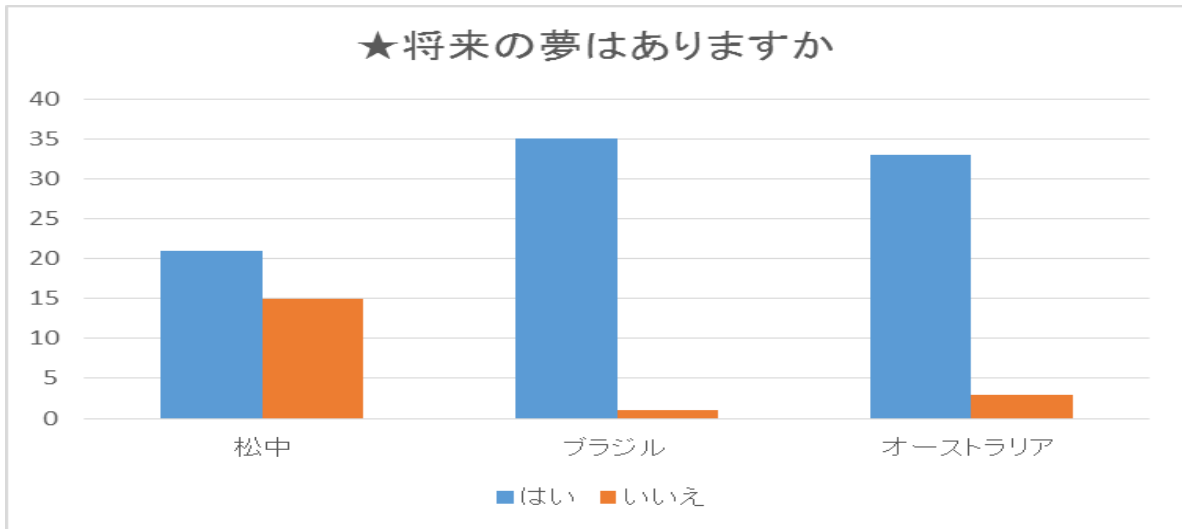
松中生×ブラジル×オーストラリア



Q1.学校生活で何が1番楽しいですか?

松中生	ブラジル	オーストラリア
<ul style="list-style-type: none"> <li>• 友人と遊ぶこと</li> <li>• 友達とのおしゃべり</li> <li>• 休み時間</li> <li>• 昼食</li> <li>• 帰りの時間</li> <li>• 昼休み</li> <li>• 友達と会えること</li> <li>• 音楽の時間</li> <li>• 下校中</li> <li>• すべて</li> <li>• 部活動</li> <li>• お昼寝</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 友人</li> <li>• スタッフとうまくいっている</li> <li>• 先生</li> <li>• 先生など学校で働く人</li> <li>• グループ活動</li> <li>• 数学、科学</li> <li>• 先生と生徒の仲</li> <li>• 先生たちの丁寧なところ</li> <li>• 新しいことを学ぶこと</li> <li>• 授業や先生と生徒との関係</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 友達とのランチタイム</li> <li>• 友達と共に過ごすこと</li> <li>• 音楽と日本語の授業</li> <li>• 先生が良くて、友達がいるから</li> <li>• 友達とお話しをすること</li> <li>• 新しいことを学ぶこと</li> <li>• 数学や美術の授業</li> <li>• すべて</li> <li>• プログラミングの授業</li> </ul>

【\*比べて気付いたこと\*】



Q2. 将来の夢はありますか？何ですか？

松中生	ブラジル	オーストラリア
<ul style="list-style-type: none"> <li>・社長</li> <li>・保育士</li> <li>・ゲーム関係の仕事に就く</li> <li>・薬剤師</li> <li>・舞台役者</li> <li>・学校の先生</li> <li>・人を喜ばせる仕事</li> <li>・免許取ってバイクに乗る</li> <li>・金持ち</li> <li>・出版業者で働く</li>   <li>・安定した生活</li> <li>・将来の夢を見つけること</li> <li>・人を笑顔にさせられること、感謝されること</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・世界中を旅すること</li> <li>・いっぱい車を get すること</li> <li>・家族を作り、いい生活をする</li> <li>・いいキャリアを持ち、幸せになること</li> <li>・永遠に幸せに生きること</li> <li>・弁護士になり良い家庭を作ること</li> <li>・大学に通い、両親を養う</li> <li>・医者になり、結婚し、旅行をして、いろんな文化を知ること</li> <li>・田舎に旅行し、先進国に暮らすこと</li> <li>・家族を作り、世界を旅し幸せになること</li> <li>・人生成功したい</li> <li>・世界から貧困をなくし、大きな牧場を買い、村を作ること</li> <li>・日本に行き桜を見ること</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・プロのサッカー選手</li> <li>・医者</li> <li>・有名な歌手</li> <li>・女優</li> <li>・エンジニア</li> <li>・プログラマー</li> <li>・水泳のオリンピック選手</li> <li>・youtuber</li>   <li>・金持ち</li> <li>・幸せで楽しい生活</li> <li>・人格者</li> <li>・世界旅行</li> <li>・有名人に会いたい</li> <li>・ロサンゼルスに引っ越したい</li> <li>・幸せになりたい</li> </ul>

# オッチモ！ ブラジルを楽しもう！



氏名：池野 絵美	学校名：横浜市立港南台ひの特別支援学校	
担当教科：家庭 他	実践教科：社会、家庭、美術、音楽、理科、外国語、自立活動	
時間数：10 時間	対象学年：中学部 1 年生	人数：29 人

## 実施概要

### 【1】単元のテーマ・目標

ブラジルの食文化や音楽を体験したり、現地の子どもたちと手紙等で交流したりする活動を通じて、世界にいろいろな国があることを知り、異なる文化との出会いの楽しさや喜びを感じる。また、それぞれの文化の違いや良さに気づく。

【2】 単元の評価 規準例	(ア) 関心・意欲・態度	外国の文化について興味や関心をもつ。
	(イ) 思考・判断・表現	国によってさまざまな異なる文化があることや、その良さに気づく。
	(ウ) 技能	手順を守って安全に調理したり、曲に合わせて楽器を演奏したりできる。
	(エ) 知識・理解	世界にいろいろな国があることがわかる。 地球儀や世界地図を見て、日本や世界の国々の位置がわかる。

### 【3】 単元設定の 理由

- ✓ 児童  
生徒観
- ✓ 教材観
- ✓ 指導観

生徒達は、中学部からの新しい学習である外国語の授業において、はじめは不安になったり緊張したりしながらも、外国語の歌やリズムに興味を示し、知っている英単語を使って積極的に AET に話しかける等、活動を楽しんでいる。また、学校祭で「いろいろな国の音楽」をテーマに舞台発表に取り組み、スペインやインド、アフリカの音楽を表現したり、いろいろな国の国旗を造形したりして、外国の文化に親しんできた。これらの活動を通じて、「日本」や「外国」等の言葉を知り、地理や自然環境に関心を広げる生徒、いろいろな国のことがらに興味を持ち、音楽等の活動を楽しむ生徒の姿が見られた。

上記の様子から、生徒たちの外国文化への興味や関心を広げ、また理解を深めることをねらいに、外国の音楽や食文化を体験する活動を設定した。今回、海外研修を生かしてブラジルの子ども達に手紙を書いたり、ブラジルの音楽や食文化を体験したりする活動を行うことで、生徒たちには、世界にいろいろな国があることを知り、ブラジルと日本の地理や文化について理解を深めてほしい。また、異なる文化との出会いの楽しさや喜びを感じ、それぞれの違いや良さに気づいてほしい。楽しい活動を通してお互いの違いや良さを認め合う経験を重ねることで、今後も様々な場面で訪れると思われる国際的な出会いや交流が、生徒一人ひとりにとって、より生活を豊かに彩るものになっていくことを願い、本単元を設定した。

### 【4】展開計画（全 10 時間）

時	テーマ・ねらい	活動・内容	使用教材
1・2	世界の子どもたちに手紙 を書こう～ブラジル編～	◆ 地球儀や国旗を見て、「世界」や「国」等についてイメージする。 ◆ ブラジルの音楽を聴いたり、映像を見たりして、ブラジルについて知る。	・地球儀 ・世界地図、国旗 ・『ブルー』(DVD) ・手紙、折り紙

		◆ ブラジルの子どもたちに手紙を書く。	・ポルトガル語挨拶文
3	世界地図にコラージュしよう①	◆ 学校祭の舞台発表の写真を、国や地域ごとに世界地図にコラージュする。 ◆ 国旗や国や地域の名前を知る。(日本、スペイン、インド、アフリカ、ブラジル、マレーシア)	・世界地図(模造紙) ・国旗 ・写真
4	ブラジルの「ポン・デ・ケージョ」を作ろう	◆ ブラジルの食文化に関するクイズに答える。 ◆ 調理工程で、材料や形、香りの特徴を感じる。 ◆ 「ポン・デ・ケージョ」や「マテ茶」と、日本の「給食の食パン」や「緑茶」を試食し、それぞれの違いや良さに気づく。	・世界地図コラージュ ・飛行機イラスト ・写真、カード ・食材 ・比較ワークシート
5	ブラジルの音楽や自然を楽しもう	◆ ブラジルの音楽を映像で鑑賞する。 ◆ ブラジルの動物やサンバ、季節について知る。 ◆ マラカス等の楽器を、曲に合わせて演奏する。	・『ブルー』(DVD) ・写真 ・楽器
6	世界地図にコラージュしよう②	◆ ブラジルの調理や音楽、自然の写真を、世界地図にコラージュする。 ◆ 『せかいちず絵本』を読み、いろいろな国のことがらに関心を広げる。	・世界地図コラージュ ・写真 ・『せかいちず絵本』
7	日本のことを知ろう・伝えよう～花笠音頭をおどろう～	◆ 日本の文化に関するクイズに答える。 ◆ JICA 研修員の方との交流に向けて花笠音頭を練習する。	・世界地図コラージュ ・国旗、写真 ・「花笠ロック」CD
8	日本のことを知ろう・伝えよう～お礼のプレゼントを作ろう～	◆ プラバンやビーズで国旗のキーホルダーを作る。 ◆ 筆ペンや桜の装飾を用いて、お礼のお手紙を書く。	・国旗、プラバン ・画用紙、筆ペン
9	JICA 研修員の方と交流しよう～日本へようこそ～	◆ 日本語、ポルトガル語であいさつをする。 ◆ 踊りや歌を通じて日本の文化を紹介する。また、ブラジルの文化を紹介してもらう。 ◆ 交流のお礼をする。	・世界地図コラージュ ・飛行機イラスト ・写真 ・「花笠ロック」CD
10	みんなの地球をまもろう～ブラジルの友だちからのメッセージ～	◆ ブラジルの動植物に関するクイズに答える。 ◆ ブラジルの子どもたちが植林に取り組む様子とメッセージをスライドで見る。 ◆ ごみの分別が、地球の環境を守ることにつながることを知る。 ◆ 資源ごみの分別(紙、プラ等)に取り組む。 ◆ ブラジルの子どもたちからの手紙をもらう。	・写真 ・動植物イラスト ・魚の手紙 (カサパーバの小学校) ・資源ごみ ・カード (言葉、シンボル)

## 【5】本時の展開

過程時間	学習活動	指導上の留意点(支援)	資料(教材)
導入	1. はじまりのあいさつ	・板書に注目を促す。	・スライド(クイズ、ブ

10分 2. 活動の見直しをもつ。



ラジルの写真等)



3. ブラジルの食文化を知ろう

(1)「ポン・デ・ケージョ」2 択クイズ

①なんのパン？ チーズ／さつまいも

②どこの国の食べ物？日本／ブラジル

(2) ブラジルの食文化や言葉について知る。

“Muito Bon!” 手で丸を作りながら発音する。

(3) 世界地図で日本やブラジルの位置を知る。

(4) パイロット役に挙手した生徒が、飛行機を日本からブラジルに飛ばす。

- ・スライドに注目を促す。
- ・国旗に注目を促す。
- ・動作や表情で言葉の意味がわかりやすいように表現する。
- ・地図に注目を促す。

- ・世界地図コラージュ
- ・飛行機イラスト
- ・パイロット帽子



「ポン・デ・ケージョ」という聞きなれない言葉に、生徒たちは「これから何を作るのだろう？」と興味津々だった。また、ブラジルの友だちへ手紙を届けたことを伝えると、うれしそう様子だった。

世界地図で日本からブラジルへ世界旅行に出发！学校祭で登場した国を中心に、いろいろな国の位置を学んできた生徒が、パイロットになりきって日本からブラジルへ飛行機を飛ばし、学習の成果を披露した。



展開 4. ブラジル料理を作ろう(各クラス)

① (1)「ポン・デ・ケージョ」の材料や作り方を知る。

30分 (2) 各工程で香りや触感等を意識することを知る。

(3) クラス毎に身支度や役割分担をする。

①まぜる

ポン・デ・ケージョの粉、卵 2 個、水 100 cc、チーズをボウルに入れ、菜箸やヘラで混ぜる。

②こねる

生地を 2 つに分け、袋に入れ、手でこねる。順番を待つ間に、包丁でベーコンを切る。

③まるめる

生地を伸ばし、スケッパーで等分する。生地にベーコンを混ぜ、手やラップで丸める。

④やく

オーブンに入れ、180～200℃で 15 分焼く。

焼いている間にマテ茶を準備する。

休憩時間をとる。

- ・簡潔に提示する。
- ・衛生面や包丁の扱いに注意する。

- ・少しずつ混ぜられるよう支援する。
- ・香りや生地の感触等について発問やフィードバックをする。

- ・個々の実態に応じて丸めやすい方法を支援する。
- ・やけどに注意する。
- ・焼きあがる様子に注目を促す。

- ・スライド
- ・シンボルイラスト
- ・作り方手順表
- ・シンボルイラスト
- ・材料





世界地図で日本からブラジルへ世界旅行に出発！学校祭で登場した国を中心に、いろいろな国の位置を学んできた生徒が、パイロットになりきって日本からブラジルへ飛行機を飛ばし、学習の成果を披露した。

展開 5. 試食をする、比べる(各クラス)

- ② (1) 焼き上がりに注目する。クラス毎に着席する。
- 30分 (2) 日本の「給食の食パン」や「緑茶」と食べ比べることを知る。
- (3)「ポン・デ・ケージョ」や「マテ茶」を試食する。日本の食べ物と比べる。
- (4) それぞれの味(舌)、食感(口)、香り(鼻)、見た目(目)、触感(手)の特徴や感想を考える。
- (5) 感想をワークシートに貼る。

- ・やけどに注意する。
- ・味や食感について発問したり、生徒の反応を言葉でフィードバックしたりする。
- ・生徒に応じた表現の方法を支援する。

- ・比較ワークシート
- ・付箋、ペン
- ・写真
- ・各種カード
- 言葉
- シンボル

食べ比べ・飲み比べ。ワークシートをもとに感想を出し合い、それぞれの味や香り、見た目の特徴や違いを考えた。

まとめ 6. ふりかえり

- 10分 (1) クラス毎に活動を振り返り、ワークシートをもとに感想を発表する。
- (2) 世界地図を見て、ブラジルの位置を振り返る。
- (3) 今日の給食でロシア料理のボルシチが出ることを知る。パイロット役に挙手した生徒が、飛行機をブラジルからロシアに移動させる。

- ・生徒の気づきに着目し、フィードバックする。

- ・比較ワークシート
- ・世界地図コラージュ
- ・飛行機イラスト
- ・パイロット帽子



様々な感想が聞かれた中でも、一番多かった感想はそれぞれ、「おいしい」、「すき」、「いいにおい」。生徒達には、異なる文化に関心を持ち親しむことは、私たちの生活を豊かにすることにつながる、これからも異なる文化との出会いを前向きに楽しんでほしいことを伝えた。

7. おわりのあいさつ



【6】本時の振り返り

本時は、食を通じて外国の文化への興味関心を高め、ブラジルについての理解を深める機会にしたいと考え、ブラジルで親しまれている一口サイズのチーズパン「ポン・デ・ケージョ」の調理に取り組んだ。生徒たちは、「ポン・デ・ケージョ」という聞きなれない言葉の響きから、「これから何を作るのだろう？」という疑問を持って授業に臨んでいた。初めて見るブラジルの食べ物や子どもたちの写真に注目が集まり、生徒たちの関心の高さを実感した。

調理の工程では、粉の香りや生地の感触等に意識を向け、味わいながら取り組んだ。「チーズの匂いがつよい!」、「もっちり」、「やわらかい」等の感想のほか、粉の袋を何度も確かめるように嗅いだり、驚いた表情をしたり、顔をしかめたり、鼻をつまんだり、様々な反応を示す生徒たち。本場ブラジル産のポン・デ・ケージョの粉は、生徒たちにとってかなりのインパクトがあったようだった。国際理解教育の教材として「食」は、多くの生徒が体験でき、また表現できる教材であることを感じた。

今回、給食室の協力のもと、生徒たちが日ごろから食べ慣れている「給食の食パン」を授業の中で食べ比べる機会を持つことができた。「ポン・デ・ケージョ」と「給食の食パン」、「マテ茶」と「緑茶」を味わった生徒たちに、それぞれの感想を聞いてみると、ポン・デ・ケージョは「もちもち」、「まるい」、食パンは「ふわふわ」、「やわらかい」、マテ茶は「甘い」、「色が麦茶みたい」、緑茶は「苦い」、「緑色」など、様々な感想が表現されていた。また、「ブラジルと日本、どっち？」という問いかけにも、一人ひとりがよく考え、ワークシートに分けていく様子が伺えた。試食中おいしそうに食べている生徒たちの表情が印象的であったが、感想でも、「おいしい」、「すき」という生徒が多く、ブラジル料理が好意を持って受け入れられたことを感じられた。また、知らない味との出会いは、偏食のある生徒にとっても「ちょっと食べてみよう」と前向きに挑戦する意欲につながり、食経験を広げる機会となった。

## 【7】単元を通した生徒の反応/変化

- ・「ブラジルの友だちに手紙をかこう」：手紙を書くときには、楽しみながら好きな絵を書いたり、ポルトガル語の表現を学び、アルファベットの筆記に挑戦したりした。派遣前の活動より、自分たちの手紙が本当にブラジルに届いたということによって、ブラジルや世界への関心や理解がより高まったようだった。「ブラジル行った？」、「飛行機のった？」と教員に質問したり、授業や掲示物での報告に「ブラジルのお友達？」、「遠いね」と写真をよく見たりする生徒の姿が見られた。
- ・「世界地図コラージュをつくろう」：自分たちが実際に体験したことから（学校祭の舞台発表や調理、手紙）の写真を世界地図に国ごとにコラージュしていく活動を通じて、「日本はどこ？」、「スペインはどこ？」と国の場所に関心を持って教員に尋ねる姿や、外国につながるのがある生徒が自分のルーツの国の場所を覚え、教員に自信をもって伝えたりする姿が見られた。
- ・「ブラジルの音楽をたのしもう」：音楽の授業では、ブラジルを舞台にした映画『ブルー』の曲を鑑賞した。ブラジルの色鮮やかな鳥の写真に興味深そうに注目したり、サンバのリズムによって身体を揺らし、音楽を楽しんだりする生徒の姿が見られた。
- ・「ブラジルの自然や人々の生活をしよう」：ブラジルの動物のぬいぐるみや子どもたちの写真は、生徒たちにとって、とくに親しみをもって受け入れられた教材の一つだった。ナマケモノが「かわいい！」と大好きになった生徒たちは、「ナマケモノはどこどこに住んでいるの？」という疑問から、ブラジルの位置、自然、食べ物など、様々な文化に関心を広げ、学ぶ姿が見られた。これらの学習を積み重ねることで、地球を守る取り組みとして、ごみの分別学習への意欲も少しずつ高めてきている。

## 【単元を通し変容した生徒の態度や学習意欲】

本単元でブラジルの文化や自然に親しんだり、同世代の子どもたちと交流したりする経験を通じて、生徒たちは、休み時間にも地球儀や世界地図に興味を示し教員に質問したり、写真を眺めたりする等、学校生活の中で、世界のことがらについて知りたいという気持ちを表現することが増えた。外国籍の生徒や日本国籍であるが両親のいずれかが外国籍である「外国につながる生徒」の一人は、世界地図で自身のルーツをもつ国をうれしそうに友だちや教員に紹介する等、自己理解を深め、他者とのコミュニケーションを広げる機会にもなっている様子が伺えた。

本単元において、生徒たちはブラジルを題材に社会、家庭、音楽、美術、外国語等、複数の教科の学習に取り組んできたが、ブラジルへの親しみが増すにつれ、各教科の学習意欲にもつながり、絵や文字を書く、道具を使う等、様々な活動に主体的に取り組んでいた。集団への苦手意識が強い生徒も、ブラジルのナマケモノやマナティが好きになったことで、進んで人前に立ちクイズを出題する等、自立につながる経験を重ねることができた。

## 【途上国・異文化への意識の変容】

（授業前）

世界のことがらについて学校生活の中で意識される機会は少なく、ブラジルについても「知らない」、「よくわからない」という生徒が多数だった。異文化に対する意識では、例えば外国人講師との授業で、特にはじめほどよくわからないために不安という気持ちが強く、一方で、知りたい・関わりたいという気持ちも見てとれていた。

（授業後）

授業でブラジルという国について学習する中で、生徒たちは、少しずつ学校生活の中で地球儀や世界地図を目にして教

員に質問をする等、世界のことがらについて意識する機会が増えていった。生徒たちにとって異文化であったブラジルの文化体験は、かわいらしい動物やポン・デ・ケーキの調理等を通じて、親しみの気持ちをもって受け入れられている様子が伺えた。

## 【8】自己評価

### 1. 苦勞した点

＜教科横断的な単元計画＞

本研修では、特別支援学校の教育課程の中で国際理解教育をどのように位置づけ、実施するのかを考えるよい機会となった。実践では、国際理解教育をテーマに、複数の教科を横断して授業を行うことで、各教科の学習も効果的に行うことを心掛けた。カリキュラム・マネジメントの視点で、各授業の目標、活動内容、またそれらのつながりやまとまりを意識して、単元計画を見直すことを心掛けた。

＜親しみやすさや関心をもつことができる教材の検討＞

新しい活動への不安を減らし、関心をもって活動に取り組むことができるように、生徒たちにとって親しみやすい動物のぬいぐるみやビーチボールの地球儀等を準備し、導入に生かすことを心掛けた。

### 2. 改善点

今後の課題として、外国につながる生徒の家庭や地域と連携することにより、より深い学びの機会を作っていくことがあげられる。本校には外国につながる生徒が複数在籍しており、家庭や地域と協力し合うことにより、生徒たちがより身近に様々な文化について体験したり、自己や他者への理解を深めたりする機会を作りたいと考えている。

### 3. 成果が出た点

今回のブラジル派遣を通じて、生きた教材をたくさん得ることができ、生徒達の関心と意欲につながった。ブラジルへの親しみが増すにつれて、各教科の学習意欲も増し、絵や文字を書く、道具を使う等の様々な活動に主体的に取り組む姿が見てとれた。また、外国につながるある生徒にとっては、自己理解を深め、自分のことを他者に伝えるコミュニケーションの機会にもなった。

### 4. 備考(授業者による自由記述)

今回の研修を通じて、ブラジルという国について知ることで、日本の文化を振り返る機会を多く得ることができ、また国境を越えた人の交流や絆の大切さを感じた。今後も研修で学んだことを生かしていきたい。

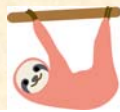
## 参考資料

- ・ジース教育新社, 2017『キャリア発達支援研究4』
- ・全国知的障害養護学校長会, 2006『特別支援教育の未来を拓く指導事例 Navi 知的障害教育Ⅱ』
- ・知的障害児の調理学習研究会, 2003『家族と共に学ぶ 調理実習の手引き 豊かに生きるために』
- ・独立行政法人 国立特別支援教育総合研究所, 2005『自閉症教育実践ケースブック』
- ・独立行政法人 国立特別支援教育総合研究所, 2008『自閉症教育実践マスターブック』
- ・とだ こうしろう, 1992『こどもがはじめてであう せかいちず絵本』戸田デザイン研究室 (DVD)
- ・カルロス・サルダーニャ, 2011『ブルー 初めての空へ』20世紀フォックス・アニメーション (CD)
- ・日本コロムビア, 2001『運動会 ロック民謡ベスト』より「親子花笠ロック」

## 本時で使用した主な資料(教材)

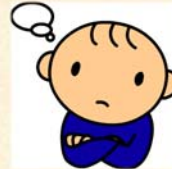
パワーポイントスライド

# ポン・デ・ケージョ をつくろう！



「ポン・デ・ケージョ」

ってな〜んだ？



Q. なんのパン？



① チーズ

② さつまいも



ポン・デ・ケージョ  
pão de queijo



がいこくのことはで **チーズのパン**

Q. どのくにのたべもの？



① にほん

② ブラジル



ブラジルへいったよ





## ブラジルへいったよ



オブリガード!  
(ありがとう)



## ブラジルのたべもの



フェジョアーダ



## ブラジルのたべもの



ピラニア



## ブラジルのたべもの



グアバ



## ブラジルのたべもの



コシーニャ



## ブラジルのポン・デ・ケージョ



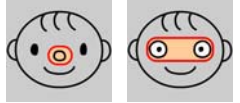


Muito Bon!  
ムイト ボン



つくりかた♪

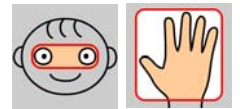
# ① まぜる



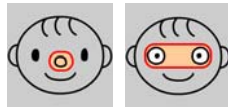
# ② こねる



# ③ まるめる



# ④ やく



15 ぶん

- かたづけ
- きゅうけい
- お茶のじゅんぴ

♪ できあがり ♪

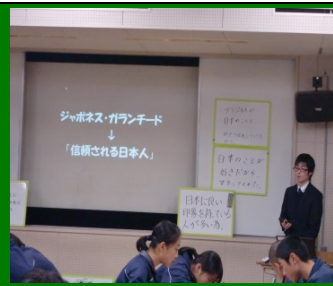


ちょうりスタート!



# ジャポネス・ガランチード 信頼される日本人

～ブラジル研修における日系人との出会いを通して～



氏名：露崎 麻沙夫	学校名：横浜市立本宿中学校	
担当教科：社会科	実践教科：社会科	
時間数：4 時間	対象学年：2 学年	人数：31 名（2 年 1 組）

## 実施概要

### 【1】単元のテーマ・目標

ブラジル日系移民について学ぶことを通し、移民という存在について理解を深める。

【2】 単元の評価 規準例	(ア) 関心・意欲・態度	移民という存在に関心を持ち、積極的に学ぼうとしている。
	(イ) 思考・判断・表現	多面的・多角的に考察し、公正に判断しながら取り組んでいる。 自らの意見をまとめ、発表できる。
	(ウ) 技能	資料や映像の内容を多面的・多角的に考察し、まとめることができる。
	(エ) 知識・理解	移民について理解することができる。
【3】 単元設定の 理由 ✓ 児童 生徒観 ✓ 教材観 ✓ 指導観	<p>本校の生徒はまじめに授業に取り組む。2年1組は比較のおとなしいクラスである。授業を聞く姿勢ができて いる生徒が多い。しかし、考えるような発問を行ったり、表現するような活動を行うと、思考がとまってしまう ことが多い。移民という難しいテーマではあるが、主体的な取組ができる授業を心がけたい。また、中学2年生 という多感な時期である。「まじめなことがかっこ悪い」という思いになってしまうことが多い。現地で出会った 日系人の存在、活躍(ジャポネス・ガランチード)を知り、少しでも一生懸命に取り組む姿勢や勤勉さが、良い ことだと気付かせたい。</p> <p>「日系人は日本の宝だ」。ブラジルに渡ったある日系の方が言っていた言葉だ。日系の方々に多く会い交流 をしていく中で、素晴らしい方々に会う機会をもつことができた。社会科の教員として、「移民」「日系」につ いて伝える責任と義務を強く感じた。今回は、フォトランゲージ等を通して、ブラジルに日本に関わるものが多い ことに「気づき」、研修で出会った素晴らしい方々の存在を「知り」、「移民」「日系人」のことを「伝える」ことに主 眼を置いて、授業を進めていきたい。</p>	

### 【4】展開計画（全4時間）

時	テーマ・ねらい	活動・内容	使用教材
1	○「ブラジルについて知ろう」 (全校道徳) テーマ: 国際理解  ● 教師海外研修での体験をも とに、全校生徒にブラジル について知ってもらおう。	◆ 研修で学んだことをもとに、5つのテーマに絞って、全校道 徳としてブラジルを紹介する。 ①ブラジルの概要 ②ブラジルでの発見(ブラジルクイズ) ③ブラジルの学校 ④いざアマゾンへ! ⑤アンケートで多かった質問に答えます!  ◆ 教師海外研修での体験を伝える。	・研修で撮って きた動画や写 真 ・パワーポイン ト

<p>2 本時</p>	<p>○「ジャポネス・ガランチード 信頼される日本人 ～ブラジル研修における日系人 との出会いを通して～」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● ブラジル日系移民について 学ぶことを通し、移民という 存在について理解を深め る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ ①フォトランゲージ「日本？ブラジル？どちらの国で撮られ た写真か分けてみましょう！」</li> <li>◆ ②「なぜ、ブラジルに日本のものが・・・？」 問いに対して考え、発表する。</li> <li>◆ ③日系人の存在を紹介、伝える。 ・日系人とは ・日系人の数 ・ブラジルで出会った日系人 ・日系人にまつわる場所紹介</li> <li>◆ ④なぜモニュメントや、日本人街ができるほど、日本のもの が浸透したのか？</li> <li>◆ ⑤ジャポネス・ガランチードという言葉紹介</li> <li>◆ ⑥みんなが日々生活している中で、大事にしていることは 何ですか？ →個人発表</li> <li>◆ ⑦日系社会で大切にされていること</li> <li>◆ ⑧日系の方々とのふるさとを歌う動画視聴</li> <li>◆ ⑨振り返り</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研修で撮って きた動画や写 真</li> <li>・フォトランゲ ージ(日本の写 真、ブラジルの 写真)</li> </ul>
<p>3</p>	<p>○「なぜ日本人はブラジルへ渡っ たのか～日系移民の歴史～」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● なぜ日本人がブラジルに渡 ったのかを理解する。</li> <li>● 移民のための荷物を考える ことで、当時の人々の気持 ちを共感的に理解する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ ①DVD「100年前のブラジルへ、タイムスリップ」を視聴す る。</li> <li>◆ ②ワークシートを記入、発表。</li> <li>◆ ③移民船ビデオを視聴する。</li> <li>◆ ④「みんながもし他国に移住するならば、何をトランクに入 れていきますか？絵で描き、なぜそれを持っていくのかを 書いてみましょう。」</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・DVD「100年 前のブラジル へ、タイムスリ ップ」</li> <li>・DVD「夢と希 望を運んだ船 ～移民船での 暮らし～」</li> <li>・移民トランク</li> </ul>
<p>4</p>	<p>○「自分版移民トランク」の発表 ○「日本—ブラジル移民カルタ」 をしよう！</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 移民のための荷物を発表す ることで、当時の人々の気 持ちを共感的に理解する。</li> <li>● カルタを通して、授業で行え なかった移民や、日系に関 する物事を学ぶ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ ①前回考えた、「自分版移民トランク」の中身を班ごとで発 表する。</li> <li>◆ ②「日本—ブラジル移民カルタ」を班ごとで行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本—ブラジ ル移民カルタ</li> </ul>

**【5】本時の展開**

過程 時間	学習活動	指導上の留意点(支援)	資料(教材)
導入 12分	<ul style="list-style-type: none"> <li>○前時の振り返り</li> <li>● 前時の振り返りシートの内容を一部紹介 し、共有する。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・前時の振り返 りシート</li> </ul>



### ○グループワーク1

- 「ブラジル？日本？どちらの国で撮られた写真か分けてみましょう！」(フォトランゲージ)
  - 答え合わせを行う。
- ◆ 机間巡視を行う。
  - ◆ 参観されている緊張感を、少しでも活動でほぐしたい。
  - ◆ 黒板に答えの写真を貼りながら答え合わせを行う。



グループワーク1の様子

フォトランゲージの活動は、班であれこれ発言しながら、楽しそうに写真を分けていた。答え合わせの際、ブラジルに日本のものが多く存在していることに対して、「えーっ！」「そうなのー？」と、驚きの声が多くあり、日本とブラジルの意外な接点に気づいてもらえたようだ。

・ブラジル、日本、それぞれで撮った写真

### 展開 1 ○「なぜ、ブラジルに日本のものが多くあるのだろうか？」

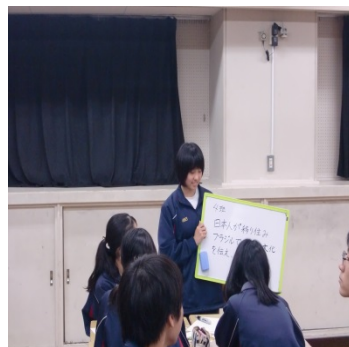
#### 18分 ● 事前アンケートの紹介

- 問いへの予想をワークシートに記入する。
  - ◆ 事前アンケートに日本との関わりについては一人も書いていないことに気付かせる。
- ◆ 机間巡視で、書けない子には支援を行う。
  - ◆ 記入している間に、ホワイトボードを配布する。

・ワークシート Q1

### ○グループワーク2

- 班で自分の予想を発表し、班内で共有する。
- その後、班で話し合い一つの意見にまとめ、予想を全体に発表し、共有する。
- ◆ 問いの答えのキーワードが、「日系人」「移民」であることを伝える。



グループワーク2の話し合い内容  
グループワーク2の様子

その後、「なぜブラジルに日本のものが多くあるのだろうか？」という問いを提起した。個人で考え、その後班で話し合い、全体で発表したが、予想結果は「ブラジルの人は日本が好きだから。」というものが大半だった。もちろん、移民について気づいている班もあった。

展開 2 10分 ○日系人、移民、現在の日系人についての紹介を行う。 ◆ 日系人の定義は、ワークシートに書かせる。 ・パワーポイント

- ・日系人とは
- ・日系人の数
- ・ブラジルで出会った日系人
- ・日系人にまつわる場所紹介

○「なぜモニュメントや、日本人街ができるほど、日本のものが浸透したのか？」

- 「ジャポネス・ガランチード」言葉紹介

◆ 問いの答えのキーワードが、今日のテーマ「ジャポネス・ガランチード」であることを伝える。

○「みんなが日々生活している中で、大事にしていることは何ですか？」

- ワークシートに記入する。
- 個人発表を行う。
- 日系社会で大切にされていることの紹介をする。

◆ 日々の学校生活で大切にしていることが、現在の日系人の活躍と信頼に結びついていることに気付かせる。

・ワークシート  
Q2



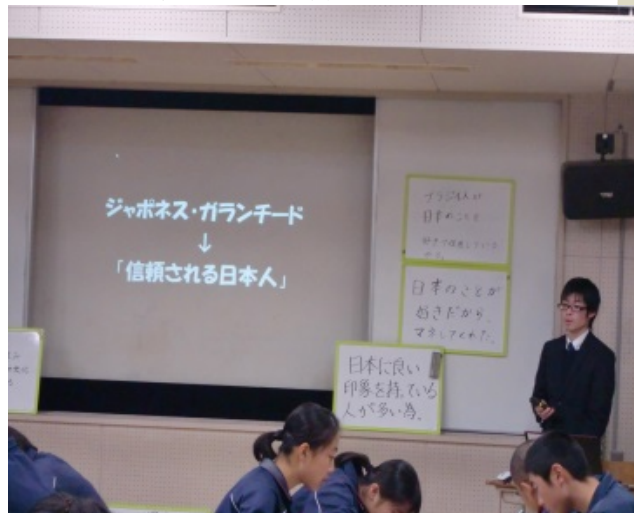
日系社会から通じた日本の制度の信頼によって、サンパウロ州の警察に採用されている。

生徒が日々大事にしていることとしては、「あいさつ」や「礼儀」「感謝」「思いやり」などが挙げられ、日系社会の信頼に関する事柄をいくつか紹介した。日々大事にしていることが、信頼につながるということ(ジャポネス・ガランチード)に少しでも気付いてもらえればと思う。

まとめ 10分 ● 日系の方々とのふるさとを歌う動画を視聴する。 ● 振り返りを行う。

最後に、日系人の皆さんと「ふるさと」を歌う動画を視聴した際は、生徒もシンとして観ていた。涙を流しながら歌う様子を見て、何か感じてもらえるものがあればよいと思う。

・ワークシート  
Q3,4



## 【6】本時の振り返り

準備に準備を重ね、行った授業であったので、そこまで大きなミスや不具合はなかったように感じる。日系の方々との素晴らしい出会いを通して、「現在の日系の方々の存在を知ってほしい！伝えたい！」という強い気持ちで今回の授業実践を行った。子どもたちはフォトランゲージ等を通して、ブラジルに日本のものも多く存在していることに対して、「えーっ！」「そうなのー？」と、驚きの声が多くあり、日本とブラジルの意外な接点に気づいてもらえたようである。授業後の振り返りにも「ブラジルに日本の文化がたくさんある、ということに驚きました。」「こんなにも日本らしい景色、物がブラジルにあると知ってとても嬉しくなりました。」など、驚きの様子がよくわかり、手ごたえを感じた。

生徒が日々大事にしていることとしては、「あいさつ」や「礼儀」「感謝」「思いやり」などが挙げられた。ブラジル日系移民の現在の活躍を通して、生徒それぞれ日々大事にしていることが信頼につながるということに少しでも気付いてもらえていればと思っている。以下、生徒の振り返りを載せる。

- ・「日本だと思った写真がブラジルの写真だったりして、日本っぽいものがブラジルに多いんだなと思いました。また、日系人の努力のおかげで日本人が信頼されていることを知り、他国の人から信頼されることはとてもすごいことだと思いました。」
- ・「思っていることと全然違って驚いた。そして、日系人がたくさんいることに驚いた。私も宝と呼ばれるよう、努力していきたいなと思った。」
- ・「今日、ブラジルのことを予想などして見て、日系人という人は知ってはいたものの、あまり深く知らなかったもので、この機会に知ることができ良かったです。また、こんなにたくさん日本の文化が浸透しているんだなと思いました。今までのイメージをたくさん覆され、より深く、ブラジルのことを知れてよかったです。」

また、以下のような疑問が生徒自身から湧き上がってきたことがとても嬉しかった。

- ・「ブラジルのことを少しわかることができた。ブラジルに日系人がいることもわかった。気になったことは、日系人がどうやって、どうしてブラジルに行ったのかが気になった。」

本時ではあえて、どうやって、どうしてブラジルに渡ったのかは取り上げていない。次の3回目の授業で取り上げるつもりであったものだ。このように、疑問をもってもらうことが次の授業の意欲へとつながる。そのような記述が見れたことに、嬉しさを感じた。

## 【7】単元を通した生徒の反応/変化

以下、生徒の振り返りの文章である。

- ・「日本とブラジルの関係が深く、日本人は信用されているということがすごく嬉しかったです。それは、今ブラジルにいる日系人の方々のおかげだと思ったので、それに恥じないような生活をしていきたいと思いました。」
- ・「ブラジルのイメージががらりと変わり、日本への信頼の気持ちに驚きました。また、私達日本人もその気持ちに応えられるよう、日系人の存在を広めていけたらいいなと思いました。」
- ・「こんなにも日本らしい景色、物がブラジルにあると知ってとても嬉しくなりました。驚くようなものばかりで、遠い国だけど親しみを感じられてブラジルをもっと知りたいと自分自身も思いました。そして実際に行ってみたいと感じました。」
- ・「ブラジルに日本の文化がたくさんあるということに驚きました(リベルダーヂ東洋人街に鳥居があったことなど衝撃を受けました)。ブラジルと日本は遠いけれど、こうやって文化を通して交流して、つながれたらいいなと思います。よりブラジルについて知れたので良かったです。」

## 【単元を通し変容した生徒の態度や学習意欲】

以下、生徒の振り返りの文章である。

- ・「日本とは違う文化があるから新しい発見ばかりで面白いと思った。そして今回は先生が伝えてくれたけど、次は自分の目で見てみたいと感じた。また、ブラジルの人が日本について知ってくれている、日本が好き、と思うことが嬉しかった。」
- ・「外国に行ったことがなかったので、ブラジルに興味を持てて、行きたくなりました。」

## 【途上国・異文化への意識の変容】

(授業前)

- ・「森林しかなくて、学校など建物が発達しないイメージ」
- ・「貧しい国」

(授業後)

- ・「ブラジルは悪いイメージしかなかったけど、実は良いところがいっぱいあるんだなと思いました。また、東京みたいに都市みたいな所が結構あったのでびっくりしました。あと、学校は日本の学校と少し違ったり初めて知ったことがたくさんありました。」
- ・「ブラジルは治安が悪かったり、悪いイメージが多かったけど、私が思っていたブラジルとは違って面白かったです。人も優しく、ご飯もおいしそうで、温かい場所だなと思いました。」
- ・「日本とブラジルの学校での登下校の違いや、学校生活の内容が国だけでこんなに違いがあることに驚きました。普段、私たちが当たり前に行っていることが、ブラジルの人にとっては当たり前じゃなかったりすることを頭に入れ、日々の生活を過ごしていきたいです。」

## 【8】自己評価

### 1. 苦労した点

- 事前の準備として苦労した点は二つある。一つ目は、日系人との出会いをどのように伝えるかということであった。そこで移民の歴史から入ってしまうと、興味が半減してしまうと思い、「現在」の日系人の存在・活躍の授業を行ってから、「移民の歴史」に入る授業構成とした。このことで、「現在」の日系人の存在を第一に印象付けることができたように感じる。
- 二つ目は、ブラジルと日本との関わりを、いかに「自分事」として考えてもらうかということである。100年以上も前に渡った人々のことを扱う際に、「他人事」とならないようにすることへの工夫に苦労した。今回は、ブラジルと日本の写真を分けるフォトランゲージや、「みんながもし他国に移住するならば、何をトランクに入れていきますか？」ということを考えさせるワークなどを取り入れることで、できるだけ自分事として考えてもらえるように工夫して授業実践ができたと思う。
- 学習活動が展開する中で、予想外の答えや興味深い発言、疑問ができた時にそれを深めていく時間を確保できなかった。4時間構成という制約の中で、内容を精選し、生徒の発言を深められる時間を確保していく必要性を感じた。

### 2. 改善点

- 授業実践そのものに関しての改善点は、一般的な異文化を考えるとところまで生徒の思考をもっていくことができなかった点である。生徒の振り返りをみても、「ブラジルのことをよく知れた。」や、「ブラジルのことが好きになった。」等、「ブラジル」という国に対しての好感度は良くなっているようであるが、それをもっと大きな「異文化」として捉え思考を深めることができたかと言われると疑問が残るところである。今後の授業実践をするにあたっては、そこまで深く深められるようになると、異文化についてより深く考えていけるようになることができると感じる。
- また、今後「持続的に」実践をするにあたっては、日系人のアイデンティティの問題がある。ブラジルの研修に行った際、日本人としてのアイデンティティが色濃く残っている方々がまだ多くいる中で、今後は時間の経過と共に日本人としてのアイデンティティが薄れていくことが懸念される。その中で、日本とのつながりを強調して、どのように日系人のことを授業で取り上げていくかは大きな課題となってくる。日系社会においても、日本とのつながりをどのように残していくかということが大きな課題となっているようである。ブラジル研修に参加し、ブラジル日系移民の方々の話を直接聞くことができた一人として、日本とブラジルの日系人をつなぐ架け橋となり、つながりを保っていききたい。そのことが、持続的に実践を行っていく改善策となると思う。

### 3. 成果が出た点

- 日々の社会科の授業では、あまり話し合い活動ができていなかったのが、ブラジルの実践を機会に班での活動ができ、クラスの友達との交流ができたことが良かった。
- また、生徒が振り返りに多く書いていたのは「ブラジルが好きになった。」「ブラジルに良い印象を持つようになった。」という言葉である。異文化交流をしていく中で、異文化の「良い」面を知ることが、異文化理解の大事な点であると思う。そのこ

とができたことは大いに成果が出た点であると感じた。

#### 4. 備考(授業者による自由記述)

研修で学び体験したことを還元するために授業実践を行ったが、実践を考える過程が、今回の研修で学んだことを自分の中で整理する良いきっかけとなった。何より、自分自身が「異文化」や「世界」に目を向け、考えることができたことが大きな収穫であった。今回の体験で終わりにせず、「持続的に」行っていけるよう、今後とも努力していきたい。

#### 参考資料

- ・2017年度教師海外研修 写真・動画
- ・HP「浜松国際交流協会」<http://www.hi-hice.jp/index.php>
- ・「考えよう！ともに生きる浜松の未来～はままつ多文化共生教材」 浜松国際交流協会
- ・DVD「100年前のブラジルへ、タイムスリップ！～アニメで学ぼう移民の歴史～」 浜松国際交流協会
- ・「学習活動の手引き」 海外移住資料館
- ・「いみんトランク」 海外移住資料館
- ・「移民カルタ」 海外移住資料館
- ・「日本—ブラジル移民カルタ」 海外移住資料館
- ・DVD「夢と希望を運んだ船～移民船での暮らし～」 海外移住資料館
- ・紙芝居「カリナのブラジルとニッポン」 海外移住資料館
- ・紙芝居「海を渡った日本人」 海外移住資料館

#### 本時で使用した主な資料(教材)

- ・パワーポイントスライド



# ジャポネス・ガランチード Japones e Garantido

横浜市立本宿中学校  
教諭 露崎 麻沙夫

## ～前回の授業感想①～

日本とは違う文化があるから、新しい発見ばかりで面白いと思った。そして今回は先生が伝えてくれたけど、次は自分の目で見に行きたいと感じた。また、ブラジルの人が日本について知ってくれている、日本が好き、と思うことが嬉しかった。(Sさん)

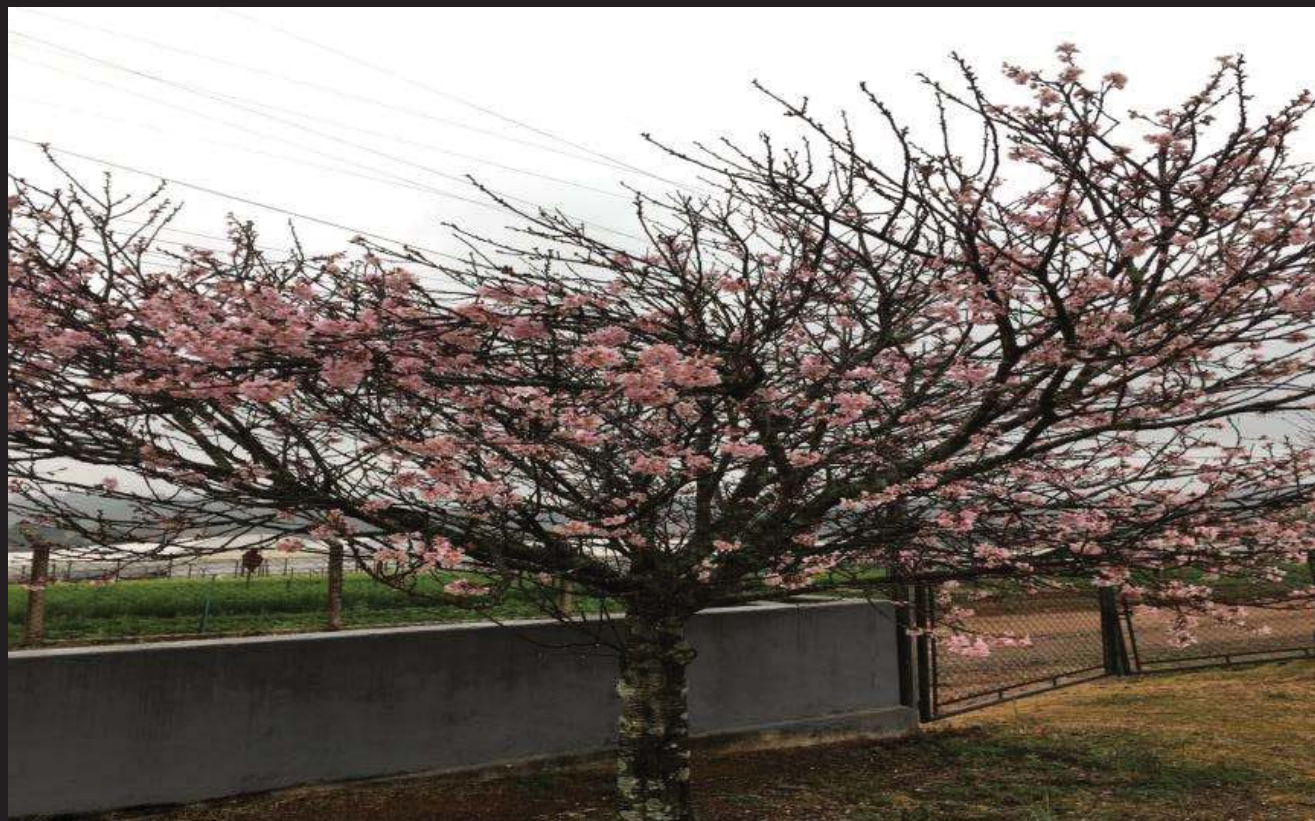
## ～前回の授業感想②～

ブラジルは悪いイメージしかなかったけど、実はよいところがいっぱいあるんだなと思いました。また、東京みたいに都市みたいなところが結構あったのでびっくりしました。あと、学校は日本の学校と少し違ったり初めて知ったことがたくさんありました。(Tさん)

## 【グループワーク①】

ブラジル？      日本？  
どちらの国で撮られた  
写真か分けてみましょう！

# ブラジルor日本クイズ写真 (例) (正解: ブラジル)



# ブラジルor日本クイズ写真 (例) (正解: ブラジル)





# ブラジルor日本クイズ写真 (例)(正解:日本)



**Q1.なぜブラジルに  
日本のものが・・・？**

年 組 番 氏名:

全校道徳に向けて(国際理解)

9月25日の全校道徳では、露崎先生からブラジルでの体験についてのお話があります。

ブラジルについて皆さんが知っていることをかきましょう。

サッカーが有名。 国旗が主に、みどり・黄色  
 アマゾン川がある。 オリンピックが行われた。  
 面積が広い。 ↑(リオデジャネイロ)

今回の体験について、露崎先生に質問してみたいことを書きましょう。

ブラジルに行ってみて一番意外だったことは?

～アンケート結果より(2年1組)～

ブラジルについて皆さんの知っていることを書きましょう。

- 第1位 サッカー 17票
- 第2位 日本と反対側に位置する 12票
- 第3位 リオデジャネイロオリンピック 10票
- 第4位 リオのカーニバル(サンバ) 9票
- 第5位 コーヒー 8票
- 第6位 暑い・アマゾン川(ピラニア) 6票
- 第8位 面積が大きい 5票
- 第9位 黒人が多い・自然豊か 3票
- 第10位 アマゾン・南半球・治安が悪い・ポルトガル語 2票

日本との関わりについては  
0票!!

その他・・・発展途上国・ネイマール・首都ブラジリア・大きな像  
 ケバブがある・明るい・森林破壊・ヘラクレスの生息地  
 「ブラジルの人きこえますかー?」・視力が良い

# Q1.なぜブラジルに日本のものが…？

## 【グループワーク②】

### 「なぜブラジルに日本のものが？」

- ①自分の書いた予想を、班のメンバーに発表し、共有する。
- ②共有が終わったら、代表者は前にホワイトボードを取りに来る。
- ③問いについて班で話し合い、一つの予想を出し、ホワイトボードに書く。
- ④5分後、全体で発表をする。

キーワード

「日系人」

「移民」

日系人

とは・・・？

# 日系人とは・・・？

日本から海外に本拠地を移し、  
永住の目的を持って生活されて  
いる日本人並びにその子孫

(海外日系人協会より)





# リベルダーヂ東洋人街

ブラジルは、日系人の最も多い国で、1908年以降13万人の日本人が移住し、現在は190万人の日系人が住むといわれています。サンパウロには、日本人移民が多く暮らし、築いてきたリベルダーヂという町があります。日本食レストラン、食品店、日本庭園等、日本らしさを感じる景観が多くありました。



鳥居や提灯などのある景観



マクドナルドの中にも日本庭園があります

## 日本移民史料館

ガイドのTAKEDAさん(日系2世)がご自身の体験を交えながら、館内のさまざまな展示を案内してくださいました。移住当時の暮らしや日系移民の歩みを伺いました。日系の方々がブラジルの地で信頼を得るために努力してきた歴史があることを知りました。



←「移民船」の模型。当時は日本からサントス港まで48日間。長い長い道のりに、もう帰ることはできないと思ったという話を伺いました。



←最初に移民した人々は、コーヒー農園で労働し、簡易な小屋に住んでいました。虫や動物、壁の隙間から雨が入るなどの苦労があったそうです。

→戦争中、日系社会は日本の勝利を信じる「勝ち組」と、反対の「負け組」とに分断され、厳しい時代を過ごしました。



# 日本移民上陸記念碑・移住100周年モニュメント

日本の移民船が最初に到着したサントスの港に、この移住100周年モニュメントと日本移民上陸記念碑があります。記念碑の麓には「この大地に夢を」と刻まれており、当時港に降り立った人々の姿や想いが伝えられていました。



## サントス厚生ホーム

サントスは、日本の移民船が最初に到着した港です。そのサントスにある厚生ホームはもともと、日本人が一時滞在する「移民の家」でした。現在は、日系の高齢者が長期的に過ごす介護施設として運営されています。

日系1世、2世の方々のお話を伺いました。戦時中のことや農業、学校、家族のことなど、胸に迫る貴重なお話をたくさん聞かせていただきました。さいごにはみなさんと、「ふるさと」を一緒に歌いました。





なぜモニュメントや、日本人街  
ができるほど、日本のものが浸  
透したのか…？

キーワード

ジャポネス・

ガラランチード

**Q2.みんなが日々生活している中で、大事にしていることは何ですか？三つ書いてみましょう。**

**→例:あいさつ など**

**ジャポネス・ガランチード**



**「信頼される日本人」**





～元サンパウロ州知事 マリオ・コーバスの言葉～

**「ブラジルの日系人は、日本が私たちに与えて下さった最大の贈り物である。」**

～元ブラジル大統領 ガイゼルの言葉～  
(移民70周年記念祭にて)

「日系人はブラジル国民  
の重要な一部である」



# ブラジル日系社会・移民・世界について考えよう



氏名：岩崎 大輔	学校名：神奈川県立磯子工業高等学校 定時制	
担当教科：国語	実践教科：総合的な学習の時間	
時間数：5 時間	対象学年：3 年次	人数：41 人

## 実施概要

### 【1】単元のテーマ・目標

- ブラジルという国と、そこに根付く日系社会の存在について関心を持つ。
- ブラジル日系移民について学ぶことを通し、移民という存在について理解を深める。
- ブラジル日系社会の現状について学び、ブラジルと日本とのつながりの深さを知る。
- 今後、日本に移民が入ってくることに對し、どう対応していくべきなのか、自分なりの考えを持つ。
- 世界には、解決すべき問題がたくさん残されていることを知り、今後への考えるきっかけとする。

【2】 単元の評価 規準例	(ア) 関心・意欲・態度	ブラジル日系社会や移民、SDGsの課題に関心を持ち、積極的に学ぼうとしている。
	(イ) 思考・判断・表現	・移民の問題を身近なものとして捉え、当事者として意見を持つことができる。 ・SDGsの課題を、ダイヤモンドランキングにまとめることができる。
	(ウ) 技能	学んだこと、考えたことを自分の言葉でまとめることができる。
	(エ) 知識・理解	ブラジルという国や、ブラジル日系社会について知る。

【3】 単元設定の理由	本クラスには、日本語での学習やコミュニケーションの難しい、外国籍の生徒や日本国籍であるが両親のいずれかが外国籍である生徒(以下「外国につながる生徒」と記載)が複数名いる。しかし、彼ら含め生徒たちは「移民」というものにほとんど関心がない。本単元は、グローバル化が進み、日本においても移民の問題が避けられないものとなる現代において、自らが国際社会の一員であるという自覚を持つきっかけを与えることをねらいとする。生徒の中には、移民という言葉はもちろん、ブラジルの位置などもわからない者がいるため、思考の土台となる知識を、パワーポイントなどを用いて分かりやすく伝えながら、段階的に理解が深まるようにする。
✓ 児童 生徒観	
✓ 教材観	
✓ 指導観	

### 【4】展開計画 (全 10 時間)

時	テーマ・ねらい	活動・内容	使用教材
1	ブラジルの基礎知識について学ぶ	パワーポイントやクイズなどで、ブラジルについての基礎的な知識を身につける。	・パワーポイント ・ワークシート
2	ブラジルの日系人について	フォトランゲージをきっかけに、ブラジルに暮らす日系人について	・パワーポイント

	て学ぶ①	いて学ぶ。	・ワークシート
3 本時	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 日系ブラジル人の活躍を知る</li> <li>● 移民の気持ちになって考える</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 授業者が実際にブラジルで出会った方々と写っている写真を見る。</li> <li>◆ クラスの、外国につながる生徒のアンケートを見て、移民として他国に渡ることを、自分自身の問題として考える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・パワーポイント</li> <li>・ワークシート</li> </ul>
4	今後の日本について考える	前時までで学んだことを活かし、今後日本が移民を受け入れる際に、どういったことが大切かを考える。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・パワーポイント</li> <li>・ワークシート</li> </ul>
5	世界の問題について考える	SDGsについて学び、世界に解決すべき困難な問題があることを知る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・パワーポイント</li> <li>・ワークシート</li> </ul>

## 【5】本時の展開

過程時間	学習活動	指導上の留意点(支援)	資料(教材)
導入 5分	ブラジルの基礎知識について確認する。 (前時の復習)	前時を欠席した生徒もいるので、日系人について最低限確認すべきところを押さえる。	
展開	<ul style="list-style-type: none"> <li>● ブラジルで活躍する日系ブラジル人について知る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 人名などにはあまり触れず、政財界で活躍している人がたくさんいることだけを押さえる。</li> </ul>	
30分	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 日本で活躍する日系ブラジル人を知る。</li> <li>● 授業者が実際にブラジルで出会った日系人の方々の紹介を見る。</li> <li>● 日系ブラジル人が、「デカセギ」という形で、日本に暮らしている現状を知る。</li> <li>● 日本に「デカセギ」にやってくる、外国人労働者人口がどう変化していくか考える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 有名なタレントやスポーツ選手などを示し、日系ブラジル人が日本で活躍していることに気づかせる。</li> <li>◆ できるだけ多くの写真を紹介し、日系ブラジル人がブラジルの地に根ざし、今も生活しているということを意識させる。</li> <li>◆ 日系ブラジル人が「デカセギ」に来ることになった経緯は、詳しくなりすぎないように簡潔に説明する。</li> <li>◆ 日系ブラジル人の多い静岡県浜松市、茨城県大泉町が比較的近くにあることを、地図を示して理解させる。</li> <li>◆ 外国人労働者数が右肩上がりに増えているグラフを示し、今後どうなっていくと予想されるか、生徒に考えさせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・パワーポイント</li> <li>・ワークシート</li> </ul>



パワーポイントのスライドに集中。

## 【6】本時の振り返り

前半は、日系ブラジル人の活躍や、日本における現状などを説明した。生徒は比較的静かにスライドを見、話を聞いているようだったが、後半、移民の問題を考えさせる上で用意していた、外国につながる生徒へのアンケート結果を示したところ、生徒の反応が目に見えて変わり、周りの生徒と積極的に意見を交換し始めるようになった。

当初は、自分が移民となった場合にどのような気持ちになったり、不安を抱いたりするか想像させる手段としてのアンケートだったが、図らずも身近な異文化の存在に気付く良いきっかけとなったようであった。

## 【7】単元を通した生徒の反応/変化

「意外と、日本と海外は縁があるのだなと思いました。少し海外に興味が出てきました。」

「以前に浜松に行ったことがあって、その時、駅の喫茶店に入ったら、半分以上の客が外国の方だったので、びっくりしました。今日、学校で勉強して『そういう事だったんだ』と知りました。」

「ブラジルの事をよく知れた。移民の話は、すごく日本らしくないというか、日本の歴史にそのような話があったんだなと思いました。ブラジルは、日本の反対側にあるから日本とは関係ないと思っていたけど、深い関係性があったんだなと思いました。」

「日本から海外に行って、大変な思いをしても、あきらめずにやっていてすごいと思いました。日系の人が多くてびっくりしました。」

「今回の授業でブラジルの知らなかったことをたくさん学べてよかったです。」

## 【単元を通し変容した生徒の態度や学習意欲】

単元の学習を終えて間もないので、特筆すべき変化は見られません。変化は、このような取り組みを継続をしていくことで得られると思います。

## 【途上国・異文化への意識の変容】

(授業前)

- ◆ 外国につながる生徒という身近な異文化があるにもかかわらず、日本人の生徒は今までそれに気づかずにいる。良くも悪くも、あまり関心がないという様子だった。
- ◆ 生徒は皆、ブラジル＝自然・未開発のようなステレオタイプなイメージを持っていた。

(授業後)

- ◆ この授業とは全く別の場面で、異文化を考える課題が与えられたときに、身近な外国につながる生徒のことを想起し、そこから思考するようになった生徒がいた。今までは、自分のイメージだけで意見を述べる傾向が強かったので、多少の変化が見られたと思う。
- ◆ ブラジルの大都市や、日系人の紹介を通して、自分のイメージとは異なることや、自分の知らないことがたくさんあることを知り、異文化への関心を持つようになったという肯定的な感想が得られた。

## 【8】自己評価

### 1. 苦勞した点

- ブラジルの基礎知識を学ぶところから授業を計画していくと、あれもこれもと、何を教えるのか、散漫になってしまいがちだった。着地点を明らかにし、不自然でない形で、そこに持っていきようにするのに苦勞した。
- 生徒が飽きずに取り組めるよう、ところどころクイズを入れながら展開していったが、想定通りにはいかなかった。生徒の活動を増やし、集中力を持続させることが、授業の効果を高めるために重要であると改めて感じた。
- ブラジルへ研修に行ったことの、授業への活かし方に苦勞した。現地で出会った日系人の方々の写真を多く使い、生徒へリアリティをもって伝えられるようにしよう意識したが、授業を終えて、やはりこれだけでは不十分だったと思う。

### 2. 改善点



- ブラジルや移民に関する基礎知識などを説明しようとする、どうしても講義調の授業になってしまい、生徒の集中力が持たない場面があった。基礎知識の教授はとつきやすいが、そこに時間をかけると、授業の焦点がぼやけるという側面もあるので、生徒の現状によって臨機応変に変えていく必要がある。
- 開発教育の手法をうまく活用できなかった。パワーポイントを用いたフォトランゲージと、ダイヤモンドランキングは取り入れたが、やはりもっと動きのあることができれば、生徒の興味関心を引き出すことができたと思う。この授業以前に、さまざまな活動に慣れさせておくことが肝要であると感じた。

### 3. 成果が出た点

- 外国につながる生徒が同じクラスにいることは、異文化理解のためには恵まれた環境であると言えるが、どういう形で彼らにスポットライトを当てるかは、とてもデリケートな問題で、教員としても扱いに迷うところがあった。しかし、今回の実践で、外国につながる生徒は、自分たちのことをアピールしたい気持ちがあり、日本人の生徒はそれを知りたいと思っていることがよくわかった。引き続き、扱いに細心の注意は必要だが、彼らに授業で活躍してもらうことが、異文化理解の一つの効果的方法であることが分かった。
- 「ブラジルの授業」というイメージで終わらないよう、単元の最後に、SDGs の課題を、ダイヤモンドランキングで並べるというワークを行ったが、予想以上に生徒の取り組みが良かった。SDGs の課題は、国際理解を考えるとわかりやすいものだと思うので、今後も継続して取り組んでいきたい。

#### ○生徒感想

「世界には、まだ解決していないことがたくさんあって、これからは解決に向けて頑張らないといけないなと思いました。」

「明確な目標があるのは良いと思いましたが、実現させるのは大変そうです(反対する国が出てきそう)。」

### 4. 備考(授業者による自由記述)

本研修に参加するまでは、異文化理解教育・開発教育といったものに取り組んだことがなく、研修を授業に結び付けられるかどうか不安があった。実際、授業実践を終えた今でも、ブラジルに研修に行ったことを十分に活かされたと言われると、疑問である。ただ、本実践に対して、生徒からポジティブな感想を得られたのも事実であるし、何より、自分自身が異文化理解教育・開発教育に対する意識を持てるようになったことが大きいと思う。また、教員間での交流もあり、普段の教員生活では学べないことを学ぶことができた。本研修を、意味のあるものにするため、こういった実践を、今後も地道に続けていきたいと思う。

### 参考資料

- ・「the true size of ...」 <https://thetruesize.com>
- ・「公益財団法人 浜松国際交流協会HICE」 <http://www.hi-hice.jp/index.php>
- ・上記HP内「100年前へ、タイムスリップ！～アニメで学ぼう移民の歴史」  
[http://www.hi-hice.jp/doc/aboutus/tomoiki\\_anime/index.html](http://www.hi-hice.jp/doc/aboutus/tomoiki_anime/index.html)

### 本時で使用した主な資料(教材)

パワーポイントスライド、ワークシート

# 総合的な学習の時間

世界と日本のことについて考えよう！  
～ブラジルを通じて～

## ①ブラジルの基礎 知識を学ぼう

# どれがブラジルの写真でしょう？



## ブラジル = 「未開」「自然」 のイメージがあるが...

アマゾン



サンパウロ



実は、大都会もあることを学んだ→

# 日本とブラジルの面積・人口比較

## 日本

- ▶ 面積：約37万平方km
- ▶ 人口：約1億2000万人

## ブラジル

- ▶ 面積：約851万平方km
- ▶ 人口：約2億1000万人

23倍



②ブラジルに住んでいる人々について学ぼう

# どんな人が住んでいるの？

どの人が、ブラジル人でしょう？



なぜブラジルに「日本人」とよく似た顔立ちの人がいるのだろうか？

- 1 日本から、移り住んだ人が多くいるから。
- 2 日本から移り住んだ人の子供や孫などが多くいるから。

↓

## 日系人（につけいじん）

# 日系人について学ぼう！

日系人の人口が世界で一番多い国はどこだろう？

1. ブラジル
2. アメリカ
3. カナダ
4. フィリピン

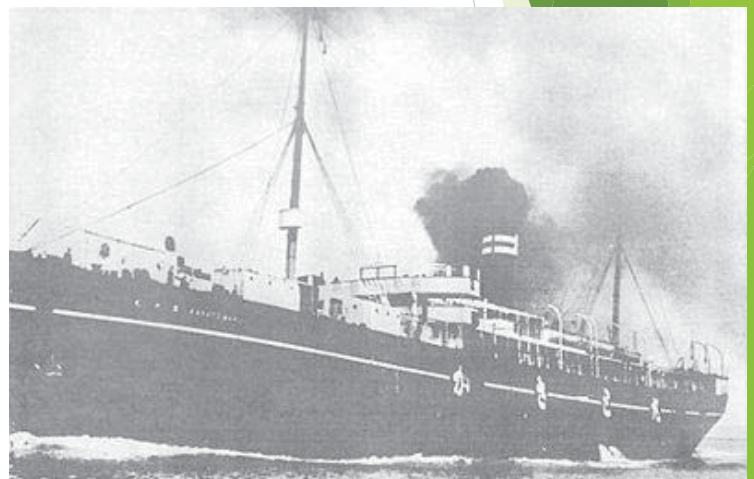


## 日本人はいつ、ブラジルに来たのか？

いつ？・・・ 第一団は、**1908年**

ブラジルへのはじめての移民船「笠戸丸」

**781** 人が乗船



そこから110年。多くの苦勞を乗り越えて、日系人は、今さまざまな所で活躍している。

### ③ 日系ブラジル人の活躍について学ぼう

# ブラジルで活躍する日系ブラジル人



**市村進**  
(享年93歳)  
ブラジル屈指の農園主。最盛期には49もの農園を所有し、数千とも1万とも言われる人員を雇用し、地元の市長を5回歴任し、最後に当選した2009年には既に90歳だった。資産総額が出馬した全国の立候補者の中でも群を抜いており「史上最高齢の市長誕生」は大きな話題になった。



**ルイス・グシケン**  
(1950年5月8日～2013年9月13日)  
元ブラジル大統領府広報行政調整長官

多くの日系ブラジル人が、ブラジルの政財界で活躍している



**シゲアキ・ウエキ**  
(1935年8月15日～)  
日系2世の政治家。元ペトロbras社長・元山崎力大賞



**上野アントニオ真雄**  
(2011年9月20日死去・享年84歳) 日系2世。1955年、アタカ州議会議長となり、山崎力大賞を受賞。初の日系州議として活躍。その後、連邦下院議員を7期連続で務めた。日本生まれ、ブラジルで成長。80年間にわたる日本、80年第一等報章記者も経験している。



**グチ**  
(日系2世)  
連邦下院議員。ブラジルの州都の日系人。「メンバー・ワン」に選ばれた。

# 日本で活躍する日系ブラジル人



**植野行雄**  
(テニス)



**セルジオ越後**



**ルシァノ・フェルナンド**

**マルシア**



**田中マルクス 闘莉王**



**ダレノガレ明美**





# 実際に出会った日系人の方々

長谷川 エドウィン さん



# 日本移民資料館



竹田さん

# JICA（国際協力機構）スタッフ

村上 ヴィセンチ さん



ホームステイ先  
タンケ村のみなさん  
（日系1世、2世、3世）



## タンケ村での農作物栽培



グアバ



## 花卉(かき)の栽培



スプレー (バラの仲間)

# ホームステイ先の及川さんご一家



作業中の及川さん




# 及川さんの農場



## 農場入り口の看板



## 日系一世 及川さんのご家族



ブラジルに根を下ろし、家族を作り、経済的にも成功した方々もいる・・・そして、今



④日本の日系ブラジル人と、今後の日本について考えよう

# 「デカセギ」 に来る日系ブラジル人

1980年代～

ブラジル・・・経済破綻💀

日本・・・安定した経済成長😊

日本への、日系出稼ぎ労働者急増

## 日本で日系ブラジル人の一番多い街

静岡県 浜松市

人口：約80万人

そのうち、ブラジル人は  
約8500人



ヤマハやスズキといった企業関連の工場に働いている人が多い



# 日本で日系ブラジル人の割合が一番多い街

**群馬県 大泉町**  
 人口：約42000人  
 そのうち、ブラジル人は  
**約4000人 (約1割)**

パナソニックやスバルといった企業関連の工場で働いている人が多い



# 日本に暮らす外国人労働者

平成28年10月末現在

外国人労働者数・・・**約108万人**

【厚生労働省「外国人雇用状況」の届出状況まとめ（平成28年10月末現在）】



外国人労働者の数は、今後も増加することが予想される

(資料) 厚生労働省「外国人雇用状況」の届出状況まとめをもとに作成。なお、当該届出には、特別永住者が含まれていないことにも留意が必要。

## 自分が、移民として海外に行くことになったら・・・??

- ①心配なこと、不安なこと、予想されることなどを書いてみよう。...と思うんだけど...

そもそも、身近な人で、海外に住むという経験をしている人がいますよね？

日本に来て、一番困ったことは...

## 3年1組の6人にアンケート！

- ①日本にきて、一番、こまったことは、なんですか？

1 日本語    2 言語    3 日本語    4 勉強

- ②日本にすることが決まったとき、どう思いましたか？

- 1 行きたくなかったです
- 2 たのしみ！
- 3 おもしろい国だとおもった。新しい言葉が学べると思った。
- 4 はじめて飛行機に乗った。うれしい。
- 5 なにも思いません。
- 6 ふつうです。



## 3年1組の6人にアンケート！

③文化のちがいで、一番、おどろいたことはなんですか？

- 1 水道水を飲んでも大丈夫
- 2 日本の道はきれい
- 3 道がきれい。ペルーとぜんぜんちがう。
- 4 うわばき
- 5 みちがきれい
- 6 いいです。すばらしい。

④日本のいいところは、どこだと思えますか？

- 1 がっこう
- 2 ふじさん
- 3 きれい
- 4 日本は安心です
- 5 しごと

⑤日本の悪いところは、どこだと思えますか？

- 1 ルール
- 2 いじめが多いです
- 3 やんキーです
- 4 ルールがすきじゃない
- 5 人身事故が多い

あらためて、自分が、移民として海外に行くことになったら・・・??

① 心配なこと、不安なこと、予想されることなどを書いてみよう。

② 書いたことは、どうすれば解決することができらるだろうか？書いてみよう。

# ここで、10分程度のアニメ を見てもらいます

100年前へ、タイムスリップ!  
～アニメで学ぼう移民の歴史～



ムービーを見る



総合な学習の時間 国際理解ワークシート3 [③日系ブラジル人の活躍について学ぼう]

11月 日 3年( )組( )番 氏名( )

- ⑰ 日本で活躍する日系ブラジル人で、知っている人を書いてみよう。

- ⑱ 岩崎が、実際にブラジルで出会った方々は、どのようなお仕事をしているだろうか。

[④ 日本の日系ブラジル人と、今後の日本について考えよう]

- ⑲ 1980年代以降、日系ブラジル人は、なぜ、何をしに日本に来るようになったのか。

なぜ . . .

なにをしに . . .

- ⑳ 日本で一番ブラジル人の人口の多い街は[ ]市。一番割合が多い街は[ ]町。

- ㉑ 今後、日本で外国人労働者の数は[ ]と予想される。

- ㉒ 自分が、移民として海外に行くことになったら . . . . ??

- ① 心配なこと、不安なこと、予想されることなどを書いてみよう

- ② ①で書いたことは、どうすれば解決することができるだろうか？書いてみよう

かんそう  
感想

# 「移民」を教材化する 第一歩

～修学旅行の事前学習の一環として～



氏名：小沢 智子

学校名：山梨県立甲府城西高等学校

担当教科：日本史 A

実践教科：日本史 A ・ 総合的な学習の時間 ・ LHR

時間数：4 時間

対象学年：2 年次

人数：36 人

## 実施概要

### 【1】単元のテーマ・目標

ブラジルへ渡った沖縄移民を通して、日本にルーツをもつ人たちが地球の反対側に 190 万人も存在しているという事実に関心と課題意識を高め、歴史的背景を踏まえて理解する。現在、「日本だけでなく、諸外国においても外国人労働者が増加している」という現象を、「移民」というキーワードとともに、世界の動向と関連付けて捉え、「共生」や「異文化理解」について SDGs と絡めて考察する。また、ブラジルと沖縄を関連付けることで、ステレオタイプの「沖縄への修学旅行の事前学習」から脱却し、歴史教科書(特に日本史)からスッポリ抜け落ちている「移民学習」という分野を補い、沖縄を多面的・多角的に捉えさせることに挑戦する。

### 【2】単元の評価規準例

(ア) 関心・意欲・態度

移民の歴史や日系社会の成立過程・現状に対する関心を高め、意欲的に追究している。

(イ) 思考・判断・表現

移民の歴史や日系社会の成立過程・現状について、多面的・多角的に考察するとともに、世界の動向と関連付けて公正に判断し表現している。

(ウ) 技能

移民の歴史や日系社会の成立過程・現状に関する文献、新聞、絵画、地図、写真、統計・グラフなどの諸資料を収集し、有用な情報を適切に選択して活用することを通して、追究し考察した過程や結果を適切にまとめている。

(エ) 知識・理解

移民の歴史や日系社会の成立過程・現状に関する基本的な事柄を、国際状況と関連付けて理解し、その知識を身に付けている。

### 【3】単元設定の理由

- ✓ 児童生徒観
- ✓ 教材観
- ✓ 指導観

「修学旅行の事前学習を、もっと違う切り口で展開することはできないのか」というジレンマから、この研修を手掛かりにして「ブラジルというフィルターを通して沖縄を捉えさせる」ことに挑戦しようと考えた。そのため、私が専門とする日本史の学習と修学旅行の事前学習とをタイアップさせて、現在に至るブラジルと日本、沖縄の関係を多角的に捉えさせ、教科指導にも修学旅行の事前学習にも応用できる手法を開発したいと考えた。昨年、オリンピックが開催され、注目された国ではあるが、歴史教科書(特に日本史)には、日本とブラジル両国に関する記述はほとんどない。このような現状の中で、沖縄移民が日本とブラジル両国に及ぼした影響についてとりあげることは、現代社会が抱える諸課題が歴史的に形成されたものであることを知る格好の題材であり、「共生」や「異文化理解」を考える糸口になるのではないかと考えた。

実践授業を実施する2年次生は、ちょうど日本史 A の授業において、日本が近代国家として成立していく過程を学習しており、「国家」「国民」「民族」について意識が高まっている。そのため、実践授業で

は、「移民」というキーワードをとりあげながら、移民の歴史や移民の子孫(日系人)の現状、そして私がブラジルで最も衝撃を受けた「日系社会」の存在について触れ、立場を変えて共感的に学ぶ活動を通して、「共生」や「異文化理解」について考えるきっかけとしたい。

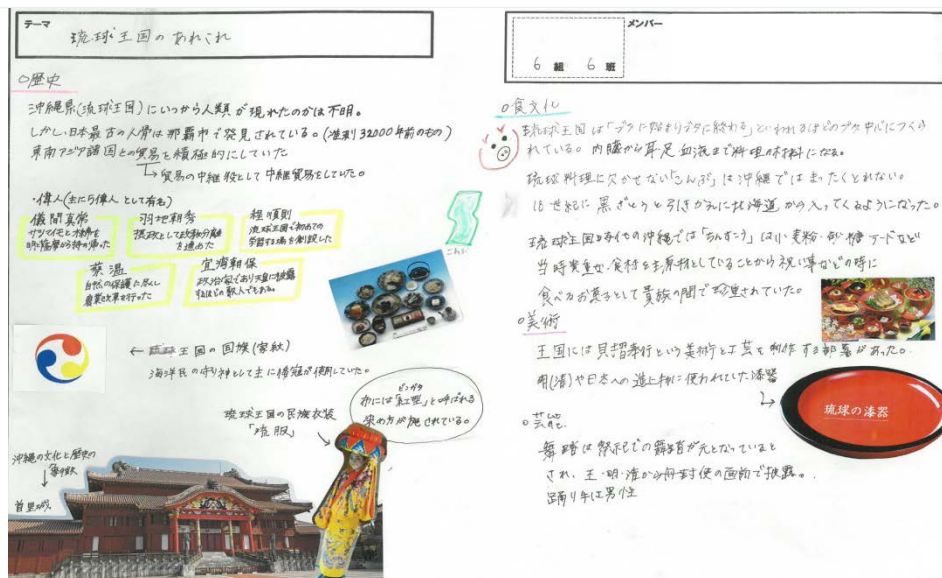
現在、欧米諸国では、「移民」が争点となるさまざまな社会問題が起きている。アメリカのトランプ大統領が「メキシコとの境に壁をつくる」と宣言したことや、イギリスが移民受け入れを争点に国民投票を行い、EUを離脱したことは記憶に新しい。一方、日本では、「移民」が体制を揺るがすほどの問題になっておらず、また、日本に定住する外国籍の人々を「在日外国人」「外国人労働者」と呼ぶため、「移民」と聞いてもピンとこない人がほとんどだ。しかし、かつて日本は多くの移民を送り出した国であり、現在ブラジルには190万人もの日系人が存在しているという事実。この事実とその歴史、そして彼らの貢献をきちんと後世に伝えることこそが、「デカセギ」という形で日本で生活する日系ブラジル人に対する偏見や差別をなくし、ともに「共生」することの大切さを実感する第一歩となるのではないか。ブラジルへの移民がはじまってから、来年で110年。この節目に生徒達が「移民」について学習することは、これまで以上に多文化共生時代となるであろう未来を生きる彼等にとって、大きな意義があると思う。多文化共生は「持続可能な社会」には欠かすことができないテーマである。この実践授業を通して、新しい学習指導要領に盛り込まれる「グローバル化」に対応する資質や能力の育成を目指すとともに、我々教員もそのような資質や能力を身に付け、教材化して実践していく必要があると思う。

この単元を実践するにあたり、以下の3つを心掛けた。1つ目は、過去の日本の移民政策にまつわる諸課題を、「世界の中の日本」という視点で捉えさせ考えさせること。2つ目は、日本史の枠だけにとどまることなく、世界史や地理の分野にも切り込み、地歴科の横断的な学習とすること。3つ目は、「自分だったら」と、共感的な学びを加えることである。

この実践を通して、生徒達が世の中で起きている物事を「我が事」として捉え、考え、判断し、問題解決のために行動できる地球市民となるよう、授業を組み立てて実践していくことが、地歴科の教員として、この研修に参加させていただいた私の使命だと考え、この単元を設定した。

#### 【4】展開計画（全4時間）

時	テーマ・ねらい	活動・内容	使用教材
0	○実践授業の導入 修学旅行の事前学習の一環でもあるため、事前に実施した関連ある活動をまとめました	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 「ブラジル認識度アンケート」に回答する。               <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「ブラジルは遠い」「日本とあんまり関係ない国」と回答した生徒が多かった。</li> </ul> </li> <li>◆ ブラジルと沖縄をイメージしたコラージュを作成する。 沖縄への修学旅行の事前学習の一環として作成させたため、「なんでブラジル？」と不思議がる生徒が多数であった。</li> <li>◆ 「沖縄の歴史」に関する調べ学習、新聞づくり、発表活動               <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「沖縄移民の歴史」を調べた班の発表を聞き、「沖縄からブラジルに移民した人々がいた」という事実を共有した。</li> </ul> </li> </ul>	



修学旅行の事前学習で作成した壁新聞

<p>1</p> <p>○先生が行ってきた「ブラジル」ってどんな国？</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● ブラジルの基礎知識を学び、ブラジルに関心をもつ</li> <li>● ブラジルの多様性の中から、日本とのつながりを意識する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 事前に実施した「ブラジルのイメージ」に関するアンケート結果と、作成したカラーージュを活用して、ブラジルのイメージをクラスで共有する。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 生徒達は「サッカー」「サンバ」「黒人」というイメージをもっていることが分かった。</li> </ul> </li> <li>◆ ブラジルに関する基礎知識を確認する。（国の位置・時差・首都・国旗・言語・歴史など） <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 生徒達にほとんど基礎知識がないということが分かった。</li> </ul> </li> <li>◆ 実践者が現地で撮影した写真を見て、ブラジルへの興味関心をひろげる。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ アマゾン川の合流地点の写真やシュラスコ（食べたことがないと言う生徒多数）に興味津々であった。</li> </ul> </li> <li>◆ カラーージュの写真でフォトランゲージを行い、ブラジルの多様性を知る。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 先入観から黒人に目が向く生徒が多い中、日系人の写真から、日本とブラジルのつながりに気付いた生徒がいた。</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自作アンケート</li> <li>・生徒作成のカラーージュ（ブラジル編）</li> <li>・生徒作成のカラーージュ（沖縄編）</li> <li>・現地で撮影した写真</li> <li>・地球儀</li> <li>・自作プリント①</li> </ul>
<p>2</p> <p>○「移民」の歴史</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● ブラジルへの移民の歴史を、日本国内だけの現象と捉えるのではなく、世界の動向と絡め、「世界の中の日本」という視点で捉える</li> <li>● 移民に関する写真と音楽から、ブラジルに渡った人々の生活がどのようなものであったかを知る</li> <li>● ブラジルと沖縄の深い関係性に気付く</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 前の時間に気付いた「日本人ぽい人」について、アニメ動画「100年前のブラジルにタイムスリップ！」を見て、ブラジル移民の歴史を理解する。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ アニメの内容を確認する。</li> <li>・ 移民の歴史的経緯を、日本史の授業で得た知識とともに、世界史や地理と関連させて考察する。</li> </ul> </li> <li>◆ ブラジル移民に関する写真と音楽から、ブラジルに渡った人々がどのような境遇であったかを読み取る。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 移民がおかれていた状況について、フォトランゲージを行い、移民の生活を知る。</li> <li>・ 曲を通して当時の人々に思いを馳せ、生徒達が「あんまり関係ない」と認識している沖縄とブラジルをリンクさせる。</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アニメ動画「100年前のブラジルにタイムスリップ！」</li> <li>・フォトランゲージ用の写真（コーヒー園での労働の様子）（大木と移民）</li> <li>・BEGIN「帰郷」の音源と歌詞</li> <li>・自作プリント②</li> </ul>
<p>3</p> <p>○「日系人」って？</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● ブラジルでの日系人の評価を考察する</li> <li>● 移民の「陰」と「陽」を知り、両面性を理解したうえで判断する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ ブラジルにおける「日本からの移民」と「その子孫（日系人）」の評価を考察する。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「リオオリンピックの開会式の映像」で、映像ランゲージ。日系人が紹介されたことの意味を考える。</li> <li>・ 大村智さんがノーベル賞授賞式でスウェーデン王妃と話した内容から、日系人の活躍の分野を知る。</li> <li>・ 「ジャポネース・ガランチーノ」の意味を考える。</li> </ul> </li> <li>◆ ブラジル以外の移民先では、どうなのだろうか。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「世界のウチナーンチュマップ」から、沖縄移民はブラジルに一番多く、ブラジル以外の世界にも雄飛している状況を</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・リオオリンピック開会式の映像</li> <li>・現地で撮影した写真（シュラスコ・フェイジョータ、満生さんの畑）</li> <li>・「世界のウチナーンチュマップ」</li> <li>・ブラジルへ入</li> </ul>

		<p>読み取る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>宮沢さんの「島唄はアルゼンチンでヒットした」というエピソードを振り返る。</li> <li>ボリビアの「オキナワ」を紹介する。</li> <li>教科書p79(第一学習社『高等学校改訂版日本史A 人・くらし・未来』)から、ハワイの移民に注目→ハワイの空港名が「ダニエル・イノウエ国際空港」に変更されたことから、ブラジル以外の国での日系人の評価を意識する。</li> </ul> <p>◆ 移民の「陰」と「陽」を知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ドミニカ訴訟の例を挙げ、必ずしもすべての移民が成功したわけではないことにも触れる。</li> </ul> <p>◆ 「自分がケンイチだったら何ができる？」について、それぞれの立場で考え、友達と意見交換する。(ケンイチは、アニメ映画『100年前のブラジルにタイムスリップ!』の登場人物で、静岡県浜松市の中学生。)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>発表する際は、必ず理由を述べる。</li> </ul>	<p>植した国別人口表</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ボリビアの「オキナワ」の地図</li> <li>ダニエル＝イノウエの写真</li> <li>自作プリント③</li> </ul>
<p>4 本時</p>	<p>○18個目のSDGsをつくってみよう!</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「自分だったら…」と共感的に考える</li> <li>地球市民としての自覚を育てる</li> </ul> <p>○本時のまとめを書くことで、これまでの移民学習を振り返る。</p>	<p>◆ 前の授業で発表した友達の考えを再度クラスで共有する。</p> <p>◆ 「自分がファビオだったらどうして欲しい？」について考え、友達と意見交換する。(ファビオは、ケンイチが在籍する中学校にブラジルから転校してきた。日本語が分からない設定。)</p> <p>◆ ケンイチとファビオの立場にたち、(まだSDGsが何なのかを説明せず)17のSDGsの中で「どれが最も大切か？」を、グループで考えてカードを一つ選び発表する。</p> <p>◆ SDGsについて知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ピコ太郎の動画を見て、世界で目指す目標にはどんなものがあるのかを確認する。</li> <li>あまりピンとくるものがないようであった。</li> </ul> <p>◆ 2人の立場にたって考えたことを踏まえて、「移民」に関する18個目のSDGsを作成する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ロゴやキャッチフレーズで表現する。</li> <li>短時間であるが、出来上がった作品を紹介する。</li> </ul> <p>◆ 沖縄の歴史に「移民の歴史」があることを再確認し、修学旅行で南風原文化センターへ行く意義を見出す。</p> <p>◆ 本時のまとめ・感想を記入させる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>SDGsのカード</li> <li>生徒作成のコーラージュ(沖縄編)</li> <li>生徒作成の壁新聞</li> <li>ホワイトボード</li> <li>クーピー</li> <li>自作プリント④</li> </ul>
<p>0</p>	<p>○南風原文化センター見学</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>見学することで、「沖縄移民」について理解を深める</li> </ul>	<p>◆ 南風原文化センターを見学しながら見学記録シートを記入することで、これまでの学びを振り返り、移民学習の総まとめとする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>南風原文化センターからいただいた見学記録シート</li> </ul>

【5】本時の展開

過程 時間	学習活動	指導上の留意点(支援)	資料(教材)
導入 5分	<p>○本時の学習内容を確認する。</p> <p>○前回の授業で、ケンイチの立場になって考察した回答を確認し、内容を思い出す。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 前回の授業で視聴したアニメ動画の登場人物になって、「自分だったら…」という視点をもって「移民」を通して「共生」について考察していくことを告げる。</li> <li>◆ 授業の最後に、本時の学習内容を自分なりに解釈し、イラストと言葉で表現することを告げる。</li> <li>◆ 前回、生徒からでた回答を板書し、共有させる。</li> </ul>	<p>・自作プリント④</p>
展開 A 10分	<p>【「ファビオだったら…」編】</p> <p>○各自で考察した結果を、隣近所の人と発表し合い、自分の回答と仲間の回答の相違点に気付く。その際、必ずそう考えた理由を述べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 「私は、もし自分がファビオだったら、( )して欲しいと考えました。その理由は、( )です。」</li> </ul> <p>○考察を通して、同じクラスのメンバーでも、様々な考え方があり、答えは一つではないことを確認する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 自分の回答と仲間の回答を比較させ、多様な価値観・感じ方があることを尊重し合い、考察していくことを告げる。</li> <li>◆ 生徒の考察結果を板書する。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 視点が異なる回答が複数出たら、グループ分けする。</li> </ul> </li> <li>◆ 逆の立場にたつと、どのように感じるのかを体感させる。</li> <li>◆ グループ内で、「ケンイチ」と「ファビオ」に分かれるように指示を出す。</li> </ul>	
展開 B 20分	<p>【SDGsについて】</p> <p>○グループで、ケンイチとファビオのそれぞれの立場にたち、「どのカードが一番大事だと思うか(一つ選ぶ)」について話し合った後、グループとしての考察結果を発表する。その際、必ず理由を述べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 「私たちのグループは、ケンイチまたはファビオの立場にたつて( )を選びました。その理由は、( )です。」</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ グループごとの考察結果を板書する。</li> <li>◆ 回答を見出すことができなかったグループがあってもよいことを告げる。</li> </ul>	<p>・SDGsのカード</p> <p>・SDGsの動画</p>



「そういう考え方もあるのね！」



「このカードは一体何なんだ!？」



まとめ OSDGs の内容と設定された意図を理解する。  
 15分 ○「もし、自分だったら…」という視点にたち、自分なりの SDGs を作成する。  
 ○世界の「移民」にまつわる諸情勢に関心を持ち、世の中で起きていることを我が事として捉え、考える力を養う。



「おっ、その意見、いいね！」



「18 個目の SDGs をつくろう！」

○本時のまとめを記入することで、これまでの学習を振り返る。

- ◆ このカードが SDGs であることを告げ、SDGs の説明をする。
- ◆ 自分なりの SDGs を作成することで、地球市民としての自覚を芽生えさせる。
- ◆ SDGs を作成することで、本時の学習への理解を深めさせるとともに、次に挙げる移民学習の意義を学びとらせる。

①沖縄の歴史の中に、「移民の歴史」があり、現在のブラジルと日本の関係を知る上で欠かすことのできない歴史であること。

②「自分だったら…」という視点で世界の諸問題に対して自分なりの考えを持ち、行動することの大切さ。

③「共生」・「異文化理解」は外国とのことだけではなく、すぐ隣に座っている友達と暮らしていくことにも当てはまるということ。

- ◆ 修学旅行で、南風原文化センターを見学する意義を見出させる。
- ◆ 本時のまとめ・感想を記入させる。

・生徒が作成したコラージュ(沖縄編)  
 ・生徒が作成した壁新聞

## 【6】本時の振り返り

「自分だったら…」という共感的な学びを通して、「共生」や「異文化理解」について考えることを、この時間のねらいとした。それぞれの立場にたつて SDGs を選ぶ場面では、「ケンイチはこれだよね!」、「ファビオはブラジルから来たんだから、ブラジルにはこういうのが必要じゃない?」などと、様々な意見が飛び交い、白熱した議論が展開された。意見が対立したグループもあったが、お互いの意見に耳を傾け、納得するまで話し合い、グループとしての見解を導き出すことができた。それぞれのグループが選んだ SDGs を並べ、「色々選んでくれたね。でも、先生は、移民に関して、これだ!と思うものがないんだよね。だから、みんなだったら、どれを選ぶか教えてもらいたかったの。」と切り出し、「これまで学習したことを踏まえて、移民について自分なりの18個目のSDGsをつくらせてみよう!」と呼びかけると、生徒たちはそれぞれ自分なりのSDGsをつくりはじめた。時間内に完成させることはできなかったが、作業に取り組む様子から、生徒たちなりにこの実践授業を「解釈」していることが感じられた。

## 【7】単元を通した生徒の反応/変化

生徒が作成した「18 個目の」SDGs の一部作品



男子生徒



女子生徒

## 【単元を通し変容した生徒の態度や学習意欲】

この実践をするにあたり、生徒たちからは「どうせ先生がブラジルに行ったからやらなきゃならないでしょ!」、「私たちを実験台にするでしょ!」という批判的な発言が多く、生徒たちに「何のためにこの授業をするのか」を納得させることから始まった。この実践が「修学旅行の事前学習の一環」という意味合いがあったため、生徒たちは「なんで沖縄の事前学習なのに、ブラジルのことを勉強するの?」と不思議がりながらも、コラージュ作成や調べ学習に取り組んだ。

最初の授業の中で、「あなたのグループは、日本とブラジルの関係をどう思いますか?」という質問に対し、すべてのグループが「遠い」と回答した。その理由は、国同士の関係というよりは、地理的な面でのイメージが先行しており、このように回答したことがわかった。それ程、この実践をはじめた頃の生徒たちには、「ブラジルと日本」の歴史的なつながりや、両国の間を繋ぐ「日系人」の存在について、知識がなかった。

実践をはじめた頃、丁度日本史 A の授業で「松方財政」や「琉球処分」について学習しており、「移民」と当時の日本の状況とを重ねて捉えることができたと思う。

生徒の変化を感じられたのは、3 回目に実施した『「日系人」って?』の授業で、日系人の功績について学習した時である。ブラジルの例としては、山梨県出身のノーベル賞受賞者大村智さんの授賞式でのエピソードを挙げ、この他に、ハワイの例（空港名変更）を挙げた時、「へえ、すごいじゃん!」という発言が多くあり、生徒たちが関心をもったことが窺えた。

公開した実践授業 4 回目では、「自分事として考える」という共感的な学びの中で、自分と違う意見にも耳を傾け、話し合う活動を通して、以下のような感想をもつ生徒がいた。

- ・他人事と思わず、皆で手を取りあうことで皆が幸せになれると思うし、思いやる心が大切なんだと改めて感じた。
- ・今日の授業では、自分の意見を言うことが多く、他の班と違う意見だったり、同じ班の中でも違う意見の人がいておもしろかった。
- ・自分と違う意見で、共感するところもあった。

・マークで表すのは難しいけど、いい経験だと思った。今後、国際のことをもっと知りたいと思う。外国の問題のことについても関心もちたい。

・SDGs というものをはじめて聞いて、あたり前みたいな事もあるけど、今の世界をみるとできていないことばかりなのかなと思った。

・私も国際目標が達成できるよう、貢献したいと思う。

最初は「やらされ感」があったことは否めないが、この感想を見ると、今回の実践から生徒たちは「普段の授業では学ぶことができないことを学びとり経験できた」と確信した。

## 【途上国・異文化への意識の変容】

(授業前)

### 【実践者】

本校は県内他校と比べて、外国籍の生徒が多く在籍している。そのため、開発教育の実践を通して、生徒たちに「共生」や「異文化理解」の大切さを伝えていくことは、急務であると感じる。また、このような環境で勤務する我々教員も、開発教育の手法を学び、果敢に実践していく姿勢が求められていると強く思い、この研修に参加した。

### 【生徒】

生徒たちの様子を見てみると、外国籍の生徒を特別視することなく、仲間の一員と認識して生活しており、生徒たちの間では「共生」や「異文化理解」が成立しているように見える。その理由としては、「足が速い」や「母国語がしゃべれる」といった「自分とは違う能力をもつ存在」として受け入れており、「外国籍の生徒はかわいい子やかっこいい子が多い」という羨望もあるようだ。他県ほど、生徒たちの身近なところでトラブルがないため、「デカセギ」と聞いてもピンとこない生徒が多いという現実がある。しかし、学年の約3分の1が就職を希望する本校において、近い将来生徒たちが社会に出たと時に遭遇するであろう事態に対応できる資質や能力を身に付けさせることが、人生最後の「学校」から巣立つ生徒を送り出す我々教員に課された任務だと思う。

(授業後)

### 【実践者】

この研修を受けるまで、「異文化」＝「外国」という先入観があったが、国内にも、そして私たちの身近なところにも「異文化」はあることを再確認した。そのため、この観点は学級経営にも応用できると改めて感じた。

### 【生徒】\* 授業後の感想より

・差別や言葉の壁をなくそうと思った。

・国は違っても心があれば通じる。

・世界全体が日本のように豊かに過ごせるようにして、日本は他の国のようにぜいたくをしないようにするべきだと思う。

## 【8】自己評価

### 1. 苦勞した点

#### ■ 実践時間の確保

すでに決まっている年間指導計画がある中、この実践を割り込ませることは、至難の業であった。年度初めに、「いつ、どのように実施するか」を決めておかないと、年度途中から実践しようとしても、時間を確保することは難しいと感じた。

#### ■ 実践環境

総合的な学習の時間やLHRの計画に、「国際」を扱う時間が設定されていると実施しやすかったのではないかと感じた（本校の2年次生の年間指導計画にはなかった）。また、同僚の先生方にも、「一緒にやりましょう」と呼びかけやすいと思った。

### 2. 改善点

- 本校は進学校ではないため、資史料の読み取りや解釈を取り入れることはしなかったが、進学校や国際コースが設置されている学校であれば、挑戦できることは多いと感じた。

- 時間の関係で、「還流」について取りあげるができなかったため、移民学習としては完結していない実践となってしまった。

### 3. 成果が出た点

- 日本史の授業の中で、「移民」を教えることができたことは、大きな成果となった。
- 生徒達が「無関係」だと思っている「ブラジル」と「沖縄」を、「移民」というキーワードでリンクさせたことで、修学旅行の事前学習にも応用することができた。

### 4. 備考(授業者による自由記述)

この研修に参加するにあたり、私には「沖縄への修学旅行の事前学習をこれまでにない切り口で展開したい」、「日本史の授業にも応用できる教材を開発したい」という大きな目標があった。そのため、「ブラジル研修を活かした実践」という観点では、「ブラジル」だけで構成した実践ではなかったため、不十分な実践であったと反省している。しかし、この研修に参加したからこそ、私自身がブラジルの日系社会を知り、その存在に大きな衝撃を受け、「地歴公民科の教員として、日系社会の存在とその歴史を伝えていくことが、この研修に参加した私の使命ではないか」との思いを強くした。今回の実践で終わるのではなく、私自身がこれまで以上に研鑽を積み、今回網羅できなかった内容を組み込みながら実践し続けることが、この研修に参加させていただいた私の役割だと思う。来年度以降、必ずなんらかの形で実践していきたい。

### 参考資料

- ・参加型学習教材『レッツスタディー！世界のウチナーンチュ』2017年
- ・参加型学習教材『CHAMPURREANDO』2012年
- ・浜下武志『沖縄入門ーアジアをつなぐ海域構想ー』ちくま新書 249
- ・「近代日本移民の歴史」編集委員会・編『ビジュアル版近代日本移民の歴史①』汐文社
- ・アニメ動画「100年前のブラジルにタイムスリップ！」浜松国際交流協会 HP より  
[http://www.hi-hice.jp/doc/aboutus/tomoiki\\_anime/index.html](http://www.hi-hice.jp/doc/aboutus/tomoiki_anime/index.html)
- ・『日系移民学習の理論と実践ーグローバル教育と多文化教育をつなぐー』明石書店 2008年
- ・森茂岳雄、中山京子「付論 日米博物館との連携をいかしたハワイ日系移民に関する単元開発と実践：グローバル化教育と多文化教育の結合可能性ー(学習プログラムの開発と実践)」『国立民族博物館調査報告』2002年
- ・森茂岳雄、津山直樹「ハワイ日系移民の教材づくりに関する海外スタディツアーの教育的意義ー物語論的アプローチによる大学生の自己変容プロセスの分析を通してー」『海外移住資料館研究紀要』第10号
- ・森茂岳雄、中山京子「海外移住資料館を活用した国際理解教育の授業づくりー教師研修を通してみた移民学習の可能性ー」
- ・田中泉「多文化共生時代を迎えてー日系移民問題をどう教えるかー」『広島経済大学研究論集』第24巻第4号 2002年3月
- ・『ニッケイ新聞』記事多数
- ・長谷川義史『ぼくがラーメンたべてるとき』教育画劇
- ・醍醐麻沙夫『森の夢』パウロス美術印刷会社 1979年
- ・石川達三『蒼氓』秋田魁新報社
- ・NHK取材班『総力取材！トランプ時代と分断される世界 アメリカ、EU、そして東アジア』NHK新書 520 2017年
- ・第一学習社『高等学校改訂版日本史A 人・くらし・未来』

### 本時で使用した主な資料(教材)

自作プリント③、④

本日のテーマ：「日系人って？」の巻

1) ブラジルにおける日系人の立ち位置を考察しよう！

Q. ブラジルで、日系人はどう思われているの？

●「リオデジャネイロオリンピックの開会式の映像」から、なにが分かるかな？

●大村智さんのエピソード「玉しき都の泡沫より」から、なにが分かるかな？

～（略）～ 授賞式が開かれた10日夜のノーベル・バンケット（晩さん会）では国王の姉のクリスティーナ王女、首相夫人に挟まれた席だった。話すテーマをあらかじめ考えておいたので、楽しく過ごせた。

～（略）～翌11日に王室が主催したロイヤル・バンケットでは、王が猟で仕留めた鹿が振る舞われた。これこそが本物のもてなしだと感じた。私の席はシルビア王妃と、女優のように美しいマデレーン王女の間になった。ブラジル人のお母さんをもつシルビア王妃は「ブラジルの桃は小さかったが日本からの移民が作るようになると大きくなった。勤勉で素晴らしい」とジェスチャーを交えて話してくれた。～（略）～



Q. ブラジル以外の移民先では、どういう評価なのかな？

●この2つの写真には、どんな関係があるのかな？



2) 「ケンイチ」の立場になって考えよう!

Q. 「自分がケンイチだったら何が出来る?」かな?

●私の考え

●お友達の考え



結論:

3) 「ファビオ」の立場になって考えよう!

Q. 「自分がファビオだったらどうして欲しい?」かな?

●私の考え

●お友達の考え



結論:

これにあてはめると上手に発表できるよ!



ふむふむ、そうなんだ!

私は、もし自分が( )だったら、( )と考えました。その理由は、( )です。

本日のテーマ：「ケンイチとファビオの気持ちになって、18個目のSDGsをつくろう！」の巻

1) あなたは前回の授業で、「自分がケンイチだったら何ができる？」の質問に、何と答えましたか？

→前回のプリントを見直そう！

2) 今日は、「自分がファビオだったらどうして欲しい？」を考えよう！

→前回のプリントに記入しよう！

3) グループの中で、それぞれの立場にたってカードを選ぼう！

Q. 「ケンイチ」と「ファビオ」にとって、「最も大切」だと思うカードはどれかな？

●私たちのグループの考え

・私たちのグループは、「ケンイチ」の立場にたって \_\_\_\_\_ を選びました。

その理由は、 \_\_\_\_\_ だからです。

・また、私たちのグループは、「ファビオ」の立場にたって \_\_\_\_\_ を選びました。

その理由は、 \_\_\_\_\_ だからです。

●他のグループの考え

・私たちのグループは、「ケンイチ」の立場にたって \_\_\_\_\_ を選びました。

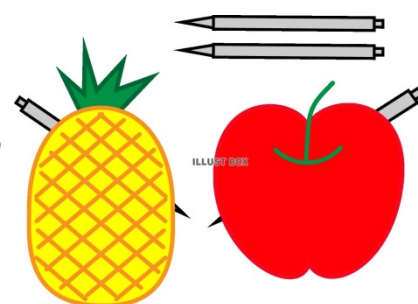
その理由は、 \_\_\_\_\_ だからです。

・また、私たちのグループは、「ファビオ」の立場にたって \_\_\_\_\_ を選びました。

その理由は、 \_\_\_\_\_ だからです。

4) この、17枚のカードは一体なんだろう？

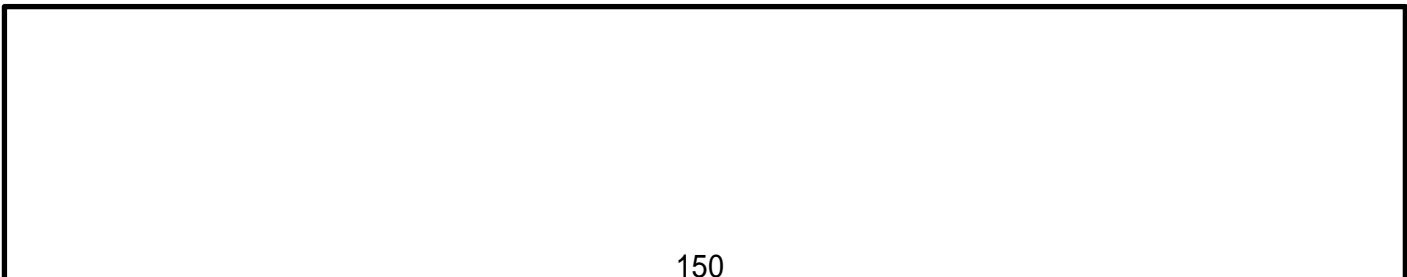
これは、 \_\_\_\_\_ といって、2001年に策定された  
ミレニアム開発目標（MDGs）の後続として、2015年  
の国際サミットで採択された「持続可能な開発のための20  
30アジェンダ」に記載された2016年から2030年  
までの \_\_\_\_\_ です。



5) 上記の考察を踏まえて、「ケンイチ」と「ファビオ」の両方の立場に欠かせないことを、「キャッチフレーズ」と「ロゴ」で表現しよう!



6) 今日の感想





# SDGs を通して 世界と繋がる

～Lesson 7 A Microcosm in the Sea～



氏名：北見 朋子

学校名：神奈川県立鶴見総合高等学校

担当教科：外国語（英語）

実践教科：コミュニケーション英語Ⅱ

時間数：11 時間

対象学年：2 年次

人数：89人（3クラス）

## 実施概要

### 【1】単元のテーマ・目標

SDGs(Sustainable Development Goals:持続可能な開発のためのグローバル目標)について知り、その具体例としてブラジルやオーストラリアが直面している様々な問題について学び、考え、その保護や自分の意見を述べる事が出来る。また、地球市民として自身を捉え、世界とどう自分が関わっていくかを考える。

### 【2】 単元の評価 規準例

(ア) コミュニケーションへの関心・意欲・態度	SDGs と国内外の問題について関心を持ち、積極的に聞いたり読んだりしている。間違ふことを恐れず自分の考えについて主張しようとしている。
(イ) 外国語表現の能力	読んだことに基づいて自分の考えを主張することができる。読んだことに基づいて自分の考えをまとめた文章として書くことができる。
(ウ) 外国語理解の能力	環境問題に関するプレゼンテーションについて概要や要点をとらえることができる。英語のプレゼンテーションの典型的な構成を理解して読むことができる。
(エ) 言語や文化についての知識・理解	世界の抱える問題を理解している。主張する表現の使い方を理解している。動詞の目的語になる if 節について基本的知識を身につけている。

### 【3】 単元設定の理由

- ✓ 児童  
生徒観
- ✓ 教材観
- ✓ 指導観

英語学習に対しては苦手意識を持つ生徒が多いが、物事への好奇心は強く、興味のあるトピックについては積極的に取り組む姿勢を見せることが多い。生徒の多くは10月に沖縄へ修学旅行に行っており、海やサンゴについてはある程度興味を持っていると想定される。また、既に教科書の別の単元で絶滅危惧種に関わる森林伐採等の環境問題についても学習している。

#### 【教材観・指導観】

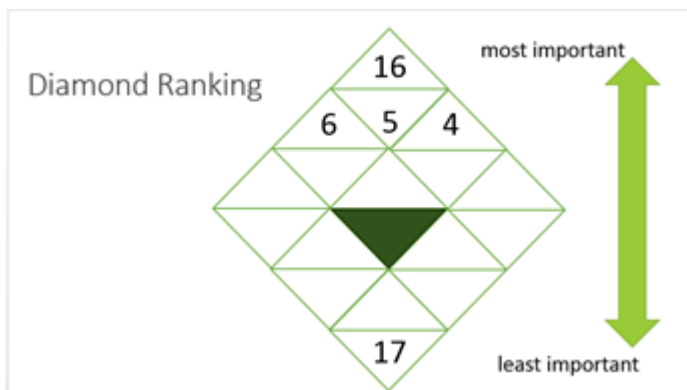
本課ではオーストラリアのグレートバリアリーフについて扱っているが、世界には他にも様々な問題が存在している。教科書の本文理解後、この問題だけでなく世界各国で起きている様々な問題、特にブラジル・アマゾンの熱帯雨林の破壊と減少について扱う。ただテキストを読み、理解するだけでなく、世界で起きている事象を「自分事」として捉えられるようになってほしい。そのために SDGs の概要と考え方を導入し、自らも地球市民であると認識し、世界の事柄について自分の意見を言えるようになってもらいたい。

【4】展開計画（全 11 時間）

時	テーマ・ねらい	活動・内容	使用教材
1	<p>○My summer vacation What is Brazil like?</p> <p>● お互いの夏休みについて話し合い、相互理解を図る。教師が夏休みに訪れた国、ブラジルについて写真や資料を通して知る。</p>	<p>◆ Conversation(“How was your summer?”という題でペアで会話練習)</p> <p>◆ Quiz(3つのヒントから教師が夏休みに行った国を当てる)</p> <p>①The country is far away from Japan. ②Portuguese is spoken in the country. ③The national flag of the country</p> <p>◆ フォトランゲージ(ブラジルの紹介)</p>	<p>・ワークシート(会話用)</p> <p>・大西洋中心の世界地図</p> <p>・写真(サンパウロの鳥居、街の様子、飛行機から見たアマゾンの熱帯雨林)</p> <p>・ブラジルの国旗</p> <p>・JICA のマーク</p>



2	<p>○What are SDGs?</p> <p>● SDGs について知る。ペアやクラス全体で互いの価値観について意見を交換し、共通点や違いがあることを認識する。</p>	<p>◆ Conversation(“What is the most important thing in your life?”という題でペアで会話練習)</p> <p>◆ Introduction of SDGs(SDGs とは何か、誰のためのものか、なぜ作られたのか英語での説明を聞き、それについて学ぶ。)</p> <p>◆ Picture Matching(SDGs の英語及びイラストを見て、それに合う日本語を選ぶ。)</p> <p>◆ Ranking(SDGs の 17 目標を見て、世界にとって重要だと思う順を個人で考え並べる。)</p>	<p>・ワークシート(会話用)</p> <p>・ワークシート(ランキング)</p> <p>・SDGs についてのパワーポイント</p>
---	---	---	---



3~4	OSDGs Goal 14	◆ Review & Introduction of SDGs(生徒と英)	・All Aboard! English
-----	---------------	---------------------------------------	----------------------

	<p>Life Below Water</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● SDGs の目標 14 「海の豊かさを守ろう」の例として、オーストラリアのグレートバリアリーフのサンゴの生態について知る。</li> </ul>	<p>語でやりとりしながら、SDGs の概要・目的について復習する。Goal 14 Life Below Water を取り上げ、その具体例について考え意見を出す。)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆ Introduction of the Great Barrier Reef &amp; Corals</li> <li>◆ Listening</li> <li>◆ Vocabulary</li> <li>◆ Reading Comprehension</li> <li>◆ Explanation</li> <li>◆ Reading Aloud</li> <li>◆ Extra Reading (サンゴの生態についてインターネットで調べた英語の記事を読み、内容を共有する。)</li> </ul>	<p>Communication II</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ワークシート(内容理解)</li> <li>・単語カード</li> <li>・SDGs カード</li> <li>・写真(沖縄とオーストラリアの海、サンゴ)</li> <li>・サンゴの生態についてインターネットの記事</li> </ul>
<p>5~6</p>	<p>○SDGs Goal 6 Clean Water and Sanitation</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● サンゴの白化と将来起こりえる問題について学ぶ。また SDGs の目標 6 「安全な水とトイレを世界中に」と関連付けながら、その原因を考える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ Introduction of Coral Bleaching</li> <li>◆ Listening</li> <li>◆ Vocabulary</li> <li>◆ Reading Comprehension</li> <li>◆ Explanation</li> <li>◆ Reading Aloud</li> <li>◆ Extra Reading (サンゴ白化の拡大についての地図を見て、世界でのサンゴ白化の発生について知る。)</li> </ul>	<p>・All Aboard! English Communication II</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ワークシート(内容理解)</li> <li>・ワークシート(サンゴ白化の世界地図)</li> <li>・単語カード</li> <li>・SDGs カード</li> <li>・写真(カラフルなサンゴと白化したサンゴ)</li> <li>・サンゴ(実物)</li> </ul>
<p>7~8</p>	<p>○SDGs Goal 7 Affordable and Clean Energy</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● SDGs の目標 7 「エネルギーをみんなにそしてクリーンに」を元に、サンゴの白化を防ぐために私達は何をすべきか考える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ Solution to Coral Bleaching (生徒と英語でやりとりしながら、サンゴの白化に対する解決策を考える。)</li> <li>◆ Listening</li> <li>◆ Vocabulary</li> <li>◆ Reading Comprehension</li> <li>◆ Explanation</li> <li>◆ Reading Aloud</li> </ul>	<p>・All Aboard!</p> <p>Communication English II</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ワークシート(内容理解)</li> <li>・単語カード</li> <li>・SDGs カード</li> <li>・写真(サンゴ、グレートバリアリーフ)</li> </ul>
<p>9</p>	<p>○ What is important for</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ Conversation (“Which goal is the most important for the world?” という題でペア</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・SDGs カード</li> <li>・ワークシート(会話用)</li> </ul>

the world?

- SDGs の目標を見直し、各目標について意見を交わすことで互いの価値観の共有をする。また、世界における日本の見られ方を知り、自国を改めて見直す。

で会話練習)

- ◆ ランキング (SDGs の 17 目標を見て、グループで世界にとって重要だと思う順に並び、その理由を英語で考える。)
- ◆ What are the problems in Japan? (現在、日本が抱えている問題は何か全体で考える。ブラジルの高校生のアンケート回答とそれに関わる写真などを見て、感想を共有する。)

- ・ワークシート(ランキング)
- ・ワークシート(グループ活動用)
- ・世界地図
- ・アンケート結果
- ・写真(ブラジルの生徒・授業の様子、日本の街並み、工場など)



10

OSDGs Goal 15  
Life On Land

- SDGs の目標 15 「陸の豊かさを守ろう」の例として、ブラジル・アマゾンの森林破壊について学ぶ。

- ◆ Picture Matching (ブラジルという国の基本的な情報を紹介し、SDGs の 17 目標と関係のある写真、さらにそれぞれの具体例を選ぶ。)
- ◆ DVD 視聴 (ブラジルの熱帯雨林破壊についての DVD を視聴する。ペアで内容理解の確認をする。)
- ◆ 熱帯雨林の破壊と日本との関わり (日本の食生活とブラジルの熱帯雨林の破壊の関わりを紹介し、自分と問題の繋がりについて考える。)
- ◆ Writing (今日の話聞き、感じたことを意見としてまとめる。)

- ・SDGs カード
- ・写真(ブラジルの人々、チエテ川、オンドリンパ事業、東洋人街など)
- ・動画(ラジオ体操・盆踊り大会)
- ・DVD(アマゾン熱帯雨林の破壊)
- ・ワークシート(アマゾン熱帯雨林について)



A little introduction to Brazil



○What can we do for the world?

- ブラジルが抱えている問題を知り、そのために日本が出来ることを考える。改めてSDGsのランキングを見直し、世界のためには何が大切か、またそのために自分が出来ることを考え、発表する。

◆ What are the problems in Brazil?(ブラジルの高校生・教師からのアンケート回答を元に、ブラジルが抱えている問題にはどんなものがあるか知る。)

◆ ・フォトランゲージ(ブラジルが抱えている問題や解決のために取り組んでいる写真を提示し、SDGsとどのように関わっているか考えさせる。)

◆ ・Writing(自分が大切だと思う目標とその理由、さらに自分が世界のために出来ることを個人で考え、英語でまとめる。)

◆ ・Group Presentation(ライティングで書いた英語をグループ内で発表する。)

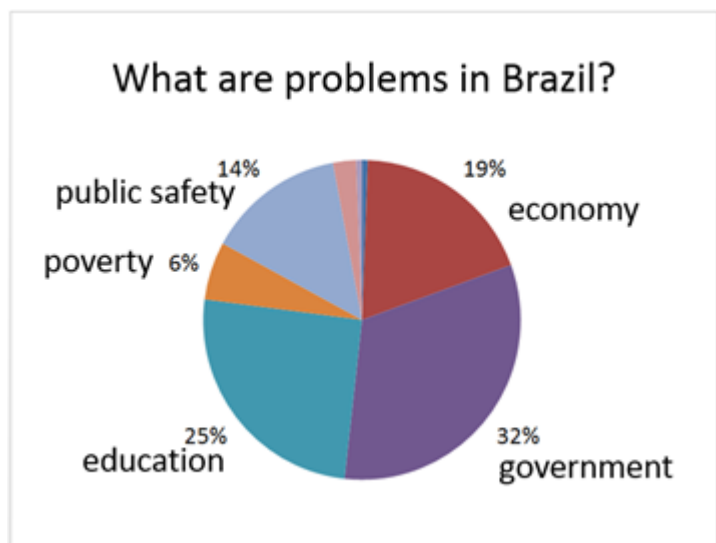
- ・アンケート結果
- ・写真(街、学校、人など)
- ・動画(英語のインタビュー)
- ・ワークシート(ランキング)
- ・グループ用ワークシート(SDGsランキング)

【5】本時の展開

過程時間	学習活動	指導上の留意点(支援)	資料(教材)
導入 10分	<ul style="list-style-type: none"> <li>○Greeting、Take attendance</li> <li>○Review</li> <li>○アンケート結果</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 挨拶・出席確認をし、生徒の様子や変化を観察する。</li> <li>◆ 前時で学んだ内容を簡単に復習し、本時の学習内容に関連づけさせる。</li> <li>◆ ブラジルの学生(高校生)と教員から得たアンケートを元に、ブラジルが抱えている問題について知る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・写真(ブラジルの国旗、アマゾン河)</li> <li>・ワークシート(アンケート結果)</li> </ul>



ブラジルの学校で行ったアンケート



クラスで提示したパワーポイント

<p>展開 25分</p>	<p>○フォトランゲージ</p> <p>○Writing</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● “What can we do for the world?” (グループ)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ ブラジルが抱えている問題やその対策に関する写真を提示し、SDGs とどのように関わっているか考えさせる。生徒に問いかけながら、発言を促す。</li> <li>◆ 改めてランキングを見直し、その理由と世界のために自分が出来ることを個別で考え、英語でまとめる。使用可能な表現は事前に提示し、生徒が英文を作りやすくなるよう支援する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・写真(ブラジルの街、学校、アマゾン河等)</li> <li>・動画(ブラジルの高校生による英語のインタビュー)</li> <li>・ワークシート(ランキング) グループ用ワークシート (SDGs ランキング)</li> <li>・ワークシート(Writing)</li> </ul>
<p>まとめ 15分</p>	<p>○Group Presentation</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● “What can we do for the world?” (発表)</li> </ul> <p>○Consolidation</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 自身が大切だと思う目標やそのために出来ることについて、グループ内で英語で発表する。</li> <li>◆ 授業全体の振り返り、課題の確認、あいさつ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ワークシート(Writing)</li> </ul>

Do you think Brazil is developed?



フォトランゲージで使用了した写真



フォトランゲージ



自分たちに出来ることを英語で考える



グループでの発表を行う様子

## 【6】本時の振り返り

本時では、最初にブラジルで行ったアンケートの回答を扱ったが、外国に住む同世代の人々がどんなことを考えているか非常に興味を持っている様子であった。ブラジルで撮影した写真や動画を提示し考えさせる活動では、多くの生徒がブラジルと日本の共通点や違いに気づき、生徒なりによく考え、教師の問いかけに答えようとしていた。後半のライティングでは、これまでペアやグループで考えてきたことを個人で改めて考え、既習の表現を用いながら一生懸命取り組んでいた。まとめの発表では、これまで話し合ってきたメンバーとは異なるメンバーのグループを作ることで、別の生徒とも意見交換することができ、新たな発見を楽しんでいる姿が見受けられた。

## 【7】単元を通した生徒の反応/変化

### 【生徒からの感想】

- ・同じ地球にいるみんなの問題だと思いました。何年後、地球がだんだんボロボロになっていくと思うと自分もできるかぎりの事をするべきだと思いました。
- ・地球全体でどこに行っても地球温暖化の問題は重要だし、ちゃんと向き合っていかなければならないなって改めて思いました。
- ・企業が自分たちの利益のために大規模な破壊をすることは良くないと思う。自分に出来ることがあるかどうか気になった。
- ・今までは環境の事は自分には関係ないと思っていたけれど、今回の授業で今までよりは環境について考えたいなと思いました。
- ・環境破壊はその国だけで見えるのではなくて、地球全体で見えるべきではないかと思った。自然があるから人は生きていけているんだから1人1人が自然について考えるべきだと思った。
- ・他国の問題だけど回りまわって自分にくと聞いてとても驚いた。この地球の自然を守るために自分にできることがあれば、どんな小さなことでもやるべきだと思った。
- ・ブラジルの森が焼かれていても自分たちの生活にはあまり関係ないと思っていたけど自分が思っている以上にブラジルの森が焼かれることは生活に関係することなんだと思いました。
- ・今まで食べてきたものや普段使っているものも色々なものから成り立っていると知った。環境を壊しているのは一部じゃなくて地球全体で壊しているんだなと思った。今日の授業で事の重大さを知りました。
- ・最初に動画を見た時は大変な問題だけど自分にはあまり関係ないと思ったけど、その後の話を聞いて自分も食べたことのある物や身近な食べ物に森林を無くして作られた畑の物が関わっているかもしれないと感じて、少しこのことに対する見方が変わった。

### 【単元を通し変容した生徒の態度や学習意欲】

これまでの授業でSDGsについて知り、世界の諸問題やそれに対する取り組みを学んできた。生徒は世界で起きている事柄と自分が繋がっていると感じ始め、それらについて自分に何が出来るかを積極的に考えるようになっていた。授業内の表情や発言、ワークシートの感想などから、世界の問題に対して自分がこれからどう向き合っていくか真剣に考える姿が次第に強くなっていく様子が見られた。外国の問題が「他人事」ではなく、「自分事」に近づいたことは、大きな変化だと思われる。

さらに、ペアワークやグループワークの中で他の生徒と意見や価値観を共有することにより、他者との共通点や違いの存在を認識し、それを前向きに受け入れている様子がよく見られた。他の生徒や外国との相違に気づくことで、改めて自分の文化や考え方も見直すことができ、生徒の精神面での成長や他者理解における寛容さの変化を見ることが出来た。

### 【途上国・異文化への意識の変容】

(授業前)

本校には外国につながる生徒(外国籍の生徒や日本国籍であるが両親のいずれかが外国籍で外国につながるのがある生徒)が多く在籍しており、また外国や他文化に興味を持つ生徒も比較的多い。しかし、多くの生徒が関心を持っているのはアメリカやイギリスのような英語圏、または韓国などの日本から近い国々がほとんどである。発展途上国や日本から馴染みの

薄い国や文化については強い興味を持っている生徒は多くない。

(授業後)

今回の授業ではブラジルの基本的な情報をはじめ、現地で撮影した写真やビデオを提示しながら、日系社会やブラジルが抱える問題などを授業で扱った。生徒はこれまでほとんど関わりの無かったブラジルという国の様子に非常に強い興味を持ちながら話を聞き、活動に取り組んでいる様子が見られた。

授業後、生徒に行ったアンケートでは、今まではブラジルというと「自然」や「日本から遠い国」といったイメージしか無かったが、サンパウロのような大きな街が存在していることや、日系社会をはじめ、盆踊りやラジオ体操など様々な日本文化が伝わっていることに驚いたと多くの生徒が答えていた。地球の反対側で日本よりも日本らしいことをしていると知り、自国の文化を見つめ直すきっかけとなったという意見もあった。

ブラジルの学校で行ったアンケートの回答も、日本の生徒にとって興味深いものだったとの声が挙がっている。同世代のブラジルの学生が自国や世界に対してどのようなことを知っており、また考えているのかについて多くの生徒は興味があり、そこから共通点や意外性を感じたという。例えば、ブラジルが森林破壊や水質汚染などの環境問題に悩まされていることは生徒にとって予想外だったようで、外国と日本が共通の問題を抱え、1つの地球に生きているということを改めて実感したという。また、日本が抱える問題としてブラジルのほとんどの学生から「地震」や「津波」のような自然災害が挙げられたことや、日本での「社会的なプレッシャー」や「自殺率の高さ」が広く知られ、問題視されているという点については、多くの生徒から驚きの声が挙がった。

今回の授業を通して、多くの生徒がブラジルや世界に対して何らかの意識の変化があったのではないと思う。教科書や教師の話をはじめ、写真や動画を見て、クラスメイトと意見や考えを共有し、外国の生徒の意見も知ることで、外国や異文化に対して自分が知っていたことや思っていたイメージとの相違を様々な場面で感じ、見方や考え方に影響を与えたと考えられる。

## 【8】自己評価

### 1. 苦労した点

- 本研修に応募した理由の1つとして、国際理解教育の手法を学び、英語の授業内でそれを実践したいという思いがあった。これまでも授業内で環境や平和など国外の問題に関わる題材は扱ってきたものの、英語学習の一環として、かつ生徒に実感を持たせながら授業を行うことが上手く出来なかった。
- 今回参加するにあたり、教師海外研修での実践授業が単発のイベントのようにならないよう、英語教師として英語の授業内でどのように教科書内容とリンクさせ、英語を学ばせながら国際理解教育を行うかについては、授業の構想を練る段階から非常に苦悩した。何時間もの貴重な授業時間を使うため、英語学習に繋がらないものや、教科書内容と全く関係の無いものを授業で扱う訳にはいかない。さらに、生徒の興味・関心や彼らの生活と関わりの無いものを行っても、生徒は「なぜこれを勉強しなければならないのか？」と疑問や不満を感じ、結果的に教師の自己満足となってしまう。
- 本単元は、オーストラリアのグレートバリアリーフとその破壊が題材となっているが、事前研修で学んだ SDGs を軸に、オーストラリアだけでなく世界中の様々な問題や開発目標を知り、自分との繋がりを考えることで、題材がより身近なものとなり、生徒にとって意味のある学びが実現されるのではないかと考えた。また、SDGs についてペアでの意見交換、アマゾンの熱帯雨林の映像やブラジルで行った英語のインタビュー動画の視聴、自分の意見をまとめるライティングとその発表など、英語の授業として適切な活動が取り入れられているか常に意識した。「国際理解教育」として学んでもらいたい事柄と、「英語教育」としての学習をバランス良く指導に取り入れることは大変苦労したが、とても良い経験となった。



## 2. 改善点

- 今後の改善点としては、今回は本単元を11時間で行ったが、もう少し時間を多く取った方がより学びの多い授業になるのではないかと思う。上でも記した通り、今回の実践授業は英語の授業の中で行ったため、11時間には教科書の内容理解や文法・表現などの指導や練習が含まれている。教科書の内容理解後、SDGsの見直しや日本やブラジルの抱える問題を知り、今後自分が出来ることなどを考え発表したが、すべての活動に十分な時間を与えられたとは言えない。可能であれば、生徒に自分で気になったことを調べさせたり、グループでの話し合いの時間をより多く与えたり、違った視点を持たせたりすること、トピックに関するディスカッションやディベートを行うことなども学習活動としては有効で、生徒により深い学びをもたらすことが出来るだろうと思う。
- 実際は、授業数の問題や他クラスとの進度の調整があるため、すべての活動を時間に余裕を持って行うことは難しい。しかし、年度が始まる前に年間指導計画を考える際、「国際理解教育」という観点で、どの単元でどんな活動をどの位の時間をかけて行うかを十分に考える必要があると感じた。

## 3. 成果が出た点

- 実践授業では、ブラジルで見てきたことや経験したことを話し、現地で手に入れたものなどを提示すると予想以上の反応があった。特に写真や動画は、インターネットからダウンロードしたものではなく、教師自身が撮影し、また教師自身が被写体となっているものに対し、普段以上に生徒の関心が向けられていることを強く感じた。ブラジルで行ったアンケートやインタビューなども、教師が現地で実施したものや、その土地の「生の声」となると、それらが遠い国で行われている事柄ではなく、生徒にとって身近な事柄に成り得るのだということが生徒の表情や反応から分かった。
- さらに世の中で起きている事柄に対して、自分も地球市民の1人で、関わりがあるのだと感じてもらうことにも授業を考えるにあたり常に意識を置いていた。生徒に自分の価値観を見つめ直す機会を与えたり、アマゾンの森林破壊と食品企業との関わりの例を示すことで、自分も部外者ではないと感じるきっかけになるようにした。アンケートについても、対象者が生徒自身と同世代の高校生によるものであったという点が、生徒にとってよりその回答をリアルに感じてもらうことに繋がったと思う。

## 4. 備考(授業者による自由記述)

本研修では、事前研修で様々な講師の方々に国際理解教育の手法を教えていただき、実践方法を学んだ。また異文化理解や国際協力に関わる考え方やたくさんのアイデアもいただくことが出来た。早い段階から実践授業を意識し、どのように授業を行っていくか話し合うことは指導案を考え、また海外研修に行く上で非常に有益だった。

ブラジルでは、充実したプログラムを組んでいただいたおかげで、非常にたくさんのことを経験することができ、毎日期待以上の感動を受けていた。少しでも教師が受けた感動を近い形で生徒に伝えられるよう、多くの写真や動画も撮影した。また、事前に送付していたアンケートや、その場でお願ひしたインタビューにもブラジルの多くの方々が快く協力してくださった。毎日の振り返りや、中間報告会、また最終報告会でも、ここでの経験を授業にどう還元するかという点にいつも焦点を当てた話し合いが出来たため、自分が生徒に何を伝えたいのか常に意識することが出来た。

実践授業の構成を考えるにあたっては、研修に応募した年度当初から11月下旬までどのように行うべきか常に悩み、多くの方に相談させていただいた。生徒の興味関心や学習への取り組みなどの微妙な変化も考慮に入れ、授業展開を考えた。とても長く大変な挑戦であったが、この経験は今後の自身の人生において、必ず良い形で生きていくと確信している。

## 参考資料

- ・国際連合ホームページ “Sustainable Development Goals”
- ・生徒の生き方が変わるグローバル教育の実践(株式会社メディア総合研究所)
- ・開発教育協会ウェブサイト
- ・池上彰のニュースに登場する国ぐにのかけとひかり 4巻:南北アメリカ・南太平洋(さえら書房)
- ・アマゾンがこわれる(ポプラ社)

## 本時で使用した主な資料(教材)

パワーポイントスライド





Do you think Brazil is developed?



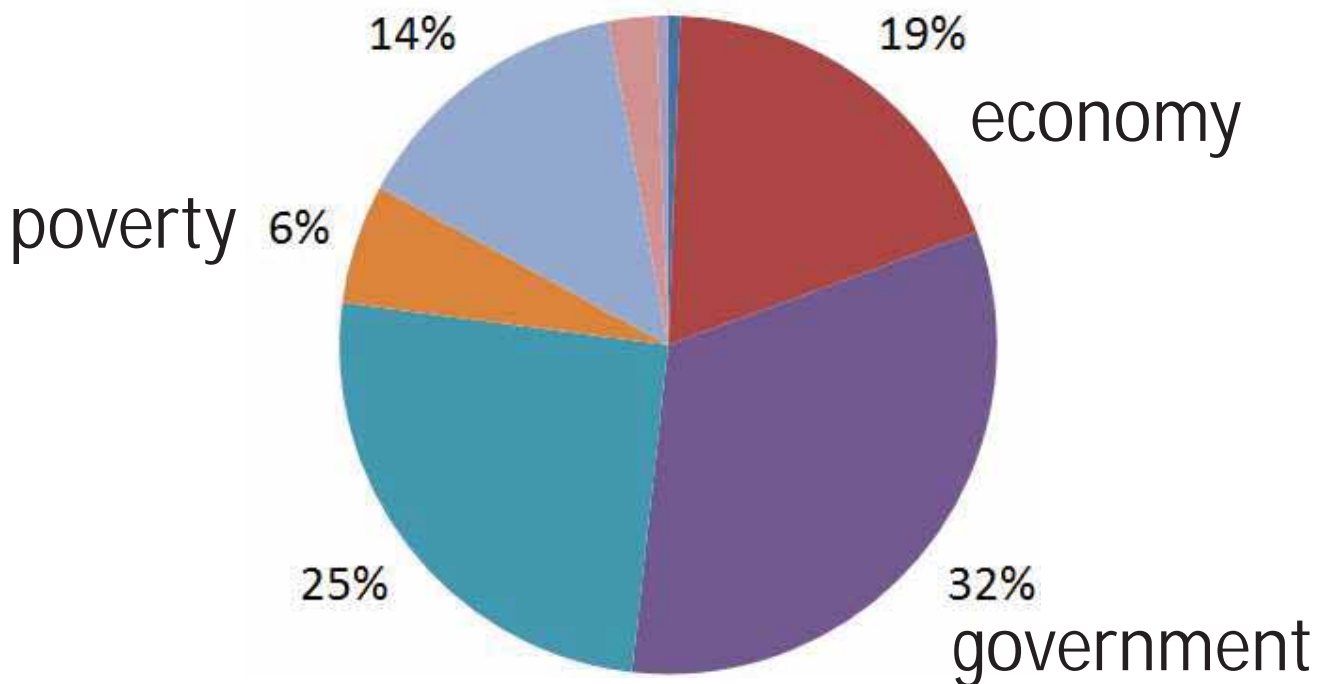
What are they doing?



# Is this a good place to camp?



# What are problems in Brazil?



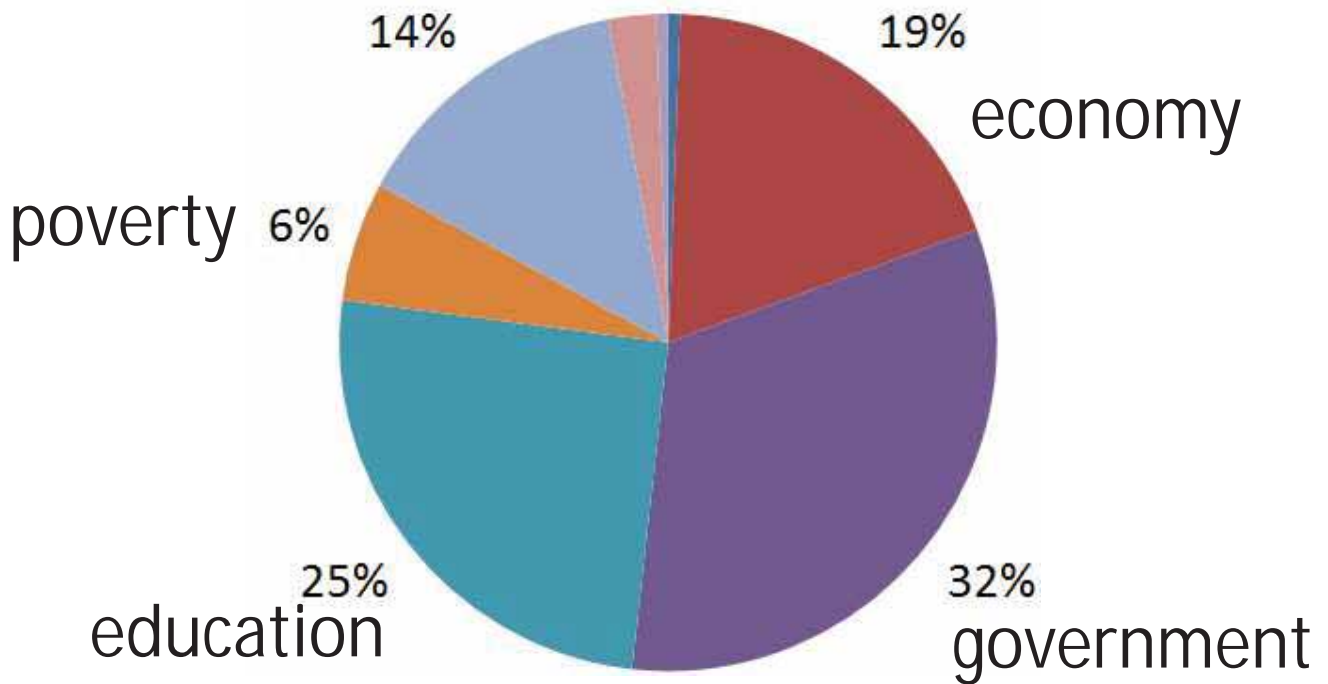
# government



What was their problem?



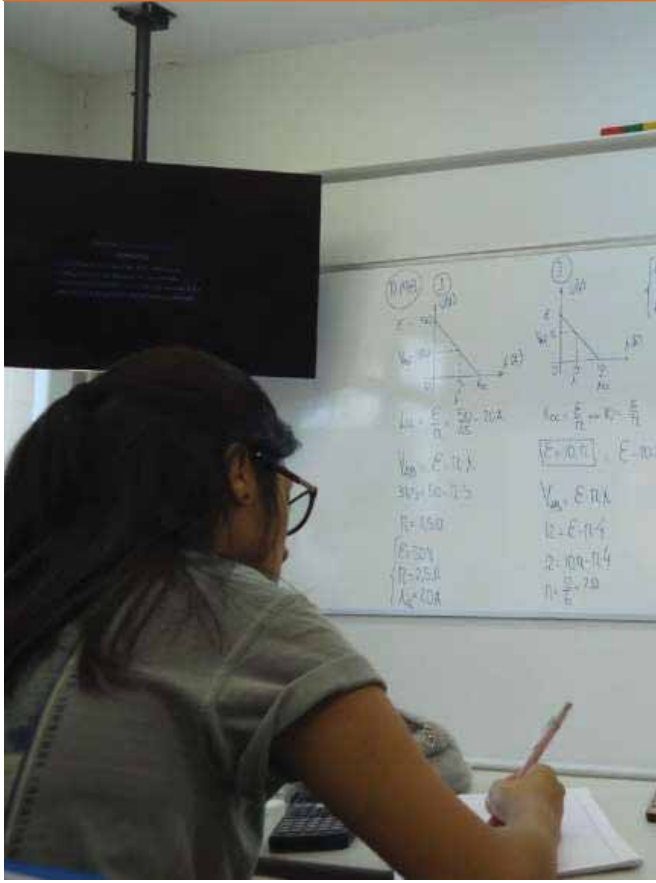
# What are problems in Brazil?



private school



public school

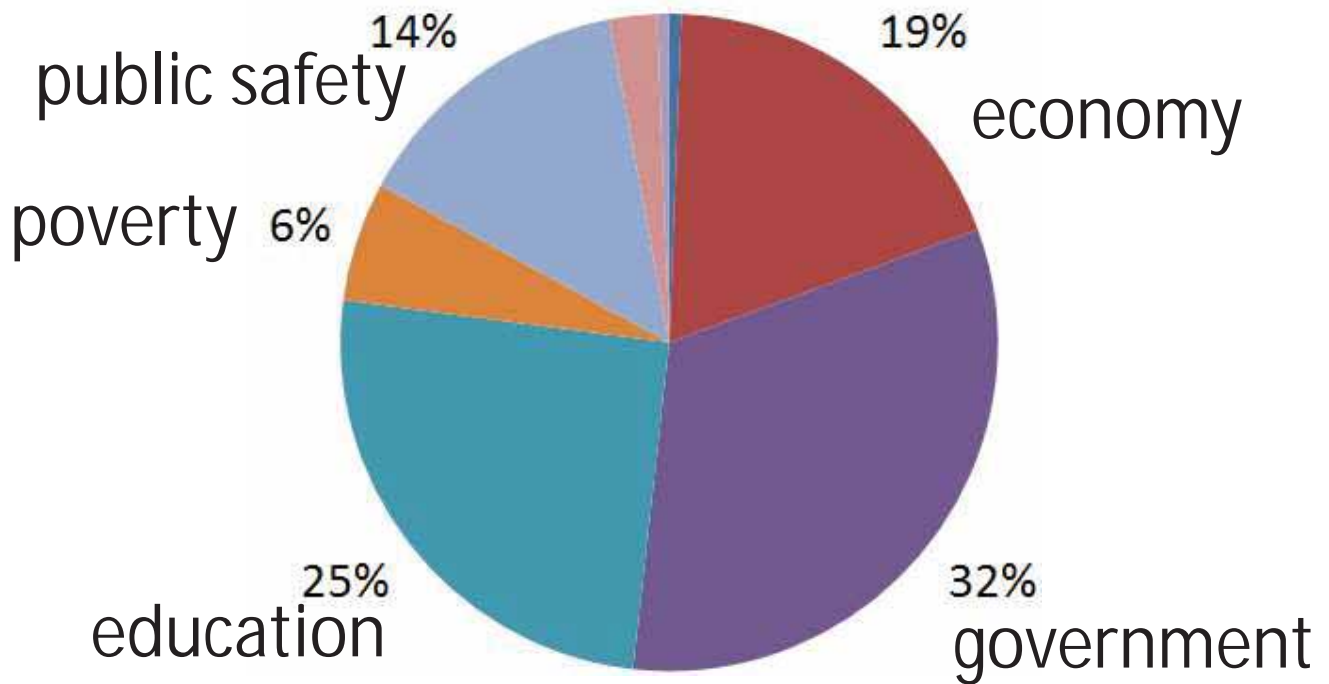


Is this school?





# What are problems in Brazil?



## What are they doing?



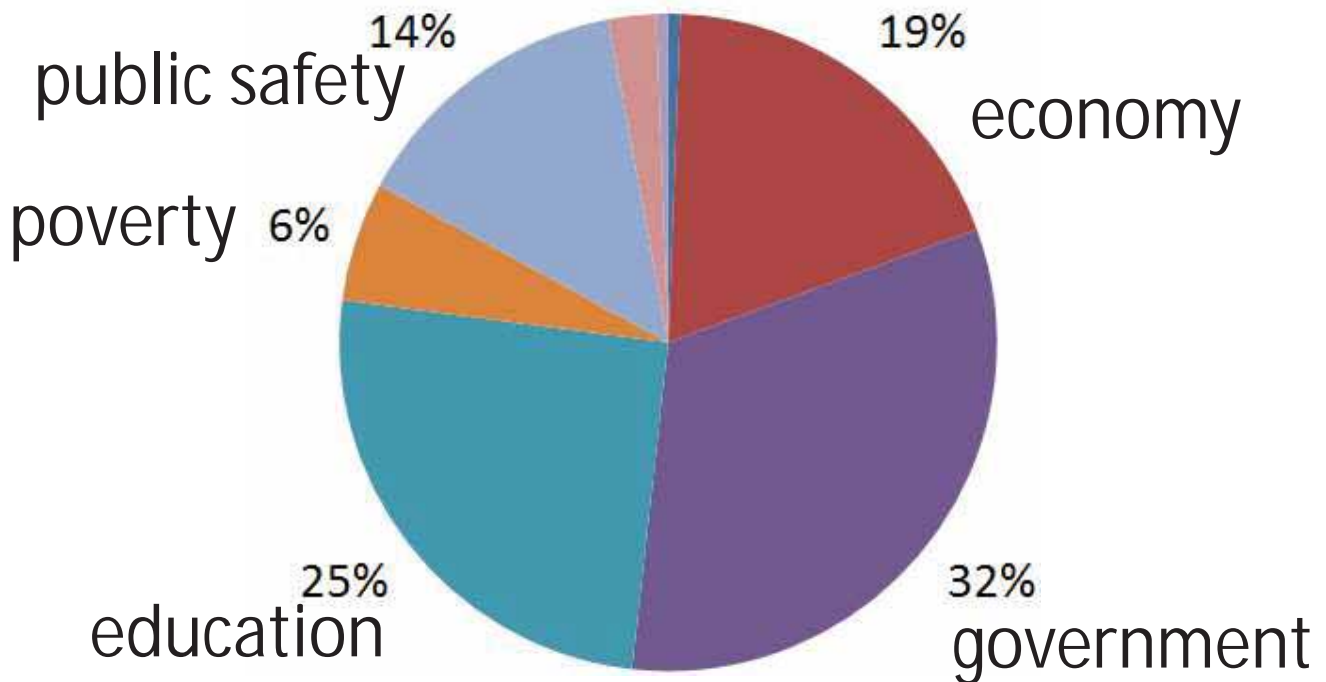
# How do you feel?



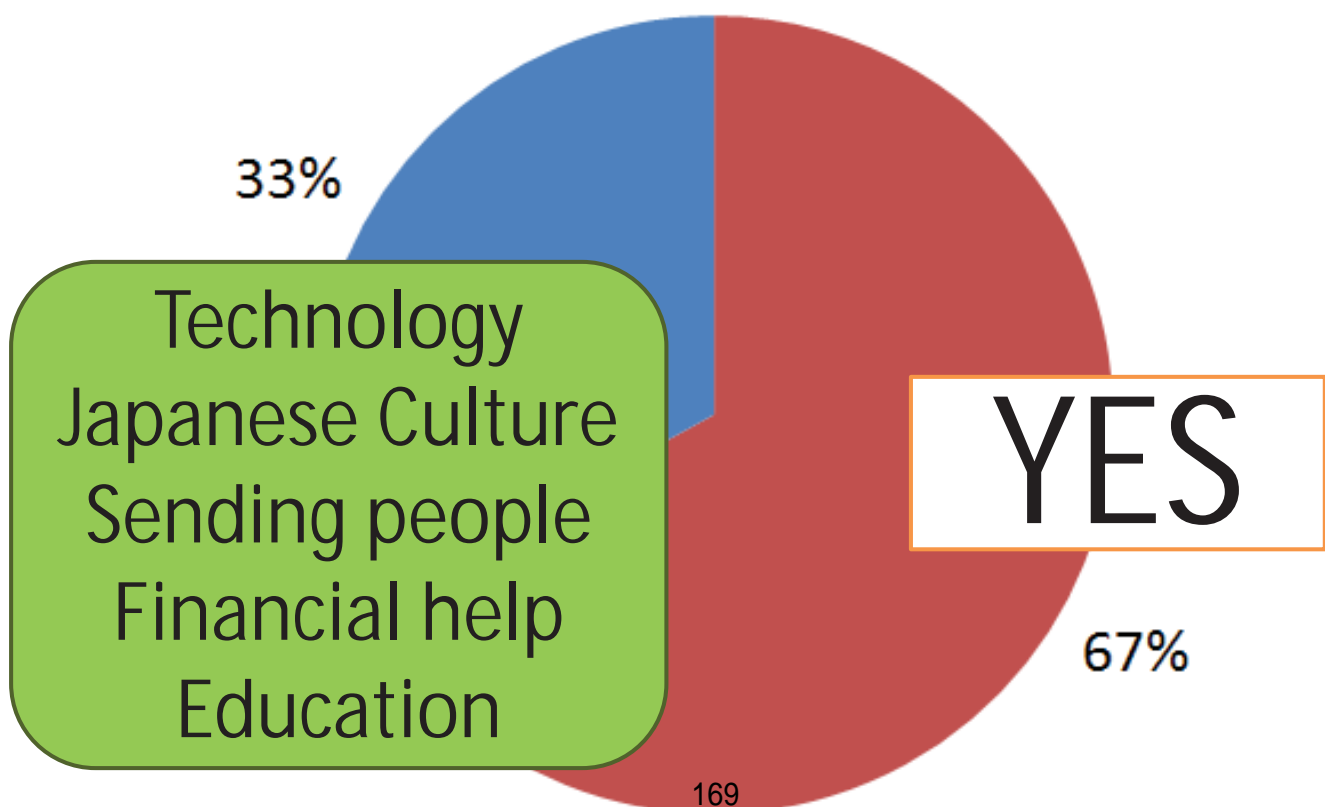
# The police cooperating with communities



# What are problems in Brazil?



# Is there anything we can do for Brazil?



What we can do may be just small things, but I believe that our small actions will make a big difference in the end.



• I think that Goal [     ], \_\_\_\_\_  
is the most important  
because \_\_\_\_\_.

• I think that Goal [     ], \_\_\_\_\_  
is the second most important  
because \_\_\_\_\_

• To make th \_\_\_\_\_  
\_\_\_\_\_.

What we can do may be just small things, but I believe that our small actions will make a big difference in the end.

# Group Presentation

**1**

**3**

**5**

**2**

**4**

**6**

# 2017年度 JICA 横浜 教師海外研修報告書



帰国直前のサンパウロ空港にて  
撮影：2017年度教師海外研修参加者

## 独立行政法人国際協力機構 横浜国際センター（JICA 横浜）

〒231-0001 横浜市中区新港 2-3-1

Tel : 045-663-3220 (直通)

Fax : 045-663-3265

E-mail : [yictpp@jica.go.jp](mailto:yictpp@jica.go.jp)

<https://www.jica.go.jp/yokohama/>

